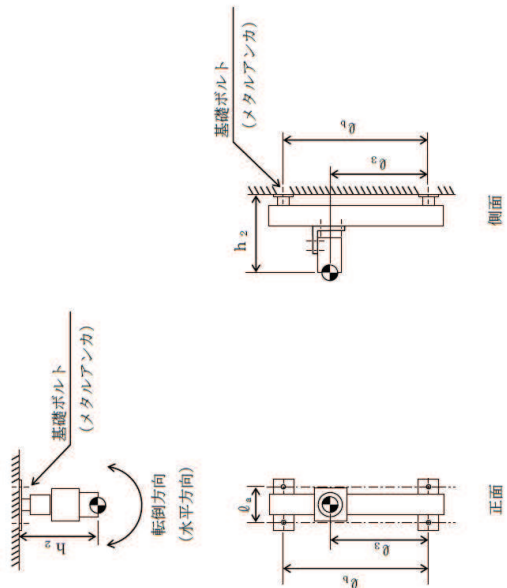
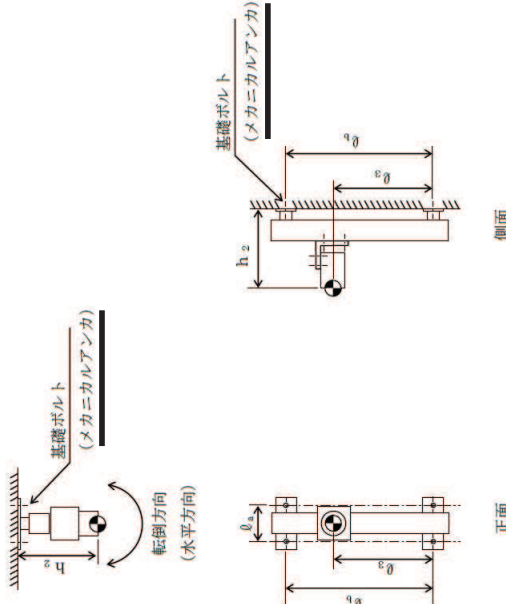


変更前		変更後		備考
表 3-1 構造計画				
<p>計画の概要</p> <p><b>基礎・支持構造</b>                      検出器は、計器取付ボルトにより取付板に固定され、取付板は、取付板取付ボルトにより計器スタンションに固定される。</p> <p><b>主体構造</b>                      弾性圧力検出器（壁に設置された計器スタンションに検出器を計器取付ボルトにより固定する構造）</p> <p>計器スタンションは、基礎に基礎ボルトで設置する。</p>		<p>概要構造図</p> <p>【圧力抑制室圧力（計器スタンション（T48-PT019））】</p>		<p>記載の適正化</p>
<p>18</p>		<p>概要構造図</p> <p>【圧力抑制室圧力（計器スタンション（T48-PT019））】</p>		
<p>計画の概要</p> <p><b>基礎・支持構造</b>                      検出器は、計器取付ボルトにより取付板に固定され、取付板は、取付板取付ボルトにより計器スタンションに固定される。</p> <p><b>主体構造</b>                      弾性圧力検出器（壁に設置された計器スタンションに検出器を計器取付ボルトにより固定する構造）</p> <p>計器スタンションは、基礎に基礎ボルトで設置する。</p>		<p>計画の概要</p> <p><b>基礎・支持構造</b>                      検出器は、計器取付ボルトにより取付板に固定され、取付板は、取付板取付ボルトにより計器スタンションに固定される。</p> <p><b>主体構造</b>                      弾性圧力検出器（壁に設置された計器スタンションに検出器を計器取付ボルトにより固定する構造）</p> <p>計器スタンションは、基礎に基礎ボルトで設置する。</p>		<p>18</p>
<p>18</p>		<p>18</p>		

変更前	変更後	備考
 <p>25</p>	 <p>25</p>	<p>記載の適正化</p>



変更前

表 1-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE012A)	S	—*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d * D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	III,S IV,S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 1-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
III,S	引張り 1.5・f <sub>t</sub>	せん断 1.5・f <sub>s</sub>	圧縮 1.5・f <sub>c</sub>
IV,S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>s</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *
			曲げ 1.5・f <sub>b</sub> 1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 1-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	171	413	205

変更後

表 1-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE012A)	S	—*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d * D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	III,S IV,S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 1-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
III,S	引張り 1.5・f <sub>t</sub>	せん断 1.5・f <sub>s</sub>	圧縮 1.5・f <sub>c</sub>
IV,S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>s</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *
			曲げ 1.5・f <sub>b</sub> 1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 1-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	171	413	205

記載の適正化

変更前

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE012S)	S	—*1	D + P <sub>b</sub> + M <sub>b</sub> + S d* D + P <sub>b</sub> + M <sub>b</sub> + S s	III,S IV,S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 3-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
	引張り	せん断	圧縮
III,S	1.5・f <sub>t</sub>	1.5・f <sub>s</sub>	1.5・f <sub>c</sub>
IV,S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>s</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 3-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R/T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	171	413	205

変更後

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE012S)	S	—*1	D + P <sub>b</sub> + M <sub>b</sub> + S d* D + P <sub>b</sub> + M <sub>b</sub> + S s	III,S IV,S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 3-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
	引張り	せん断	圧縮
III,S	1.5・f <sub>t</sub>	1.5・f <sub>s</sub>	1.5・f <sub>c</sub>
IV,S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>s</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 3-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R/T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	171	413	205

備考

記載の適正化

変更前

表 4-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類 <sup>*1</sup>	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE026A, B)	計測装置	常設/防止 常設/緩和	$D + P_D + M_D + S_S$ <sup>*3</sup>	IV <sub>S</sub>
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$	V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の 許容限界を用いる。)

注記\*1:「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3: 「D + P<sub>SAD</sub> + M<sub>SAD</sub> + S<sub>S</sub>」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 4-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)		
	一次応力		
IV <sub>S</sub>	引張り	せん断	圧縮
V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$
			曲げ
			$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更後

表 4-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類 <sup>*1</sup>	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE026A, B)	計測装置	常設/防止 常設/緩和	$D + P_D + M_D + S_S$ <sup>*3</sup>	IV <sub>S</sub>
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$	V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の 許容限界を用いる。)

注記\*1:「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3: 「D + P<sub>SAD</sub> + M<sub>SAD</sub> + S<sub>S</sub>」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 4-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)		
	一次応力		
IV <sub>S</sub>	引張り	せん断	圧縮
V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$
			曲げ
			組合せ
			$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

備考

記載の適正化

変更前

表 5-4 荷重の組合せ及び許容応力状態（重大事故等対処設備）

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE026F)	常設/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S_S$ *3	IV,S
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$	V,Sとして IV,Sの許容限界 を用いる。）

注記\*1：「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3：「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

75

表 5-5 許容応力（重大事故等その他の支持構造物）

許容限界*1、*2 (ボルト等以外)			
一次応力			
許容応力状態	せん断	圧縮	曲げ
	引張り		
IV,S V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。）	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更後

表 5-4 荷重の組合せ及び許容応力状態（重大事故等対処設備）

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	ドライウェル温度 (T48-TE026F)	常設/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S_S$ *3	IV,S
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$	V,Sとして IV,Sの許容限界 を用いる。）

注記\*1：「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3：「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_S$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

75

表 5-5 許容応力（重大事故等その他の支持構造物）

許容限界*1、*2 (ボルト等以外)			
一次応力			
許容応力状態	せん断	圧縮	曲げ
	引張り		
IV,S V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。）	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

記載の適正化



変更前

表5-3 許容応力 (その他の支持構造物及び重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等) 一次応力	
	引張り	せん断
III,S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$
IV,S	$1.5 \cdot f_t^*$	
V,S		
(V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。)		

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

18

表5-4 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
Uボルト		周囲環境温度	104	439	205

表5-5 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
Uボルト		周囲環境温度	200	402	205

変更後

表5-3 許容応力 (その他の支持構造物及び重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等) 一次応力	
	引張り	せん断 組合せ
III,S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$ $1.5 \cdot f_t$
IV,S	$1.5 \cdot f_t^*$	
V,S		
(V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。)		

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

18

表5-4 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
Uボルト		周囲環境温度	104	439	205

表5-5 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
Uボルト		周囲環境温度	200	402	205

記載の適正化

変更前

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対応設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	原子炉格納容器下部温度 (T48-L/TE047A, B, L/TE048A, B, L/TE049A, B)	常設/緩和	—*2	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s *3  D + P <sub>SAD</sub> + M <sub>SAD</sub> + S s	IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> として IV <sub>S</sub> の許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2:その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3:「D + P<sub>SAD</sub> + M<sub>SAD</sub> + S s」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

39

表 3-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
引張り	せん断	圧縮	曲げ
IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *	1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1:応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2:当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更後

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対応設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	原子炉格納容器下部温度 (T48-L/TE047A, B, L/TE048A, B, L/TE049A, B)	常設/緩和	—*2	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s *3  D + P <sub>SAD</sub> + M <sub>SAD</sub> + S s	IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> として IV <sub>S</sub> の許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2:その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3:「D + P<sub>SAD</sub> + M<sub>SAD</sub> + S s」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

39

表 3-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
引張り	せん断	圧縮	曲げ
IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *	1.5・f <sub>b</sub> *
			組合せ
			1.5・f <sub>s</sub> *

注記\*1:応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2:当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

記載の適正化

変更前

表 4-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態			
許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)			
一次応力			
IV,S	引張り	せん断	圧縮
V,S (V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$
			曲げ
			$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

11

表 4-3 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R.T) (MPa)
		周囲環境温度				
溶接部		200		144	402	205

変更後

表 4-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態			
許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)			
一次応力			
IV,S	引張り	せん断	圧縮
V,S (V,SとしてIV,Sの許容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$
			曲げ
			$1.5 \cdot f_b^*$
			組合せ
			$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

11

表 4-3 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R.T) (MPa)
		周囲環境温度				
溶接部		200		144	402	205

記載の適正化

変更前

表 1-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	圧力抑制室水位 (T48-LT020)	S	—*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d * D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	III <sub>A</sub> S IV <sub>A</sub> S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 1-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)	
	一次応力	
III <sub>A</sub> S	引張り 1.5・f <sub>t</sub>	せん断 1.5・f <sub>c</sub>
IV <sub>A</sub> S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *
		圧縮 1.5・f <sub>c</sub>
		曲げ 1.5・f <sub>b</sub>
		1.5・f <sub>c</sub> *
		1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 1-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	65	217	386
					—

変更後

表 1-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	圧力抑制室水位 (T48-LT020)	S	—*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d * D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	III <sub>A</sub> S IV <sub>A</sub> S

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 1-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)	
	一次応力	
III <sub>A</sub> S	引張り 1.5・f <sub>t</sub>	せん断 1.5・f <sub>c</sub>
IV <sub>A</sub> S	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *
		圧縮 1.5・f <sub>c</sub>
		曲げ 1.5・f <sub>b</sub>
		1.5・f <sub>c</sub> *
		1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 1-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	65	217	386
					—

記載の適正化



変更前

表 2-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	圧力抑制室水位 (T48-LT021)	S	-*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d *	III <sub>AS</sub>
				D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	IV <sub>AS</sub>

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 2-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
	引張り	せん断	圧縮
III <sub>AS</sub>	1.5・f <sub>t</sub>	1.5・f <sub>c</sub>	1.5・f <sub>c</sub>
IV <sub>AS</sub>	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 2-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (RT) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	65	217	386
					—

変更後

表 2-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)

施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	圧力抑制室水位 (T48-LT021)	S	-*1	D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S d *	III <sub>AS</sub>
				D + P <sub>D</sub> + M <sub>D</sub> + S s	IV <sub>AS</sub>

注記\*1：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

表 2-5 許容応力 (その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
	引張り	せん断	圧縮
III <sub>AS</sub>	1.5・f <sub>t</sub>	1.5・f <sub>s</sub>	1.5・f <sub>c</sub>
IV <sub>AS</sub>	1.5・f <sub>t</sub> *	1.5・f <sub>s</sub> *	1.5・f <sub>c</sub> *
			1.5・f <sub>c</sub> *
			1.5・f <sub>s</sub> *
			1.5・f <sub>s</sub> *

注記\*1：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 2-6 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (RT) (MPa)
溶接部		周囲環境温度	65	217	386
					—

備考

記載の適正化

変更前

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	原子炉格納容器下部水位 (T48-L/TE047A, B, L/TE048A, B, L/TE049A, B)	常設/緩和	—*2	D+P <sub>D</sub> +M <sub>D</sub> +S <sub>S</sub> *3	IV <sub>S</sub>
				D+P <sub>SAD</sub> +M <sub>SAD</sub> +S <sub>S</sub>	V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> として IV <sub>S</sub> の許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3: 「D+P<sub>SAD</sub>+M<sub>SAD</sub>+S<sub>S</sub>」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 3-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)	
	一次応力	
IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	引張り	せん断
	1.5・f <sub>t</sub> * 1.5・f <sub>s</sub> *	圧縮
		曲げ
		1.5・f <sub>b</sub> *

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更後

表 3-4 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	原子炉格納容器下部水位 (T48-L/TE047A, B, L/TE048A, B, L/TE049A, B)	常設/緩和	—*2	D+P <sub>D</sub> +M <sub>D</sub> +S <sub>S</sub> *3	IV <sub>S</sub>
				D+P <sub>SAD</sub> +M <sub>SAD</sub> +S <sub>S</sub>	V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> として IV <sub>S</sub> の許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3: 「D+P<sub>SAD</sub>+M<sub>SAD</sub>+S<sub>S</sub>」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 3-5 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)	
	一次応力	
IV <sub>S</sub> V <sub>S</sub> (V <sub>S</sub> としてIV <sub>S</sub> の許容限界を用いる。)	引張り	せん断
	1.5・f <sub>t</sub> * 1.5・f <sub>s</sub> *	圧縮
		曲げ
		1.5・f <sub>b</sub> *
		組合せ
		1.5・f <sub>a</sub> *

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

記載の適正化

変更前	変更後	備考																																				
<p>4. 機能維持評価</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1. 機能維持評価用加速度</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)は、電話機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>設計用地震力は添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の設置床における標準地震動<math>S_s</math>に基づく設備評価用床応答曲線とし、機能維持評価用加速度には設置床の最大応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</p> <table border="1" data-bbox="320 609 1003 778"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所(m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備(固定型)(中央制御室)</td> <td rowspan="2">制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)</td> <td>水平方向</td> <td>2.32</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 基準床レベルを示す。</p> <p>4.2. 機能確認済加速度</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器(支持構造物を含む。)の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-2 機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</p> <table border="1" data-bbox="407 1056 916 1182"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備(固定型)(中央制御室)</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">4</p>	機器名称	対象機器設置箇所(m)	方向	機能維持評価用加速度	衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)	水平方向	2.32	鉛直方向	1.67	機器名称	方向	機能確認済加速度	衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>4. 機能維持評価</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1. 機能維持評価用加速度</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)は、電話機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>機能維持評価用加速度は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき、標準地震動<math>S_s</math>により定まる衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の設置床における応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</p> <table border="1" data-bbox="1216 609 1899 778"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所(m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備(固定型)(中央制御室)</td> <td rowspan="2">制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)</td> <td>水平方向</td> <td>2.32</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 基準床レベルを示す。</p> <p>4.2. 機能確認済加速度</p> <p>衛星電話設備(固定型)(中央制御室)の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器(支持構造物を含む。)の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-2 機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</p> <table border="1" data-bbox="1303 1056 1812 1182"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備(固定型)(中央制御室)</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">4</p>	機器名称	対象機器設置箇所(m)	方向	機能維持評価用加速度	衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)	水平方向	2.32	鉛直方向	1.67	機器名称	方向	機能確認済加速度	衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>記載の適正化</p>
機器名称	対象機器設置箇所(m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)	水平方向	2.32																																			
		鉛直方向	1.67																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				
機器名称	対象機器設置箇所(m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	制御建屋(中央制御室) O.P. 22.95* (O.P. 24.25)	水平方向	2.32																																			
		鉛直方向	1.67																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				



変更前	変更後	備考																																				
<p>4. 機能維持評価</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）は、電話機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、設計用地震力は添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の設置床における基準地震動 <math>S_s</math> に基づく設備評価用床応答曲線とし、機能維持評価用加速度には設置床の最大応答加速度を適用する。</p> <p>機能維持評価用加速度を表 4-1 に示す。</p> <table border="1" data-bbox="324 606 1008 805"> <caption>表 4-1 機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器（支持構造物を含む。）の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表 4-2 に示す。</p> <table border="1" data-bbox="414 1053 918 1204"> <caption>表 4-2 機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	機器名称	方向	機能確認済加速度	衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>4. 機能維持評価</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）は、電話機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、機能維持評価用加速度は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき、基準地震動 <math>S_s</math> により定まる衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の設置床における応答加速度を適用する。</p> <p>機能維持評価用加速度を表 4-1 に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1209 606 1892 805"> <caption>表 4-1 機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度</p> <p>衛星電話設備（固定型）（緊急時対策所）の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器（支持構造物を含む。）の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表 4-2 に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1299 1053 1803 1204"> <caption>表 4-2 機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	機器名称	方向	機能確認済加速度	衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>記載の適正化</p>
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74																																			
		鉛直方向	0.63																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74																																			
		鉛直方向	0.63																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
衛星電話設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				

O 2 ⑥ VI-2-6-7-2-3 R 2

O 2 ⑦ VI-2-6-7-2-3 R 3

変更前	変更後	備考																																				
<p>4. 機能維持評価                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)は、無線機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>設計用地震力は添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の設置床における基準地震動Ssに基づく設備評価用床応答曲線とし、機能維持評価用加速度には設置床の最大応答加速度を適用する。</u>                      機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="322 608 1014 778"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備(固定型) (中央制御室)</td> <td rowspan="2">制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)</td> <td>水平方向</td> <td>2.32</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 * : 基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器(支持構造物を含む。)の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="412 1058 925 1185"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備(固定型) (中央制御室)</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">4</p>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)	水平方向	2.32	鉛直方向	1.67	機器名称	方向	機能確認済加速度	無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>4. 機能維持評価                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)は、無線機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>機能維持評価用加速度は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき、基準地震動Ssにより定まる無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の設置床における応答加速度を適用する。</u>                      機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1218 608 1910 778"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備(固定型) (中央制御室)</td> <td rowspan="2">制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)</td> <td>水平方向</td> <td>2.32</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 * : 基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度                      無線連絡設備(固定型)(中央制御室)の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器(支持構造物を含む。)の模擬地震波加振試験において電氣的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1308 1058 1821 1185"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備(固定型) (中央制御室)</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">4</p>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)	水平方向	2.32	鉛直方向	1.67	機器名称	方向	機能確認済加速度	無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>記載の適正化</p>
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)	水平方向	2.32																																			
		鉛直方向	1.67																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	制御建屋(中央制御室) 0.P. 22.95* (0.P. 24.25)	水平方向	2.32																																			
		鉛直方向	1.67																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
無線連絡設備(固定型) (中央制御室)	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				

変更前	変更後	備考																																				
<p>4. 機能維持評価</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の電気的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）は、無線機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>設計用地震力は添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す、無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の設置床における基準地震動Ssに基づき設備評価用床応答曲線とし、機能維持評価用加速度には設置床の最大応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <table border="1" data-bbox="320 619 1010 810"> <caption>表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器（支持構造物を含む。）の模擬地震波加振試験において電気的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <table border="1" data-bbox="409 1066 920 1217"> <caption>表 4-2 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	機器名称	方向	機能確認済加速度	無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>4. 機能維持評価</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の電気的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）は、無線機を固定金具にて机上に固縛することから、机が支持している。机についても取付金物にて床に固定することから、<u>機能維持評価用加速度は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき、基準地震動Ssにより定まる無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の設置床における応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1216 619 1906 810"> <caption>表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置箇所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：基準床レベルを示す。</p> <p>4.2 機能確認済加速度</p> <p>無線連絡設備（固定型）（緊急時対策所）の機能確認済加速度には、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に基づき、同形式の機器（支持構造物を含む。）の模擬地震波加振試験において電気的機能の健全性を確認した加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1305 1066 1816 1217"> <caption>表 4-2 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）</td> <td>水平方向</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	機器名称	方向	機能確認済加速度	無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03	鉛直方向	2.11	<p>記載の適正化</p>
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)	水平方向	0.74																																			
		鉛直方向	0.63																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				
機器名称	対象機器設置箇所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																			
無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	緊急時対策建屋 0.P. 51.50* (0.P. 52.32)	水平方向	0.74																																			
		鉛直方向	0.63																																			
機器名称	方向	機能確認済加速度																																				
無線連絡設備（固定型） （緊急時対策所）	水平方向	3.03																																				
	鉛直方向	2.11																																				

O 2 ⑥ VI-2-6-7-3-3 R 2

O 2 ⑦ VI-2-6-7-3-3 R 3



変更前	変更後	備考																																												
<p>4. 機能維持評価</p> <p>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備のうちIP電話及びIP-FAXは、緊急時対策所の床に固定される。また、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備のうちテレビ会議システムは、緊急時対策所の壁に固定されることから、<u>設計用地震力は添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備の設置床における標準地震動S<sub>s</sub>に基づく設備評価用床応答曲線とし、機能維持評価用加速度には設置床の最大応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="331 738 936 1061"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置個所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 57.30*</td> <td>水平方向</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.73</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 * : 基準床レベルを示す。</p>	機器名称	対象機器設置個所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)	緊急時対策建屋 O.P. 57.30*	水平方向	1.01	鉛直方向	0.73	<p>4. 機能維持評価</p> <p>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備の電氣的機能維持の評価について、以下に示す。</p> <p>4.1 機能維持評価用加速度</p> <p>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備のうちIP電話及びIP-FAXは、緊急時対策所の床に固定される。また、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備のうちテレビ会議システムは、緊急時対策所の壁に固定されることから、<u>機能維持評価用加速度は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき、標準地震動S<sub>s</sub>により定まる統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備の設置床における応答加速度を適用する。</u></p> <p>機能維持評価用加速度を表4-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 機能維持評価用加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1211 707 1825 1034"> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>対象機器設置個所 (m)</th> <th>方向</th> <th>機能維持評価用加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)</td> <td>水平方向</td> <td>0.74</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)</td> <td rowspan="2">緊急時対策建屋 O.P. 57.30*</td> <td>水平方向</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>0.73</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 * : 基準床レベルを示す。</p>	機器名称	対象機器設置個所 (m)	方向	機能維持評価用加速度	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)	水平方向	0.74	鉛直方向	0.63	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)	緊急時対策建屋 O.P. 57.30*	水平方向	1.01	鉛直方向	0.73	<p>記載の適正化</p>
機器名称	対象機器設置個所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74																																											
		鉛直方向	0.63																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)	水平方向	0.74																																											
		鉛直方向	0.63																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)	緊急時対策建屋 O.P. 57.30*	水平方向	1.01																																											
		鉛直方向	0.73																																											
機器名称	対象機器設置個所 (m)	方向	機能維持評価用加速度																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP電話)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 52.32)	水平方向	0.74																																											
		鉛直方向	0.63																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (IP-FAX)	緊急時対策建屋 O.P. 51.50* (O.P. 51.60)	水平方向	0.74																																											
		鉛直方向	0.63																																											
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム)	緊急時対策建屋 O.P. 57.30*	水平方向	1.01																																											
		鉛直方向	0.73																																											

変更前		変更後		備考
表 2-1 構造計画	概要構造図	表 2-1 構造計画	概要構造図	
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、基礎に固定されたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> <p>チャレンネルベースは、基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の殻)</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、基礎に固定されたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> <p>チャレンネルベースは、基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の殻であり、<u>列盤構造である。</u>)</p>	
<p>取付ボルト</p> <p>基礎ボルト                      (ケミカルアンカ)</p> <p>基礎</p> <p>チャレンネルベース</p> <p>正面</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>側面</p> <p>たて</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器*</p> <p>たて</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>注記*：代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(A)(H21-P251)及び代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(B)(H21-P261)より構成する。</p>	<p>取付ボルト</p> <p>基礎ボルト                      (ケミカルアンカ)</p> <p>基礎</p> <p>チャレンネルベース</p> <p>正面</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>側面</p> <p>たて</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器*</p> <p>たて</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>注記*：代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(A)(H21-P251)及び代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(D)(H21-P261)より構成する。</p>	<p>取付ボルト</p> <p>基礎ボルト                      (ケミカルアンカ)</p> <p>基礎</p> <p>チャレンネルベース</p> <p>正面</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>側面</p> <p>たて</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器*</p> <p>たて</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>注記*：代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(A)(H21-P251)及び代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(D)(H21-P261)より構成する。</p>	<p>取付ボルト</p> <p>基礎ボルト                      (ケミカルアンカ)</p> <p>基礎</p> <p>チャレンネルベース</p> <p>正面</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>側面</p> <p>たて</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器*</p> <p>たて</p> <p>横</p> <p>高さ</p> <p>注記*：代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器は、代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(A)(H21-P251)及び代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器盤(D)(H21-P261)より構成する。</p>	
2		2		記載の適正化



変更前	変更後	備考														
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器の機能確認済加速度は、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の最大加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="226 632 1003 748"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)</td> <td>水平方向</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">6</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)	水平方向		鉛直方向	<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器の機能確認済加速度は、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の最大加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1115 632 1892 748"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)</td> <td>水平方向</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">6</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)	水平方向		鉛直方向	<p>記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認済加速度														
代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)	水平方向															
	鉛直方向															
評価部位	方向	機能確認済加速度														
代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器 (H21-P251, H21-P261)	水平方向															
	鉛直方向															

1.3 計算数値				1.4 結論			
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)				1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)			
部材	F <sub>b1</sub> 弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>
基礎ボルト (i=1)	-	1.661×10 <sup>4</sup>	-	-	-	σ <sub>b1</sub> =83	f <sub>t,s1</sub> =154*
取付ボルト (i=2)	-	1.759×10 <sup>4</sup>	-	-	-	τ <sub>b1</sub> =11	f <sub>t,s1</sub> =119
						σ <sub>b,2</sub> =56	f <sub>t,s,2</sub> =210*
						τ <sub>b,2</sub> =11	f <sub>t,s,2</sub> =161

注記\*：f<sub>ts1</sub>=Min [1.4・f<sub>ts1</sub>-1.6・τ<sub>b1</sub>, f<sub>ts1</sub>]より算出  
 すべて許容応力以下である。

1.4.2 電気的機能維持の評価結果 (×9.8m/s <sup>2</sup> )	
機能維持許容加速度*	機能確認済加速度
水平方向	1.11
鉛直方向	0.73

注記\*：基準地震動S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機能維持許容加速度(1.0ZPA)はすべて機能確認済加速度以下である。

1.3 計算数値				1.4 結論			
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)				1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)			
部材	F <sub>b1</sub> 弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は静的震度	許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>
基礎ボルト (i=1)	-	1.661×10 <sup>4</sup>	-	-	-	σ <sub>b1</sub> =83	f <sub>t,s1</sub> =154*
取付ボルト (i=2)	-	1.759×10 <sup>4</sup>	-	-	-	τ <sub>b1</sub> =11	f <sub>t,s1</sub> =119
						σ <sub>b,2</sub> =56	f <sub>t,s,2</sub> =210*
						τ <sub>b,2</sub> =11	f <sub>t,s,2</sub> =161

注記\*：f<sub>ts1</sub>=Min [1.4・f<sub>ts1</sub>-1.6・τ<sub>b1</sub>, f<sub>ts1</sub>]より算出  
 すべて許容応力以下である。

1.4.2 電気的機能維持の評価結果 (×9.8m/s <sup>2</sup> )	
機能維持許容加速度*	機能確認済加速度
水平方向	1.11
鉛直方向	0.73

注記\*：基準地震動S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機能維持許容加速度(1.0ZPA)はすべて機能確認済加速度以下である。

備考  
 記載の適正化

O 2 ⑥ VI-2-6-7-13 R 2

表 5-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対称設備)

施設区分	機器名称	設備分類*	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	フィルタ装置出口圧力 (広帯域)	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_{SD} + M_{SD} + S_s$ *3	IV/S
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	V/Sとして IV/Sの許容限界 を用いる。) )

注記\*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。  
 \*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。  
 \*3: 「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 5-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
IV/S V/S (V/SとしてIV/Sの許容限界を用いる。)	引張り	せん断	圧縮
	$1.5 \cdot f_t$ *	$1.5 \cdot f_s$ *	$1.5 \cdot f_c$ * $1.5 \cdot f_b$ *

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。  
 \*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更前

O 2 ⑦ VI-2-6-7-13 R 3

表 5-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対称設備)

施設区分	機器名称	設備分類*	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	フィルタ装置出口圧力 (広帯域)	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_{SD} + M_{SD} + S_s$ *3	IV/S
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	V/Sとして IV/Sの許容限界 を用いる。)

注記\*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。  
 \*2: その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。  
 \*3: 「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 5-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1,*2 (ボルト等以外)		
	一次応力		
IV/S V/S (V/SとしてIV/Sの許容限界を用いる。)	引張り	せん断	圧縮
	$1.5 \cdot f_t$ * $1.5 \cdot f_s$ *	$1.5 \cdot f_s$ *	$1.5 \cdot f_c$ * $1.5 \cdot f_b$ *

注記\*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。  
 \*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

変更後

記載の適正化

備考

変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> <p>注記*：検出器は代表して1台を示す。</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> <p>注記*：検出器は代表して1台を示す。</p> </div> </div>	<p>記載の適正化</p>												
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%;">基礎・支持構造</th> <th style="width: 50%;">主体構造</th> </tr> <tr> <td>検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。</td> <td>熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)</td> </tr> </table>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。	熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%;">基礎・支持構造</th> <th style="width: 50%;">主体構造</th> </tr> <tr> <td>検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。</td> <td>熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)</td> </tr> </table>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。	熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)	
計画の概要														
基礎・支持構造	主体構造													
検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。	熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)													
計画の概要														
基礎・支持構造	主体構造													
検出器は、計器取付ボルトにより計装ラックに取付けられた取付板に固定される。計装ラックは、チャンネルベースに取付ボルトで固定され、チャンネルベースは、床に基礎ボルトで設置する。	熱伝導率式水素検出器 (床に設置された計器取付ボルトにより固定する構造)													

変更前											
【フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208) の耐震性についての計算結果】											
1. 重大事故等対処設備											
1.1 設計条件											
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)	
フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208)	常設耐震/防正常設/緩和	原子炉建屋 (OP. 33.20*)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	66
		OP. 22.50 (OP. 33.20*)							C <sub>H</sub> =2.65	C <sub>V</sub> =1.77	
注記*: 基準レベルを示す。											
1.2 機器要目											
部材	m <sub>i</sub> (kg)	h <sub>i</sub> (mm)	θ <sub>2i</sub> <sup>*1</sup> (mm)	θ <sub>2i</sub> <sup>*1</sup> (mm)	d <sub>i</sub> (mm)	A <sub>b,i</sub> (mm <sup>2</sup> )	n <sub>i</sub>	n <sub>i</sub> <sup>*1</sup>			
基礎ボルト (i=1)		1950					18	9			
取付ボルト (i=2)		1850					18	9			
								2			
部材	S <sub>yi</sub> (MPa)	S <sub>ui</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> <sup>*</sup> (MPa)	転倒方向 <sup>*2</sup>		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		
基礎ボルト (i=1)	225	385	—	270	—		—		長辺方向		
取付ボルト (i=2)	225	385	—	270	—		—		長辺方向		
注記*1: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。 *2: 短辺、長辺方向のうち、評価の厳しい方向を示す。											

変更後											
【フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208) の耐震性についての計算結果】											
1. 重大事故等対処設備											
1.1 設計条件											
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)	
フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208)	常設耐震/防正常設/緩和	原子炉建屋 (OP. 33.20*)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	66
		OP. 22.50 (OP. 33.20*)							C <sub>H</sub> =2.65	C <sub>V</sub> =1.77	
注記*: 基準レベルを示す。											
1.2 機器要目											
部材	m <sub>i</sub> (kg)	h <sub>i</sub> (mm)	θ <sub>2i</sub> <sup>*1</sup> (mm)	θ <sub>2i</sub> <sup>*1</sup> (mm)	d <sub>i</sub> (mm)	A <sub>b,i</sub> (mm <sup>2</sup> )	n <sub>i</sub>	n <sub>i</sub> <sup>*1</sup>			
基礎ボルト (i=1)		1950					24	9			
取付ボルト (i=2)		1850					18	9			
								2			
部材	S <sub>yi</sub> (MPa)	S <sub>ui</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> <sup>*</sup> (MPa)	転倒方向 <sup>*2</sup>		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		
基礎ボルト (i=1)	225	385	—	270	—		—		長辺方向		
取付ボルト (i=2)	225	385	—	270	—		—		長辺方向		
注記*1: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。 *2: 短辺、長辺方向のうち、評価の厳しい方向を示す。											

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

記載の適正化

記載の適正化



変更前		変更後		備考
1.3 計算数値				
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)				
部材	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	F <sub>b,1</sub>	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	Q <sub>b,1</sub>
基礎ボルト (i=1)	—	—	—	—
取付ボルト (i=2)	—	—	—	—
1.4 結論				
1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)				
部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
基礎ボルト (i=1)	SS400	引張り	算出応力	算出応力
		せん断	—	$\sigma_{b,1}=161$
取付ボルト (i=2)	SS400	引張り	—	$\tau_{b,1}=15$
		せん断	—	$\sigma_{b,2}=150$
注記*： $f_{t,0.1} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{t,0.1} - 1.6 \cdot \tau_{b,1}, f_{t,0.1}]$ より算出、すべて許容応力以下である。				
1.4.2 電気的機能維持の評価結果 (×9.8m/s <sup>2</sup> )				
フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208)	水平方向	2.21	機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	鉛直方向	1.47		
注記*：基準地震動 S s により定まる応答加速度とする。機能維持評価用加速度 (1.0ZPA) は、すべて機能確認済加速度以下である。				
9				
1.3 計算数値				
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)				
部材	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	F <sub>b,1</sub>	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	Q <sub>b,1</sub>
基礎ボルト (i=1)	—	—	—	—
取付ボルト (i=2)	—	—	—	—
1.4 結論				
1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)				
部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
基礎ボルト (i=1)	SS400	引張り	算出応力	算出応力
		せん断	—	$\sigma_{b,1}=103$
取付ボルト (i=2)	SS400	引張り	—	$\tau_{b,1}=11$
		せん断	—	$\sigma_{b,2}=150$
注記*： $f_{t,0.1} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{t,0.1} - 1.6 \cdot \tau_{b,1}, f_{t,0.1}]$ より算出、すべて許容応力以下である。				
1.4.2 電気的機能維持の評価結果 (×9.8m/s <sup>2</sup> )				
フィルタ装置出口水素濃度 (T63-HE208)	水平方向	2.21	機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	鉛直方向	1.47		
注記*：基準地震動 S s により定まる応答加速度とする。機能維持評価用加速度 (1.0ZPA) は、すべて機能確認済加速度以下である。				
9				
記載の適正化				



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-6-7-15 フィルタ装置出口水素濃度の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
	<p>側面</p> <p>チャンネルベース</p> <p>取付ボルト</p> <p>h<sub>2</sub></p> <p>正面</p> <p>転倒方向 (裏面方向)</p> <p>取付ボルト</p> <p>転倒支点</p> <p>A</p> <p>A</p> <p><math>\theta_{12}=0</math></p> <p><math>\theta_{22}</math></p> <p><math>(\theta_{11} \leq \theta_{22})</math></p> <p>A-A 矢視図</p> <p>II</p>	<p>記載の適正化</p>



O 2 ⑥ VI-2-6-7-17 R 2

表 5-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	残留熱除去系熱交換器冷却水 入口流量 (P42-F1016A)	常設/防止 (DB 拡張)	—*2	$D+P_{50}+M_{50}+S_{50}$ *3	IV,S
				$D+P_{5AD}+M_{5AD}+S_{50}$	V,S (V,Sとして IV,Sの許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/防止 (DB 拡張)」は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) を示す。

\*2:その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3:「 $D+P_{5AD}+M_{5AD}+S_{50}$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

7

変更前

表 5-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態		許容限界*1,*2 (ボルト等以外)	
		一次応力	
引張り	せん断	圧縮	曲げ
$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$

注記\*1:応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2:当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

O 2 ⑦ VI-2-6-7-17 R 3

表 5-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)

施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
計測制御 系統施設	残留熱除去系熱交換器冷却水 入口流量 (P42-F1016A)	常設/防止 (DB 拡張)	—*2	$D+P_{50}+M_{50}+S_{50}$ *3	IV,S
				$D+P_{5AD}+M_{5AD}+S_{50}$	V,S (V,Sとして IV,Sの許容限界 を用いる。)

注記\*1:「常設/防止 (DB 拡張)」は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) を示す。

\*2:その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力状態を適用する。

\*3:「 $D+P_{5AD}+M_{5AD}+S_{50}$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

7

変更後

表 5-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態		許容限界*1,*2 (ボルト等以外)	
		一次応力	
引張り	せん断	圧縮	曲げ
$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$

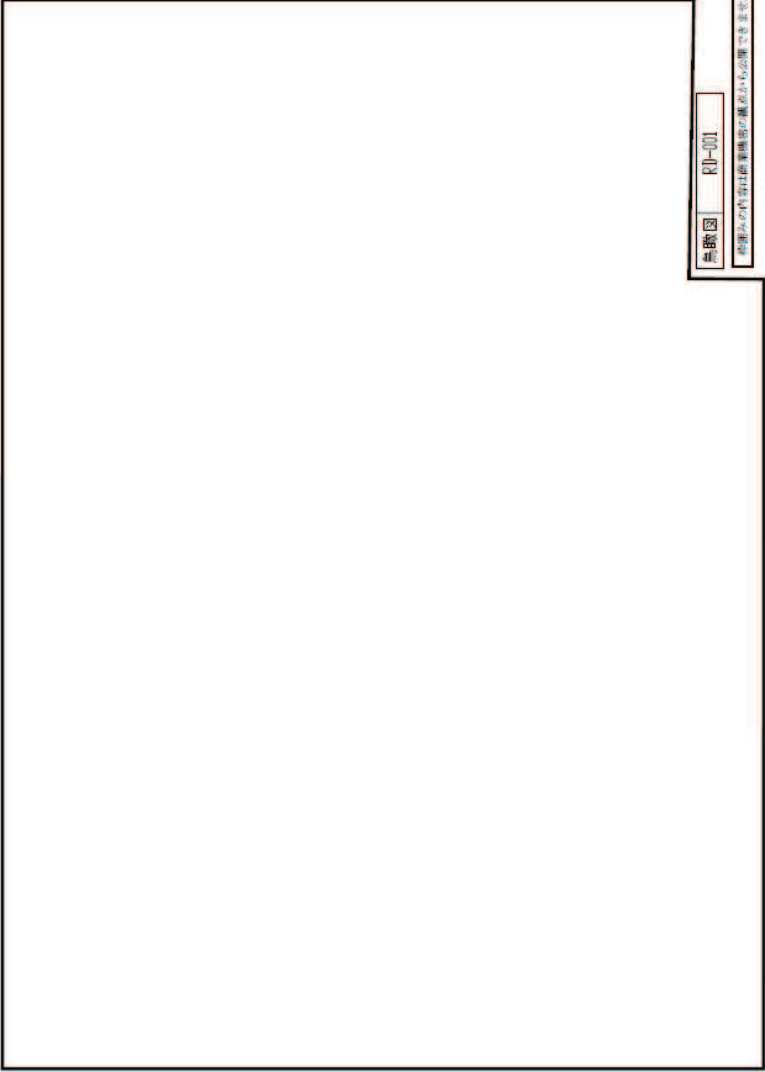
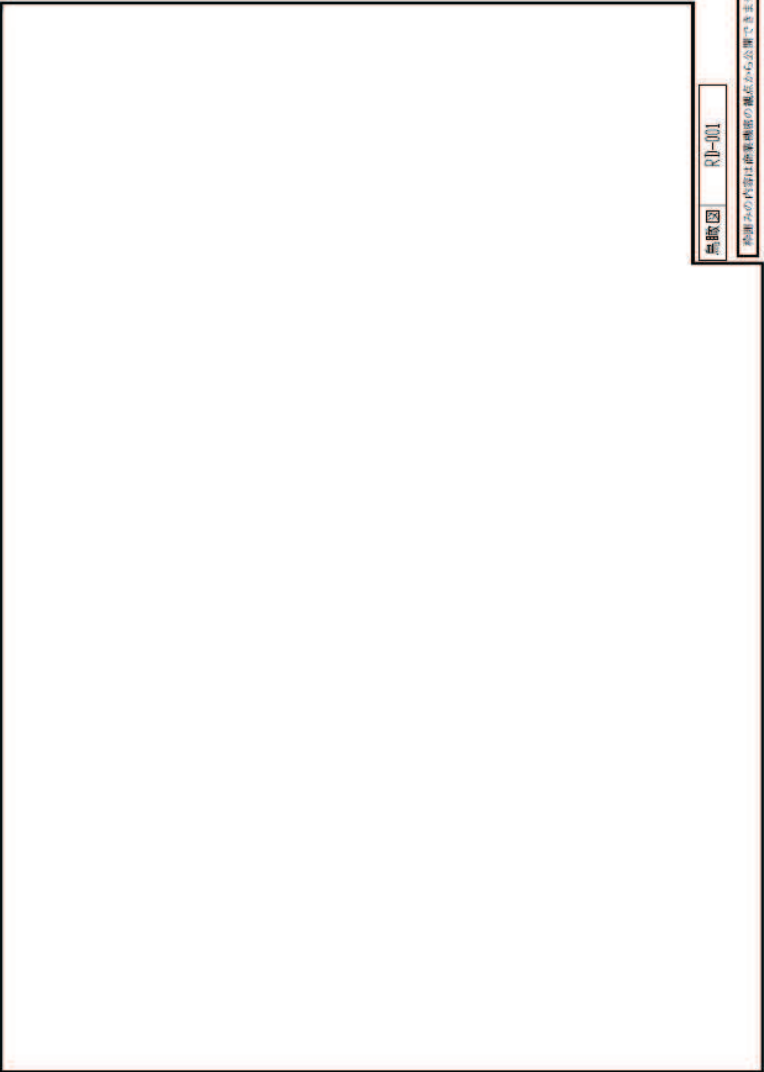
注記\*1:応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2:当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

記載の適正化

備考

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-7-3-1-1 管の耐震性についての計算書（放射性ドレン移送系）】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O2 ⑥ VI-2-7-3-1-1(旧) R1</p>  <p style="text-align: center;">5</p>	<p style="text-align: center;">O2 ⑦ VI-2-7-3-1-1(新) R2</p>  <p style="text-align: center;">6</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																																				
<p style="text-align: center;">O2 ㊦ VI-2-7-3-1-1(設) R2</p> <p>4.2.3 弁の動的機能維持評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超える弁については、詳細評価を実施する。</p> <table border="1" data-bbox="405 582 544 1313"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弁番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能 <math>\beta</math> (S.d)</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>K11-F103</td> <td>ゲート弁</td> <td><math>\beta</math> (S.d)</td> <td>7.1*</td> <td>3.6</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。                      注記*：機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超えるため、詳細評価を行う。</p> <p style="text-align: center;">21</p>	弁番号	形式	要求機能 $\beta$ (S.d)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	K11-F103	ゲート弁	$\beta$ (S.d)	7.1*	3.6	6.0	6.0	<p style="text-align: center;">O2 ㊦ VI-2-7-3-1-1(設) R3</p> <p>4.2.3 弁の動的機能維持評価結果</p> <table border="1" data-bbox="1267 528 1424 1313"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弁番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認済加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">21</p>	弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	-	-	-	-	-	-	-	<p>記載の適正化</p>
弁番号				形式	要求機能 $\beta$ (S.d)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )																														
	水平	鉛直	水平			鉛直																																
K11-F103	ゲート弁	$\beta$ (S.d)	7.1*	3.6	6.0	6.0																																
弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )																																	
			水平	鉛直	水平	鉛直																																
-	-	-	-	-	-	-																																

変 更 前	変 更 後	備 考																																		
<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-7-3-1-1(設) R 0</p> <p>詳細評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が駆動部の動作機能確認加速度以下及び計算応力が許容応力以下である。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th colspan="2">要求機能</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 3.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">駆動部の動作機能確認 加速度 (<math>\times 3.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="4">構造強度評価結果 (MPa)</th> </tr> <tr> <th><math>\beta</math> (S d)</th> <th></th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>評価部位*</th> <th>応力分類</th> <th>計算応力</th> <th>許容応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KI-F103</td> <td>ゲート弁</td> <td></td> <td></td> <td>7.1</td> <td>3.6</td> <td>20.0</td> <td>20.0</td> <td>ボクセット</td> <td>曲げ</td> <td>187</td> <td>234</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：裕度が最小となる部位に対する評価を実施する。</p>	番号	形式	要求機能		機能維持評価用加速度 ( $\times 3.8m/s^2$ )		駆動部の動作機能確認 加速度 ( $\times 3.8m/s^2$ )		構造強度評価結果 (MPa)				$\beta$ (S d)		水平	鉛直	水平	鉛直	評価部位*	応力分類	計算応力	許容応力	KI-F103	ゲート弁			7.1	3.6	20.0	20.0	ボクセット	曲げ	187	234		<p>記載の適正化</p>
番号			形式	要求機能		機能維持評価用加速度 ( $\times 3.8m/s^2$ )		駆動部の動作機能確認 加速度 ( $\times 3.8m/s^2$ )		構造強度評価結果 (MPa)																										
	$\beta$ (S d)			水平	鉛直	水平	鉛直	評価部位*	応力分類	計算応力	許容応力																									
KI-F103	ゲート弁			7.1	3.6	20.0	20.0	ボクセット	曲げ	187	234																									

変 更 前	変 更 後	備 考																																																																																																																								
<p>2.5 計算精度と数値の丸め方 計器精度は、有効数字6桁以上を確保する。 表示する数値の丸め方は、表2-3に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表2-3 表示する数値の丸め方</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>数値の種類</th> <th>単位</th> <th>処理桁</th> <th>処理方法</th> <th>表示桁</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固有周期</td> <td>s</td> <td>小数点以下第4位</td> <td>四捨五入</td> <td>小数点以下第3位</td> </tr> <tr> <td>震度</td> <td>—</td> <td>小数点以下第3位</td> <td>切上げ</td> <td>小数点以下第2位</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>℃</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>kg</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位*1</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>mm<sup>2</sup></td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>モーメント</td> <td>N・mm</td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>力</td> <td>N</td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>縦弾性係数</td> <td>MPa</td> <td>有効数字4桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字3桁*2</td> </tr> <tr> <td>算出応力</td> <td>MPa</td> <td>小数点以下第1位</td> <td>切上げ</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>許容応力</td> <td>MPa</td> <td>小数点以下第1位</td> <td>切捨て</td> <td>整数位*3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1:設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。                  *2:絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする                  *3:設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。</p>	数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁	固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位	震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位	温度	℃	—	—	整数位	質量	kg	—	—	整数位	長さ	mm	—	—	整数位*1	面積	mm <sup>2</sup>	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	モーメント	N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	縦弾性係数	MPa	有効数字4桁目	四捨五入	有効数字3桁*2	算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位	許容応力	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位*3	<p>2.5 計算精度と数値の丸め方 計器精度は、有効数字6桁以上を確保する。 表示する数値の丸め方は、表2-3に示すとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表2-3 表示する数値の丸め方</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>数値の種類</th> <th>単位</th> <th>処理桁</th> <th>処理方法</th> <th>表示桁</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固有周期</td> <td>s</td> <td>小数点以下第4位</td> <td>四捨五入</td> <td>小数点以下第3位</td> </tr> <tr> <td>震度</td> <td>—</td> <td>小数点以下第3位</td> <td>切上げ</td> <td>小数点以下第2位</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>℃</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>kg</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>mm</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>整数位*1</td> </tr> <tr> <td>面積</td> <td>mm<sup>2</sup></td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>モーメント</td> <td>N・mm</td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>力</td> <td>N</td> <td>有効数字5桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字4桁*2</td> </tr> <tr> <td>縦弾性係数</td> <td>MPa</td> <td>有効数字4桁目</td> <td>四捨五入</td> <td>有効数字3桁*2</td> </tr> <tr> <td>算出応力</td> <td>MPa</td> <td>小数点以下第1位</td> <td>切上げ</td> <td>整数位</td> </tr> <tr> <td>許容応力</td> <td>MPa</td> <td>小数点以下第1位</td> <td>切捨て</td> <td>整数位*3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1:設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。                  *2:絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。                  *3:設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。</p>	数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁	固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位	震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位	温度	℃	—	—	整数位	質量	kg	—	—	整数位	長さ	mm	—	—	整数位*1	面積	mm <sup>2</sup>	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	モーメント	N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2	縦弾性係数	MPa	有効数字4桁目	四捨五入	有効数字3桁*2	算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位	許容応力	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位*3	<p>記載の適正化</p>
数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁																																																																																																																						
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位																																																																																																																						
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位																																																																																																																						
温度	℃	—	—	整数位																																																																																																																						
質量	kg	—	—	整数位																																																																																																																						
長さ	mm	—	—	整数位*1																																																																																																																						
面積	mm <sup>2</sup>	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
モーメント	N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
縦弾性係数	MPa	有効数字4桁目	四捨五入	有効数字3桁*2																																																																																																																						
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位																																																																																																																						
許容応力	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位*3																																																																																																																						
数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁																																																																																																																						
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位																																																																																																																						
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位																																																																																																																						
温度	℃	—	—	整数位																																																																																																																						
質量	kg	—	—	整数位																																																																																																																						
長さ	mm	—	—	整数位*1																																																																																																																						
面積	mm <sup>2</sup>	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
モーメント	N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2																																																																																																																						
縦弾性係数	MPa	有効数字4桁目	四捨五入	有効数字3桁*2																																																																																																																						
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位																																																																																																																						
許容応力	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位*3																																																																																																																						

O2 ⑤ VI-2-8-2-1-2-2 R2

O2 ⑦ VI-2-8-2-1-2-2 R3

O2 ⑥ VI-2-8-2-1-2-2 R2

表 4-3 許容応力 (その他の支持構造物及び重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)					
	一次応力					
	引張り	せん断	圧縮	曲げ	支圧	
III <sub>S</sub> S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	
IV <sub>S</sub> S						
V <sub>S</sub> S (V <sub>S</sub> SとしてIV <sub>S</sub> Sの許 容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$	$1.5 \cdot f_p^*$	

注記 \*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

10

変更前

変更後

備考

O2 ⑦ VI-2-8-2-1-2-2 R3

表 4-3 許容応力 (その他の支持構造物及び重大事故等その他の支持構造物)

許容応力状態	許容限界 <sup>*1, *2</sup> (ボルト等以外)					
	一次応力					
	引張り	せん断	圧縮	曲げ	支圧	組合せ
III <sub>S</sub> S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$\frac{1.5 \cdot f_s}{1.5 \cdot f_p}$
IV <sub>S</sub> S						
V <sub>S</sub> S (V <sub>S</sub> SとしてIV <sub>S</sub> Sの許 容限界を用いる。)	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$	$1.5 \cdot f_p^*$	$\frac{1.5 \cdot f_s^*}{1.5 \cdot f_p^*}$

注記 \*1: 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

10

記載の適正化



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-9-2-1-2 サプレッションチェンバの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 100px; top: 460px;">O.2 ⑥ VI-2-9-2-1-2 R.3</p> <p>4.3 解析モデル及び諸元</p> <p>(1) 設計基準対象施設としての解析モデル及び諸元</p> <p>設計基準対象施設としての評価は、以下の3つの解析モデルを用いる。サプレッションチェンバ全体はりモデルとサプレッションチェンバ部分シェルモデルに大別され、前者は地震応答解析及び死荷重による変位の算出に用いるモデル、後者は応力解析に用いるモデルである。さらに、サプレッションチェンバ部分シェルモデルにおいては、拘束条件や境界条件を変更した2つの解析モデルを用いる。解析コードは「MSC NASTRAN」を使用する。なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>解析モデルの概要を以下に示す。</p> <p>a. スペクトルモーダル解析及びサプレッションチェンバ部分シェルモデルに与える強制変位の計算は、サプレッションチェンバ全体をはり要素にモデル化したモデルを用いて行う。解析モデルを図4-1に、諸元を表4-6に示す。サプレッションチェンバ、ボックスサポートをはり要素で、フランジプレート、基礎ボルトをばね要素でモデル化する。なお、ボックスサポート等はサプレッションチェンバと一体構造であることから、サプレッションチェンバに加えてモデル化を行う。サプレッションチェンバの内部水は、仮想質量法により算定し、NASTRANの機能である Guyan 縮約法を用いて本モデルのサプレッションチェンバの各質点に縮約し、付加する。ボックスサポート下端は、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>b. 圧力による応力は、サプレッションチェンバを構成する円筒のうち2個をシェル要素にモデル化した部分シェルモデルにより計算する。解析モデルを図4-2、図4-4に、諸元を表4-6に示す。円筒部の端面を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span> また、ボックスサポート下端を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>c. 死荷重、スロッシング荷重及び地震荷重による応力は、サプレッションチェンバを構成する円筒のうち2個をシェル要素にモデル化した部分シェルモデルにより計算する。解析モデルを図4-3、図4-4に、諸元を表4-6に示す。円筒部端面の各節点を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span> また、ボックスサポート下端に対し、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span>  <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>(2) 重大事故等対処設備としての解析モデル及び諸元</p> <p>重大事故等時のサプレッションチェンバの解析モデルは、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 250px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span>  <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 250px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</span></p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 100px; top: 460px;">O.2 ⑦ VI-2-9-2-1-2 R.4</p> <p>4.3 解析モデル及び諸元</p> <p>(1) 設計基準対象施設としての解析モデル及び諸元</p> <p>設計基準対象施設としての評価は、以下の3つの解析モデルを用いる。サプレッションチェンバ全体はりモデルとサプレッションチェンバ部分シェルモデルに大別され、前者は地震応答解析及び死荷重による変位の算出に用いるモデル、後者は応力解析に用いるモデルである。さらに、サプレッションチェンバ部分シェルモデルにおいては、拘束条件や境界条件を変更した2つの解析モデルを用いる。解析コードは「MSC NASTRAN」を使用する。なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>解析モデルの概要を以下に示す。</p> <p>a. スペクトルモーダル解析及びサプレッションチェンバ部分シェルモデルに与える強制変位の計算は、サプレッションチェンバ全体をはり要素にモデル化したモデルを用いて行う。解析モデルを図4-1に、諸元を表4-6に示す。サプレッションチェンバ、ボックスサポートをはり要素で、フランジプレート、基礎ボルトをばね要素でモデル化する。なお、ボックスサポート等はサプレッションチェンバと一体構造であることから、サプレッションチェンバに加えてモデル化を行う。サプレッションチェンバの内部水の有効質量は、実機を縮小した試験体を用いた振動試験及び流体解析との比較により妥当性を確認した仮想質量法により算定し、NASTRANの機能である Guyan 縮約法を用いて本モデルのサプレッションチェンバの各質点に縮約し、付加する。ボックスサポート下端は、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span>  <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>b. 圧力による応力は、サプレッションチェンバを構成する円筒のうち2個をシェル要素にモデル化した部分シェルモデルにより計算する。解析モデルを図4-2、図4-4に、諸元を表4-6に示す。円筒部の端面を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span> また、ボックスサポート下端を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>c. 死荷重、スロッシング荷重及び地震荷重による応力は、サプレッションチェンバを構成する円筒のうち2個をシェル要素にモデル化した部分シェルモデルにより計算する。解析モデルを図4-3、図4-4に、諸元を表4-6に示す。円筒部端面の各節点を <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span> また、ボックスサポート下端に対し、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span>  <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p>(2) 重大事故等対処設備としての解析モデル及び諸元</p> <p>重大事故等時のサプレッションチェンバの解析モデルは、<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 250px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span>  <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 250px; height: 1.2em; vertical-align: middle;"></span></p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</span></p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																																				
<p style="text-align: center;">O2 ㊦ VI-2-9-4-4-1-2(設) R1</p> <p>4.2.3 井の動的機能維持評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認加速度以下である。</p> <table border="1" data-bbox="376 646 506 1359"> <thead> <tr> <th rowspan="2">井番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能 <math>\beta</math> (S d)</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T40-F001A</td> <td>バスタフライ井</td> <td><math>\beta</math> (S d)</td> <td>5.2</td> <td>5.5</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数50Hzとして計算した結果を示す。</p> <p style="text-align: center;">15</p>	井番号	形式	要求機能 $\beta$ (S d)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	T40-F001A	バスタフライ井	$\beta$ (S d)	5.2	5.5	6.0	6.0	<p style="text-align: center;">O2 ㊦ VI-2-9-4-4-1-2(設) R2</p> <p>4.2.3 井の動的機能維持評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認加速度以下である。</p> <table border="1" data-bbox="1263 646 1393 1359"> <thead> <tr> <th rowspan="2">井番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能 <math>\beta</math> (S s)</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T40-F001A</td> <td>バスタフライ井</td> <td><math>\beta</math> (S s)</td> <td>5.2</td> <td>5.5</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数50Hzとして計算した結果を示す。</p> <p style="text-align: center;">16</p>	井番号	形式	要求機能 $\beta$ (S s)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	T40-F001A	バスタフライ井	$\beta$ (S s)	5.2	5.5	6.0	6.0	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
井番号				形式	要求機能 $\beta$ (S d)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )																														
	水平	鉛直	水平			鉛直																																
T40-F001A	バスタフライ井	$\beta$ (S d)	5.2	5.5	6.0	6.0																																
井番号	形式	要求機能 $\beta$ (S s)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )																																	
			水平	鉛直	水平	鉛直																																
T40-F001A	バスタフライ井	$\beta$ (S s)	5.2	5.5	6.0	6.0																																

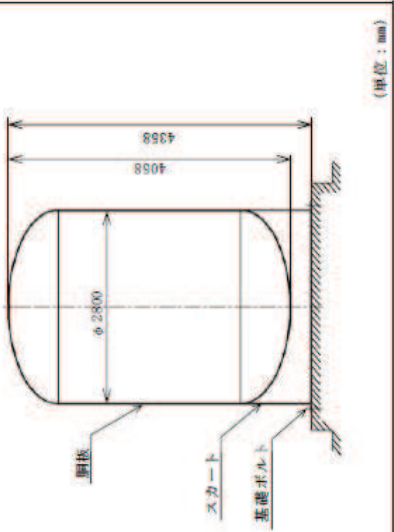
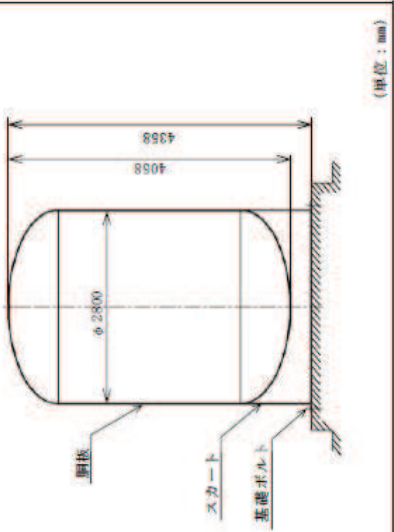
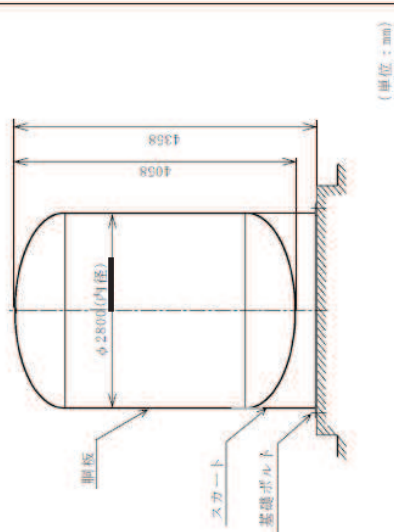
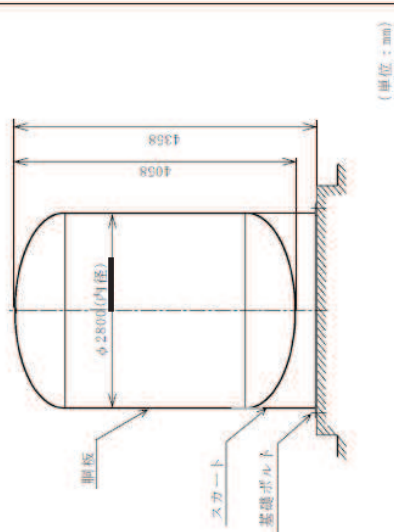
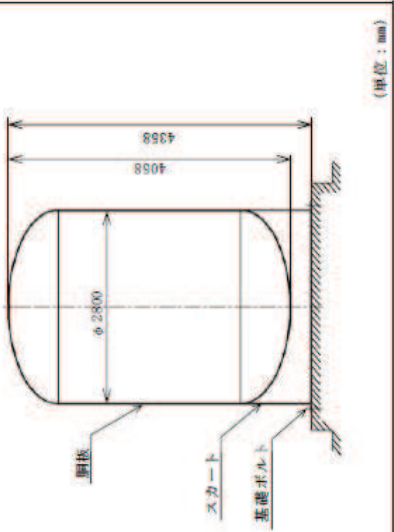
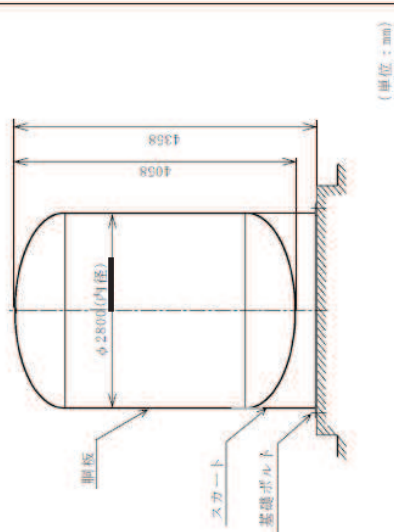


変更前		変更後		備考		
O2 ㊸ VI-2-9-4-4-2-1(改) R2						
4.2.3 弁の動的機能維持評価結果						
下表に示すとおの機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超える弁については、詳細評価を実施する。						
弁番号	形式	要求機能 β(Sd)	機能維持評価用加速度 (×9.8m/s <sup>2</sup> )		機能確認済加速度 (×9.8m/s <sup>2</sup> )	
			水平	鉛直	水平	鉛直
T19-F001B	ゲート弁	β(Sd)	4.8	6.1*	6.0	6.0
注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。 注記*：機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超えるため、詳細評価を行う。						
O2 ㊸ VI-2-9-4-4-2-1(改) R3						
4.2.3 弁の動的機能維持評価結果						
下表に示すとおの機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超える弁については、詳細評価を実施する。						
弁番号	形式	要求機能 β(Ss)	機能維持評価用加速度 (×9.8m/s <sup>2</sup> )		機能確認済加速度 (×9.8m/s <sup>2</sup> )	
			水平	鉛直	水平	鉛直
T19-F001B	ゲート弁	β(Ss)	4.8	6.1*	6.0	6.0
注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。 注記*：機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超えるため、詳細評価を行う。						
				記載の適正化		

変更前										変更後										備考	
O.2 ⑥ VI-2-9-4-4-2-1(設) R.0 詳細評価結果 下表に示すとおり機能維持評価用加速度が駆動部の動作機能確認済加速度以下及び計算応力が許容応力以下である。 構造強度評価結果 (MPa)										O.2 ⑥ VI-2-9-4-4-2-1(設) R.1 詳細評価結果 下表に示すとおり機能維持評価用加速度が駆動部の動作機能確認済加速度以下及び計算応力が許容応力以下である。 構造強度評価結果 (MPa)										記載の適正化	
番号 T19-F00B	形式 ザート弁	要求機能 $\beta$ (S.4)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		駆動部の動作機能確認済 加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		構造強度評価結果 (MPa)			番号 T19-F00B	形式 ザート弁	要求機能 $\beta$ (S.4)	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		駆動部の動作機能確認済 加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		構造強度評価結果 (MPa)				
			水平 4.8	鉛直 6.1	水平 20.0	鉛直 20.0	応力分類 曲げ	評価部位* ヨーク	計算応力 196	許容応力 354				水平 4.8	鉛直 6.1	水平 20.0	鉛直 20.0	応力分類 曲げ	評価部位* ヨーク	計算応力 196	許容応力 354
注記*：荷重が最小となる部位に対する評価を実施する。										注記*：荷重が最小となる部位に対する評価を実施する。											
24										24											

変更前		変更後		備考																		
<p>O.2 ㊦ VI-2-9-4-5-1-1(設) R.2</p> <p>4.2.3 弁の動的機能維持評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認添加速度以下である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弁番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認添加加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T46-F003A</td> <td>バタフライ弁</td> <td><math>\beta</math> (S d)</td> <td>5.9</td> <td>2.1</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。</p>					弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認添加加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	T46-F003A	バタフライ弁	$\beta$ (S d)	5.9	2.1	6.0	6.0
弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )					機能確認添加加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )														
			水平	鉛直	水平	鉛直																
T46-F003A	バタフライ弁	$\beta$ (S d)	5.9	2.1	6.0	6.0																
<p>O.2 ㊦ VI-2-9-4-5-1-1(設) R.3</p> <p>4.2.3 弁の動的機能維持評価結果                      下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認添加速度以下である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弁番号</th> <th rowspan="2">形式</th> <th rowspan="2">要求機能</th> <th colspan="2">機能維持評価用加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> <th colspan="2">機能確認添加加速度 (<math>\times 9.8m/s^2</math>)</th> </tr> <tr> <th>水平</th> <th>鉛直</th> <th>水平</th> <th>鉛直</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T46-F003A</td> <td>バタフライ弁</td> <td><math>\beta</math> (S s)</td> <td>5.9</td> <td>2.1</td> <td>6.0</td> <td>6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：機能維持評価用加速度は、配管系の地震応答解析による打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。</p>					弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		機能確認添加加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )		水平	鉛直	水平	鉛直	T46-F003A	バタフライ弁	$\beta$ (S s)	5.9	2.1	6.0	6.0
弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )					機能確認添加加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )														
			水平	鉛直	水平	鉛直																
T46-F003A	バタフライ弁	$\beta$ (S s)	5.9	2.1	6.0	6.0																
			記載の適正化																			

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O2 ㊸ VI-2-10-1-2-1-1 R2E</p>	<p style="text-align: center;">O2 ㊸ VI-2-10-1-2-1-1 R3E</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-3 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">R2</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>		<p style="text-align: center;">O2 ⑦ VI-2-10-1-2-1-3 R3</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">R3</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>		<p>記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>													
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に縦板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>													

変更前	変更後	備考																	
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">O.2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-4 R.2</p> <p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成26年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 基礎ボルト</li> <li>b. 取付ボルト</li> <li>c. 軸</li> <li>d. 軸受</li> <li>e. 摺動部（主ねじ部）</li> <li>f. メカニカルシール</li> <li>g. 軸継手</li> </ul> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態Ⅲsに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙間を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転盤の変位可能量を、許容値とする。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">O.2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-4 R.3</p> <p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成26年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 基礎ボルト</li> <li>b. 取付ボルト</li> <li>c. 軸</li> <li>d. 軸受</li> <li>e. 摺動部（主ねじ部）</li> <li>f. メカニカルシール</li> <li>g. 軸継手</li> </ul> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態Ⅲsに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙間を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転盤の変位可能量を許容値とする。</p> <p>許容値を表4-1に示す。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>表4-1 許容値</caption> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>材料</th> <th>単位</th> <th>許容値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軸</td> <td></td> <td>MPa</td> <td rowspan="4" style="width: 100px; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td>軸受</td> <td>—</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>摺動部（主ねじ部）</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>メカニカルシール</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">8</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">枠組みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	評価対象部位	材料	単位	許容値	軸		MPa		軸受	—	MPa	摺動部（主ねじ部）	—	mm	メカニカルシール	—	mm	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
評価対象部位	材料	単位	許容値																
軸		MPa																	
軸受	—	MPa																	
摺動部（主ねじ部）	—	mm																	
メカニカルシール	—	mm																	



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-2-1-4 非常用ディーゼル発電設備 燃料移送ポンプの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考																																																																																																																																																																																										
<p>4.2.3 記号の説明 燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表4-1に示す。</p> <p>表4-1 記号の説明</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>a</td><td>軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ<sub>2</sub>)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>A<sub>R1</sub></td><td>ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>A<sub>R2</sub></td><td>ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>A<sub>S</sub></td><td>スラスト荷重を受ける軸受の投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>b</td><td>軸端から支点Bまでの距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>C<sub>H</sub></td><td>水平方向角度</td><td>—</td></tr> <tr><td>C<sub>V</sub></td><td>鉛直方向角度</td><td>—</td></tr> <tr><td>d</td><td>曲げモーメントが最大となる箇所の軸径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>E</td><td>縦弾性係数</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>g</td><td>重力加速度 (=9.80665)</td><td>m/s<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>I<sub>1</sub></td><td>軸最小径での断面二次モーメント</td><td>mm<sup>4</sup></td></tr> <tr><td>I<sub>2</sub></td><td>シール面軸径での断面二次モーメント</td><td>mm<sup>4</sup></td></tr> <tr><td>ℓ</td><td>軸長さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ<sub>1</sub></td><td>支点間距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ<sub>2</sub></td><td>軸端から支点Aまでの距離 (=a)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>M</td><td>最大曲げモーメント (M<sub>A</sub>, M<sub>B</sub>の大なる方)</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>m<sub>0</sub></td><td>軸系総質量</td><td>kg</td></tr> <tr><td>M<sub>A</sub></td><td>支点Aの曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>M<sub>B</sub></td><td>支点Bの曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>M<sub>P</sub></td><td>ポンプ回転により作用するモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>N</td><td>回転数 (原動機の同期回転速度)</td><td>rpm</td></tr> <tr><td>P</td><td>原動機出力</td><td>kW</td></tr> <tr><td>P<sub>R1</sub></td><td>ラジアル荷重による軸受Aの面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>P<sub>R2</sub></td><td>ラジアル荷重による軸受Bの面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>P<sub>S</sub></td><td>スラスト荷重による軸受の面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>T</td><td>軸に作用するねじりモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>w</td><td>地震力を考慮した軸等分布荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>1</sub></td><td>地震力を考慮した軸端部荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>2</sub></td><td>軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>R1</sub></td><td>軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重</td><td>N</td></tr> </tbody> </table>	記号	記号の説明	単位	a	軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ <sub>2</sub> )	mm	A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>	A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>	A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>	b	軸端から支点Bまでの距離	mm	C <sub>H</sub>	水平方向角度	—	C <sub>V</sub>	鉛直方向角度	—	d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm	E	縦弾性係数	MPa	g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>	I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>	I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>	ℓ	軸長さ	mm	ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm	ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (=a)	mm	M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm	m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg	M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm	M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm	M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm	N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm	P	原動機出力	kW	P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa	P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa	P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa	T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm	w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N	W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N	W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N	W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N	<p>4.2.3 記号の説明 燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表4-2に示す。</p> <p>表4-2 記号の説明</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>a</td><td>軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ<sub>2</sub>)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>A<sub>R1</sub></td><td>ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>A<sub>R2</sub></td><td>ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>A<sub>S</sub></td><td>スラスト荷重を受ける軸受の投影面積</td><td>mm<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>b</td><td>軸端から支点Bまでの距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>C<sub>H</sub></td><td>水平方向角度</td><td>—</td></tr> <tr><td>C<sub>V</sub></td><td>鉛直方向角度</td><td>—</td></tr> <tr><td>d</td><td>曲げモーメントが最大となる箇所の軸径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>E</td><td>縦弾性係数</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>g</td><td>重力加速度 (=9.80665)</td><td>m/s<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>I<sub>1</sub></td><td>軸最小径での断面二次モーメント</td><td>mm<sup>4</sup></td></tr> <tr><td>I<sub>2</sub></td><td>シール面軸径での断面二次モーメント</td><td>mm<sup>4</sup></td></tr> <tr><td>ℓ</td><td>軸長さ</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ<sub>1</sub></td><td>支点間距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ<sub>2</sub></td><td>軸端から支点Aまでの距離 (=a)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>M</td><td>最大曲げモーメント (M<sub>A</sub>, M<sub>B</sub>の大なる方)</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>m<sub>0</sub></td><td>軸系総質量</td><td>kg</td></tr> <tr><td>M<sub>A</sub></td><td>支点Aの曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>M<sub>B</sub></td><td>支点Bの曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>M<sub>P</sub></td><td>ポンプ回転により作用するモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>N</td><td>回転数 (原動機の同期回転速度)</td><td>rpm</td></tr> <tr><td>P</td><td>原動機出力</td><td>kW</td></tr> <tr><td>P<sub>R1</sub></td><td>ラジアル荷重による軸受Aの面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>P<sub>R2</sub></td><td>ラジアル荷重による軸受Bの面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>P<sub>S</sub></td><td>スラスト荷重による軸受の面圧</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>T</td><td>軸に作用するねじりモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>w</td><td>地震力を考慮した軸等分布荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>1</sub></td><td>地震力を考慮した軸端部荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>2</sub></td><td>軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>W<sub>R1</sub></td><td>軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重</td><td>N</td></tr> </tbody> </table>	記号	記号の説明	単位	a	軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ <sub>2</sub> )	mm	A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>	A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>	A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>	b	軸端から支点Bまでの距離	mm	C <sub>H</sub>	水平方向角度	—	C <sub>V</sub>	鉛直方向角度	—	d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm	E	縦弾性係数	MPa	g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>	I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>	I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>	ℓ	軸長さ	mm	ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm	ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (=a)	mm	M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm	m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg	M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm	M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm	M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm	N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm	P	原動機出力	kW	P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa	P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa	P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa	T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm	w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N	W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N	W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N	W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N	<p>記載の適正化</p>
記号	記号の説明	単位																																																																																																																																																																																										
a	軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ <sub>2</sub> )	mm																																																																																																																																																																																										
A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
b	軸端から支点Bまでの距離	mm																																																																																																																																																																																										
C <sub>H</sub>	水平方向角度	—																																																																																																																																																																																										
C <sub>V</sub>	鉛直方向角度	—																																																																																																																																																																																										
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm																																																																																																																																																																																										
E	縦弾性係数	MPa																																																																																																																																																																																										
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>																																																																																																																																																																																										
I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>																																																																																																																																																																																										
ℓ	軸長さ	mm																																																																																																																																																																																										
ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm																																																																																																																																																																																										
ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (=a)	mm																																																																																																																																																																																										
M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm																																																																																																																																																																																										
m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg																																																																																																																																																																																										
M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm																																																																																																																																																																																										
P	原動機出力	kW																																																																																																																																																																																										
P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N																																																																																																																																																																																										
記号	記号の説明	単位																																																																																																																																																																																										
a	軸端から支点Aまでの距離 (=ℓ <sub>2</sub> )	mm																																																																																																																																																																																										
A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
b	軸端から支点Bまでの距離	mm																																																																																																																																																																																										
C <sub>H</sub>	水平方向角度	—																																																																																																																																																																																										
C <sub>V</sub>	鉛直方向角度	—																																																																																																																																																																																										
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm																																																																																																																																																																																										
E	縦弾性係数	MPa																																																																																																																																																																																										
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>																																																																																																																																																																																										
I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>																																																																																																																																																																																										
I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>																																																																																																																																																																																										
ℓ	軸長さ	mm																																																																																																																																																																																										
ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm																																																																																																																																																																																										
ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (=a)	mm																																																																																																																																																																																										
M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm																																																																																																																																																																																										
m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg																																																																																																																																																																																										
M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm																																																																																																																																																																																										
P	原動機出力	kW																																																																																																																																																																																										
P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa																																																																																																																																																																																										
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm																																																																																																																																																																																										
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N																																																																																																																																																																																										
W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N																																																																																																																																																																																										

O2 ㊦ VI-2-10-1-2-1-4 R1

O2 ㊦ VI-2-10-1-2-1-4 R2

変更前

4.3 原動機の動的機能維持評価

燃料移送ポンプ用原動機の動的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-4 横軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。

燃料移送ポンプ用原動機は、地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認済加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-2に示す。

表4-2 機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )

評価部位	形式	方向	機能確認済加速度
原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7
		鉛直方向	1.0

0.2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-4 R.3

変更後

4.3 原動機の動的機能維持評価

燃料移送ポンプ用原動機の動的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-4 横軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。

燃料移送ポンプ用原動機は、地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認済加速度を適用する。機能確認済加速度を表4-3に示す。

表4-3 機能確認済加速度 ( $\times 9.8m/s^2$ )

評価部位	形式	方向	機能確認済加速度
原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7
		鉛直方向	1.0

0.2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-4 R.4

備考

記載の適正化

変更前	変更後	備考												
<p>O 2 ⑥ VI-2-10-1-2-1-7 R 0</p> <p>表 2-1 構造計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁)</p> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※図面の内容は図書機密の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁)</p>		<p>O 2 ⑦ VI-2-10-1-2-1-7 R 2</p> <p>表 2-1 構造計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。)</p> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※図面の内容は図書機密の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。)</p>		<p>記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁)</p>													
計画の概要		概略構造図												
<p>基礎・支持構造</p> <p>非常用ディーゼル発電設備制御盤のうち非常用ディーゼル発電機 2A 制御盤及び非常用ディーゼル発電機 2B 制御盤は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。)</p>													

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-2-2-1 高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電設備 機関・発電機の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-2-2-1 R 3 E</p> <p style="text-align: center;">100</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-2-2-1 R 4 E</p> <p style="text-align: center;">100</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-2-2-3 R.2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">k2</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>		<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-2-2-3 R.3</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">k2</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>		<p>記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>													
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>鋼をスカートで支持し、スカートを基礎ボルトで基礎に繋ぎ付ける。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>たて置円筒形（上面及び下面に横板を有するスカート支持たて置円筒形容器）</p>													



変更前	変更後	備考																	
<p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成25年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <p>a. 基礎ボルト                  b. 取付ボルト                  c. 軸                  d. 軸受                  e. 摺動部（主ねじ部）                  f. メカニカルシール                  g. 軸継手</p> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態ⅢSに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙間を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転環の変位可能量を、許容値とする。</p>	<p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成25年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <p>a. 基礎ボルト                  b. 取付ボルト                  c. 軸                  d. 軸受                  e. 摺動部（主ねじ部）                  f. メカニカルシール                  g. 軸継手</p> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態ⅢSに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙間を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転環の変位可能量を許容値とする。</p> <p><u>許容値を表4-1に示す。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>表4-1 許容値</u></p> <table border="1" data-bbox="1265 1220 1769 1372"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>材料</th> <th>単位</th> <th>許容値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軸</td> <td></td> <td>MPa</td> <td rowspan="4" style="width: 100px; height: 100px;"></td> </tr> <tr> <td>軸受</td> <td>—</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>摺動部（主ねじ部）</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>メカニカルシール</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">8 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</span></p>	評価対象部位	材料	単位	許容値	軸		MPa		軸受	—	MPa	摺動部（主ねじ部）	—	mm	メカニカルシール	—	mm	<p>記載の適正化</p>
評価対象部位	材料	単位	許容値																
軸		MPa																	
軸受	—	MPa																	
摺動部（主ねじ部）	—	mm																	
メカニカルシール	—	mm																	



変更前

変更後

備考

4.2.3 記号の説明

燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表4-1に示す。

表4-1 記号の説明

記号	記号の説明	単位
a	軸端から支点Aまでの距離 (= $l_2$ )	mm
$A_{R1}$	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>
$A_{R2}$	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>
$A_S$	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>
b	軸端から支点Bまでの距離	mm
$C_H$	水平方向震度	-
$C_V$	鉛直方向震度	-
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm
E	縦弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>
$I_1$	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
$I_2$	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
l	軸長さ	mm
$l_1$	支点間距離	mm
$l_2$	軸端から支点Aまでの距離 (= a)	mm
M	最大曲げモーメント ( $M_A$ , $M_B$ の大なる方)	N・mm
$m_0$	軸系総質量	kg
$M_A$	支点Aの曲げモーメント	N・mm
$M_B$	支点Bの曲げモーメント	N・mm
$M_P$	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm
P	原動機出力	kW
$P_{R1}$	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa
$P_{R2}$	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa
$P_S$	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N
$W_1$	地震力を考慮した軸端部荷重	N
$W_2$	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N
$W_{R1}$	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N

4.2.3 記号の説明

燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表4-2に示す。

表4-2 記号の説明

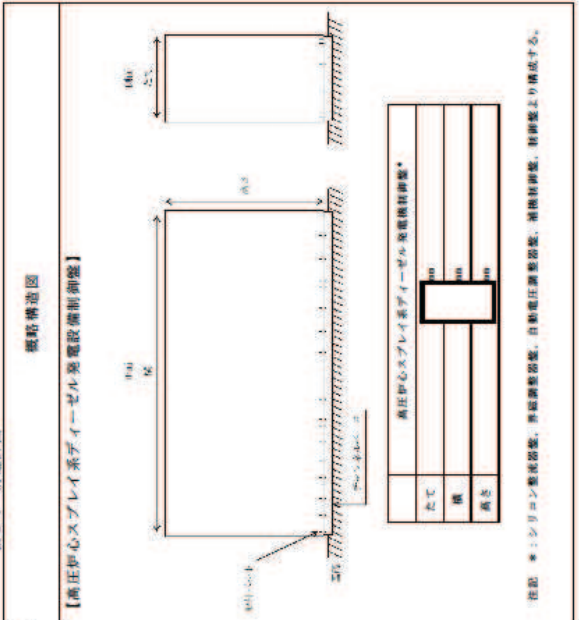
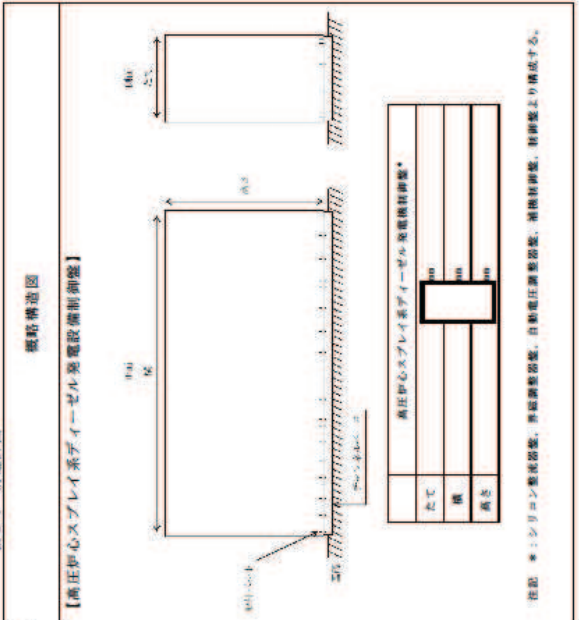
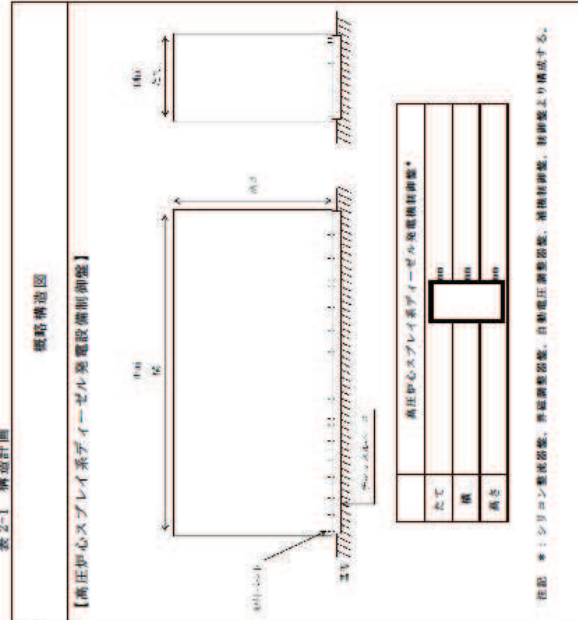
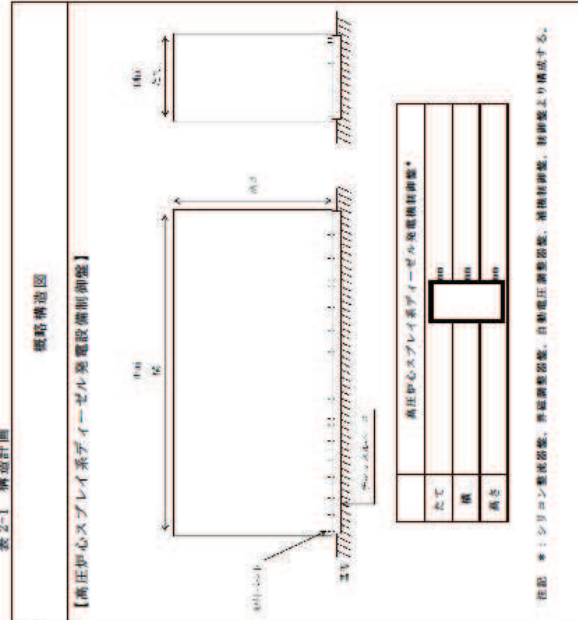
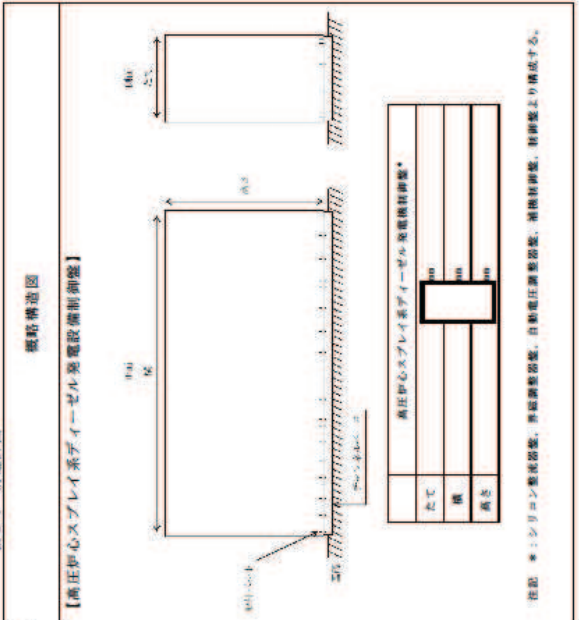
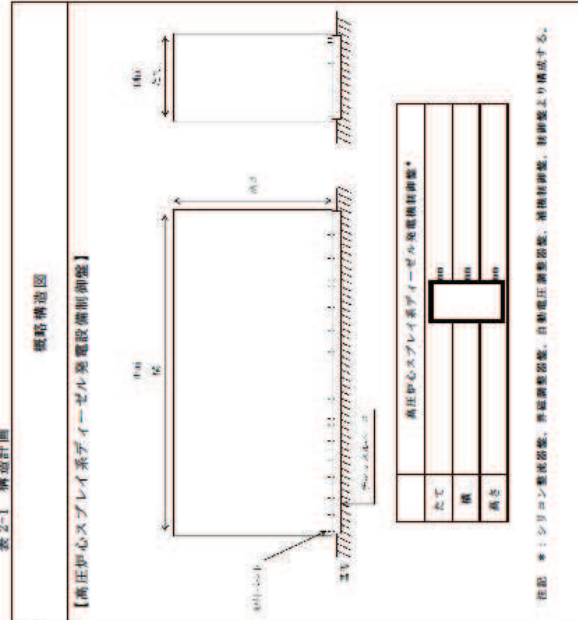
記号	記号の説明	単位
a	軸端から支点Aまでの距離 (= $l_2$ )	mm
$A_{R1}$	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>
$A_{R2}$	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>
$A_S$	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>
b	軸端から支点Bまでの距離	mm
$C_H$	水平方向震度	-
$C_V$	鉛直方向震度	-
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm
E	縦弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>
$I_1$	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
$I_2$	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
l	軸長さ	mm
$l_1$	支点間距離	mm
$l_2$	軸端から支点Aまでの距離 (= a)	mm
M	最大曲げモーメント ( $M_A$ , $M_B$ の大なる方)	N・mm
$m_0$	軸系総質量	kg
$M_A$	支点Aの曲げモーメント	N・mm
$M_B$	支点Bの曲げモーメント	N・mm
$M_P$	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm
P	原動機出力	kW
$P_{R1}$	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa
$P_{R2}$	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa
$P_S$	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N
$W_1$	地震力を考慮した軸端部荷重	N
$W_2$	軸受にかかる通常運転時のスラスト荷重	N
$W_{R1}$	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N

記載の適正化

変更前	変更後	備考																				
<p>4.3 原動機の動的機能維持評価</p> <p>燃料移送ポンプ用原動機の動的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-4 横軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。</p> <p>燃料移送ポンプ用原動機は、地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認加速度を適用する。機能確認加速度を表4-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-2 機能確認加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="327 571 920 687"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>形式</th> <th>方向</th> <th>機能確認加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td rowspan="2">横形ころがり軸受電動機</td> <td>水平方向</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">14</p>	評価部位	形式	方向	機能確認加速度	原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7	鉛直方向	1.0	<p>4.3 原動機の動的機能維持評価</p> <p>燃料移送ポンプ用原動機の動的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-4 横軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。</p> <p>燃料移送ポンプ用原動機は、地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認加速度を適用する。機能確認加速度を表4-3に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4-3 機能確認加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1211 571 1805 687"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>形式</th> <th>方向</th> <th>機能確認加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原動機</td> <td rowspan="2">横形ころがり軸受電動機</td> <td>水平方向</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>鉛直方向</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">14</p>	評価部位	形式	方向	機能確認加速度	原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7	鉛直方向	1.0	<p>記載の適正化</p>
評価部位	形式	方向	機能確認加速度																			
原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7																			
		鉛直方向	1.0																			
評価部位	形式	方向	機能確認加速度																			
原動機	横形ころがり軸受電動機	水平方向	4.7																			
		鉛直方向	1.0																			

O2 ⑥ VI-2-10-1-2-2-4 R3

O2 ⑦ VI-2-10-1-2-2-4 R4

変更前	変更後	備考						
<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-2-2-7 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td style="width: 30%;"> <p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </td> </tr> </table>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁)</p>	<p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-2-2-7 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td style="width: 30%;"> <p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁であり、<u>列盤構造である。</u>)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </td> </tr> </table>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁であり、<u>列盤構造である。</u>)</p>	<p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁)</p>	<p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>						
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階層型の壁であり、<u>列盤構造である。</u>)</p>	<p>概略構造図</p> <p>【高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備制御盤】</p>  <p style="text-align: center;">枠内みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>						

変更前	変更後	備考																	
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">O2 ⑥ VI-2-10-1-2-3-2 R3</p> <p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>ガスタービン発電設備燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成25年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <p>a. 基礎ボルト                  b. 取付ボルト                  c. 軸                  d. 軸受                  e. 摺動部（主ねじ部）                  f. メカニカルシール                  g. 軸継手</p> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態ⅢSに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転量の変位可能量を、許容値とする。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">O3 ⑦ VI-2-10-1-2-3-2 R4</p> <p>4.2 ポンプの動的機能維持評価</p> <p>4.2.1 評価対象部位</p> <p>ガスタービン発電設備燃料移送ポンプは、原子力発電耐震設計特別調査委員会報告書「動的機器の地震時機能維持評価に関する調査報告書（昭和62年2月）」及び電力共通研究「動的機器の地震時機能維持の耐震余裕に関する研究（平成25年3月）」における類似構造の既往知見を踏まえ、地震時異常要因分析に基づいて、評価項目を以下のとおり抽出して評価を実施する。</p> <p>a. 基礎ボルト                  b. 取付ボルト                  c. 軸                  d. 軸受                  e. 摺動部（主ねじ部）                  f. メカニカルシール                  g. 軸継手</p> <p>このうち「a. 基礎ボルト」「b. 取付ボルト」については、「3. 構造強度評価」に従って評価を行い、「5. 評価結果」にて十分な裕度を有していることを確認している。また、「g. 軸継手」は、軸受でスラスト荷重を受け持つことで軸継手にスラスト荷重が発生しない構造であるため、評価対象外とする。</p> <p>以上より、本計算書においては、軸、軸受、摺動部（主ねじ部）及びメカニカルシールを評価対象部位とする。</p> <p>4.2.2 許容値</p> <p>軸の許容値は、軸の変形等による回転機能への影響を考慮し、軸の変形を弾性範囲内に留めるよう、「その他のポンプ」の許容応力状態ⅢSに準拠し設定する。摺動部（主ねじ部）については、主ねじとスリーブの接触による、回転機能、移送機能への影響を考慮して主ねじとスリーブ間隙を許容値とする。軸受は、回転機能確保の観点より面圧を、メカニカルシールは、流体保持機能確保の観点よりシール回転量の変位可能量を許容値とする。</p> <p style="text-align: center;">許容値を表 4-1 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 許容値</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>評価対象部位</th> <th>材料</th> <th>単位</th> <th>許容値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軸</td> <td>—</td> <td>MPa</td> <td rowspan="4" style="width: 100px;"></td> </tr> <tr> <td>軸受</td> <td>—</td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>摺動部（主ねじ部）</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>メカニカルシール</td> <td>—</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">8</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">※図みの内容は重要機器の観点から公開できません。</p>	評価対象部位	材料	単位	許容値	軸	—	MPa		軸受	—	MPa	摺動部（主ねじ部）	—	mm	メカニカルシール	—	mm	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
評価対象部位	材料	単位	許容値																
軸	—	MPa																	
軸受	—	MPa																	
摺動部（主ねじ部）	—	mm																	
メカニカルシール	—	mm																	



変更前

変更後

備考

4.2.3 記号の説明

ガスタービン発電設備燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表 4-1 に示す。

表4-1 記号の説明

記号	記号の説明	単位
a	軸端から支点Aまでの距離 (= $\ell_2$ )	mm
A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>
A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>
A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>
b	軸端から支点Bまでの距離	mm
C <sub>H</sub>	水平方向震度	—
C <sub>V</sub>	鉛直方向震度	—
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm
E	縦弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>
I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
ℓ	軸長さ	mm
ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm
ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (= a)	mm
M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm
m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg
M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm
M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm
M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm
P	原動機出力	kW
P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa
P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa
P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N
W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N
W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時荷重	N
W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N
W <sub>R2</sub>	軸受Bにかかる地震時のラジアル荷重	N
W <sub>S</sub>	軸受にかかる地震時のスラスト荷重	N
x	軸端からメカニカルシールシール面までの距離	mm

4.2.3 記号の説明

ガスタービン発電設備燃料移送ポンプの動的機能維持評価に使用する記号を表 4-2 に示す。

表4-2 記号の説明

記号	記号の説明	単位
a	軸端から支点Aまでの距離 (= $\ell_2$ )	mm
A <sub>R1</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Aの投影面積	mm <sup>2</sup>
A <sub>R2</sub>	ラジアル荷重を受ける軸受Bの投影面積	mm <sup>2</sup>
A <sub>S</sub>	スラスト荷重を受ける軸受の投影面積	mm <sup>2</sup>
b	軸端から支点Bまでの距離	mm
C <sub>H</sub>	水平方向震度	—
C <sub>V</sub>	鉛直方向震度	—
d	曲げモーメントが最大となる箇所の軸径	mm
E	縦弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s <sup>2</sup>
I <sub>1</sub>	軸最小径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
I <sub>2</sub>	シール面軸径での断面二次モーメント	mm <sup>4</sup>
ℓ	軸長さ	mm
ℓ <sub>1</sub>	支点間距離	mm
ℓ <sub>2</sub>	軸端から支点Aまでの距離 (= a)	mm
M	最大曲げモーメント (M <sub>A</sub> , M <sub>B</sub> の大なる方)	N・mm
m <sub>0</sub>	軸系総質量	kg
M <sub>A</sub>	支点Aの曲げモーメント	N・mm
M <sub>B</sub>	支点Bの曲げモーメント	N・mm
M <sub>P</sub>	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
N	回転数 (原動機の同期回転速度)	rpm
P	原動機出力	kW
P <sub>R1</sub>	ラジアル荷重による軸受Aの面圧	MPa
P <sub>R2</sub>	ラジアル荷重による軸受Bの面圧	MPa
P <sub>S</sub>	スラスト荷重による軸受の面圧	MPa
T	軸に作用するねじりモーメント	N・mm
w	地震力を考慮した軸等分布荷重	N
W <sub>1</sub>	地震力を考慮した軸端部荷重	N
W <sub>2</sub>	軸受にかかる通常運転時荷重	N
W <sub>R1</sub>	軸受Aにかかる地震時のラジアル荷重	N
W <sub>R2</sub>	軸受Bにかかる地震時のラジアル荷重	N
W <sub>S</sub>	軸受にかかる地震時のスラスト荷重	N
x	軸端からメカニカルシールシール面までの距離	mm

記載の適正化

0.2 ⑥ VI-2-10-1-2-3-2 R1

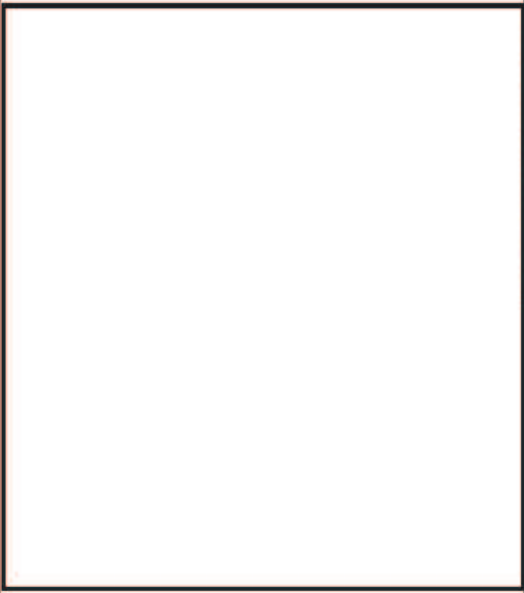
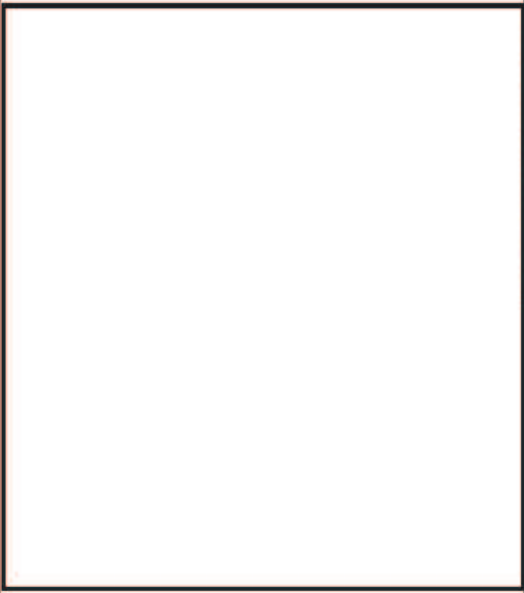
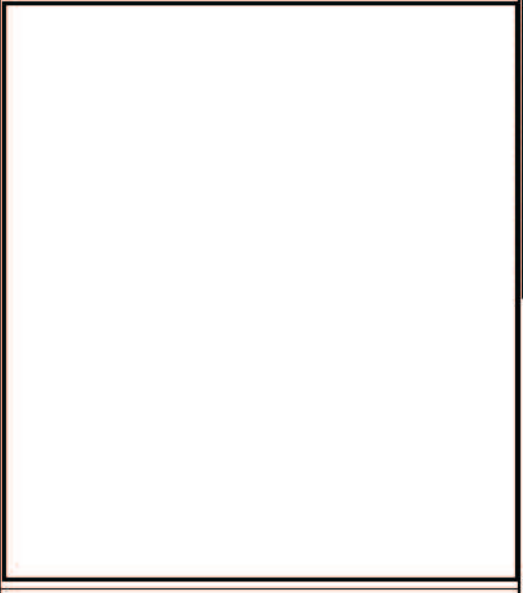
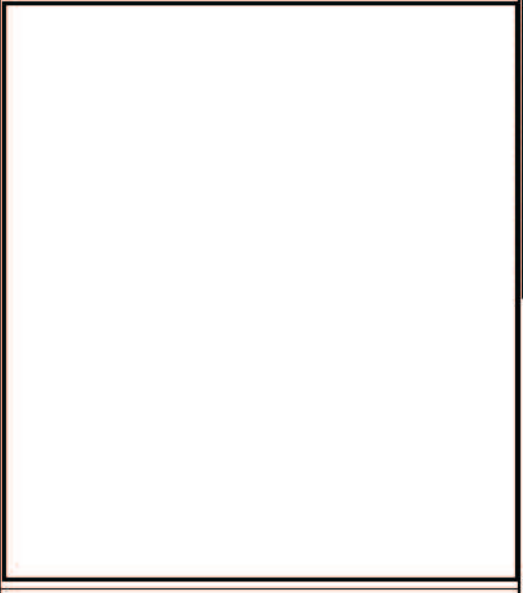
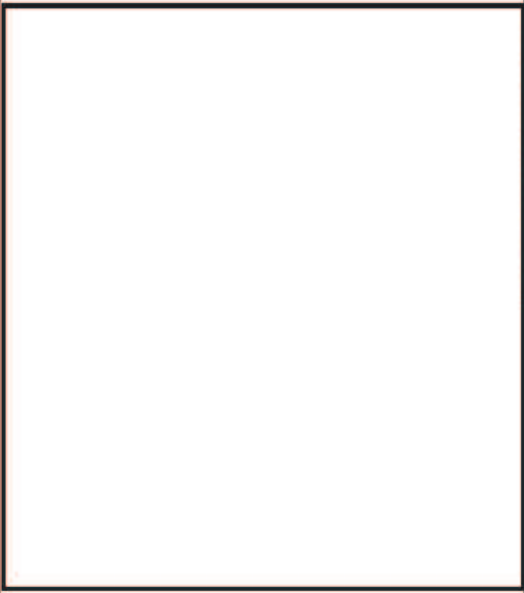
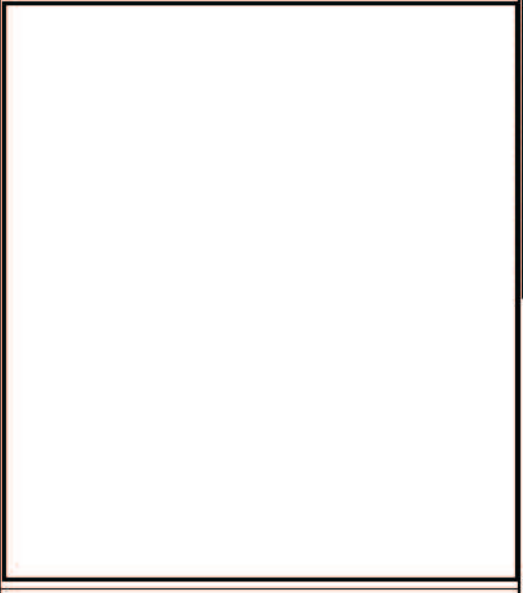
0.2 ⑦ VI-2-10-1-2-3-2 R2

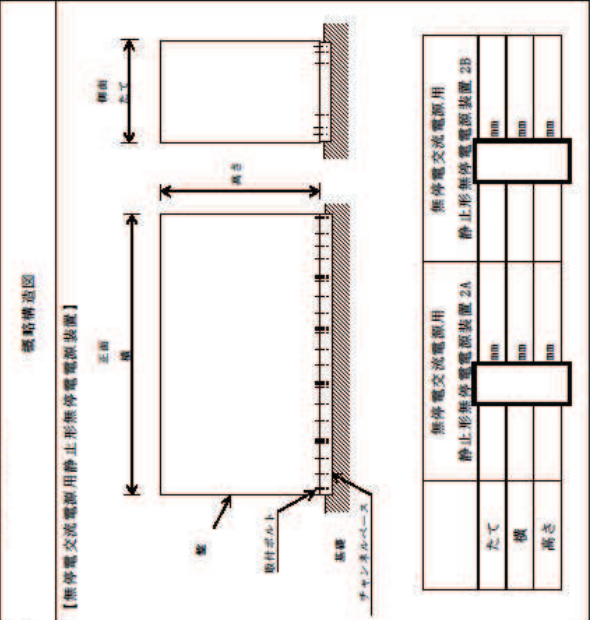
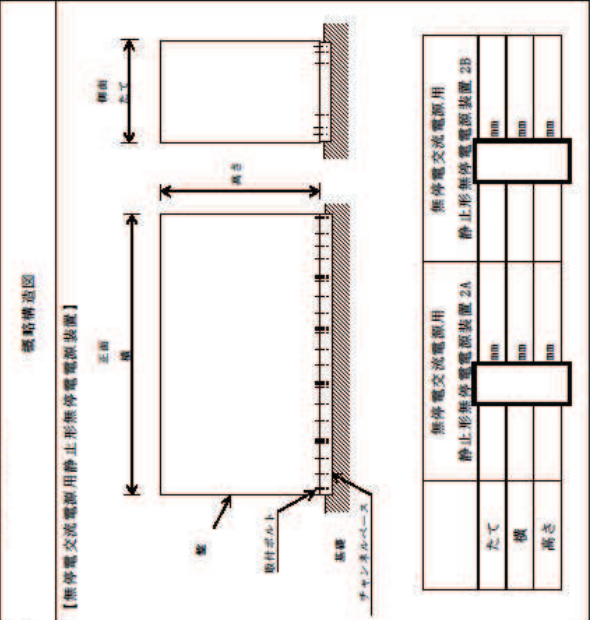
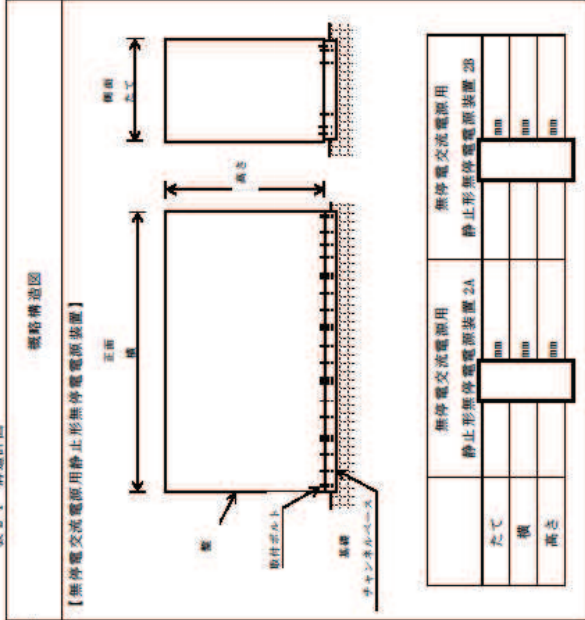
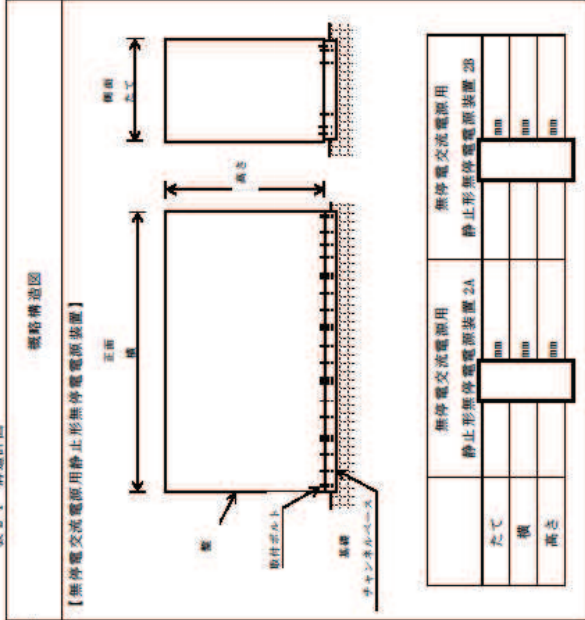
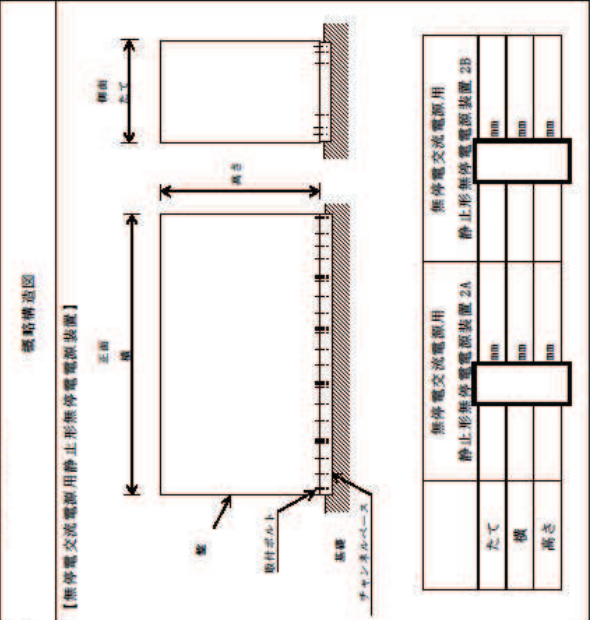
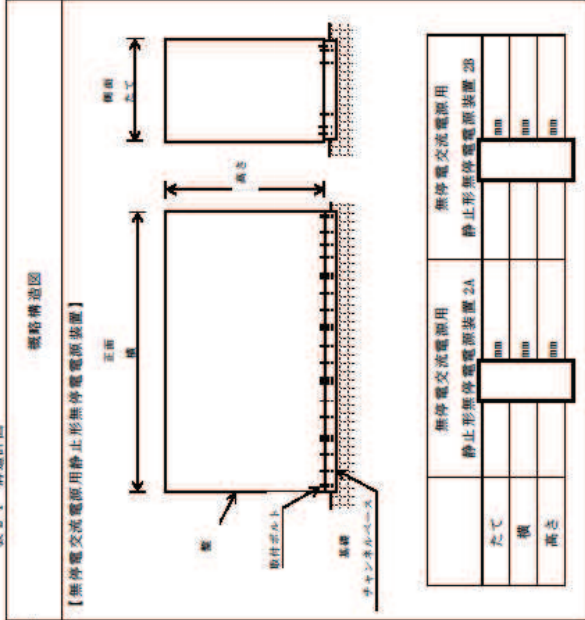


女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-2-3-2 ガスタービン発電設備 燃料移送ポンプの耐震性についての計算書】

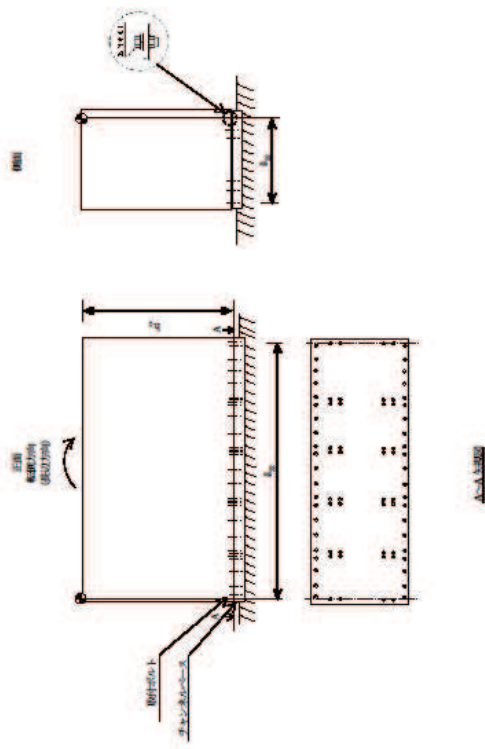
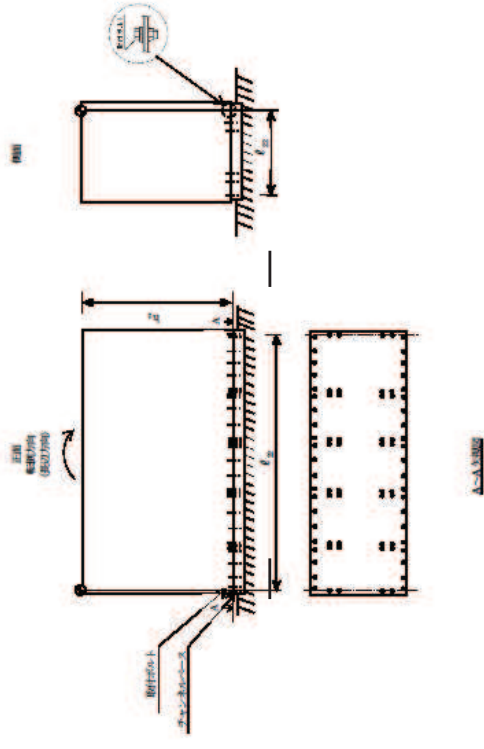
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-2-3-2 R.1E</p> <p style="text-align: center;">図 9</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-2-3-2 R.2E</p> <p style="text-align: center;">図 10</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考						
<p style="text-align: center;">O2 ⑥ VI-2-10-1-2-3-4 R.3</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p> </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="width: 60%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p> </td> </tr> </table> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">特記事項の内容は商業秘密の観点から公開できません。</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p>	<p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p>	<p style="text-align: center;">O2 ⑦ VI-2-10-1-2-3-4 R.4</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p> </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p> </td> <td style="width: 60%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p> </td> </tr> </table> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">特記事項の内容は商業秘密の観点から公開できません。</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p>	<p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p>	<p>記載の適正化</p>
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p>	<p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p>						
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ガスタービン発電設備燃料小出槽は取付ボルトにより架台に固定する。また、架台は梁台取付ボルトにより車面に固定する。</p>	<p>主体構造 たて置円筒形（上面に屋根板及び下面に底板を有する平底たて置円筒形容器）</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right; font-size: small;">(単位: mm)</p>						

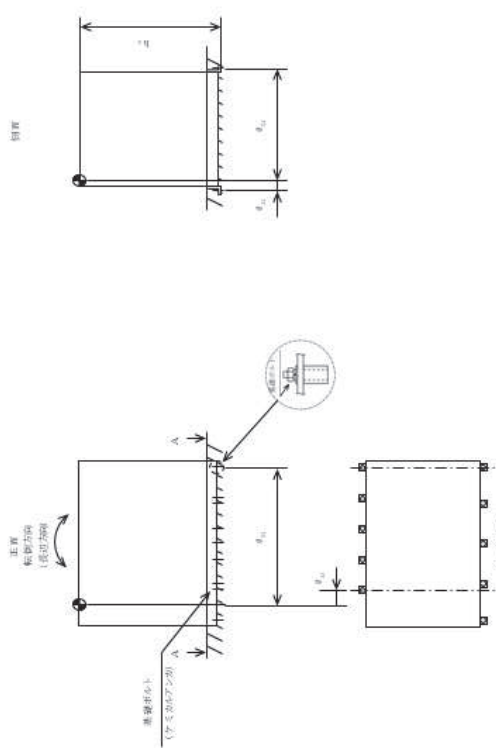
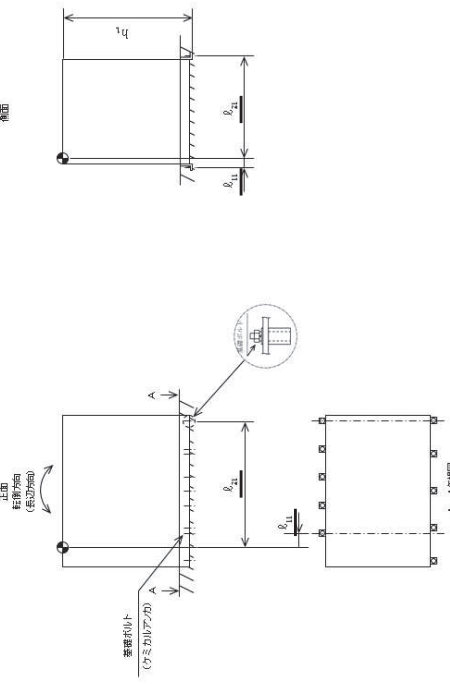
変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-2-3-6 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 詳細な内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p>		<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-2-3-6 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p> </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 詳細な内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)</p>		<p>記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p>													
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>制御盤は取付ボルトにより東西に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)</p>													

変更前	変更後	備考								
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-1-1 R 0</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 30%;">計画の概要</th> <th style="width: 70%;">概略構造図</th> </tr> <tr> <td> <p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p>  </td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">12</p>	計画の概要	概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p> 	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-3-1-1 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 30%;">計画の概要</th> <th style="width: 70%;">概略構造図</th> </tr> <tr> <td> <p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p>  </td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">13</p>	計画の概要	概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p> 	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要	概略構造図									
<p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p> 									
計画の概要	概略構造図									
<p><b>基礎・支持構造</b>                      無停電交流電源用静止形無停電電源装置のうち静止形無停電電源装置 2A 及び静止形無停電電源装置 2B は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p style="text-align: center;">【無停電交流電源用静止形無停電電源装置】</p> 									

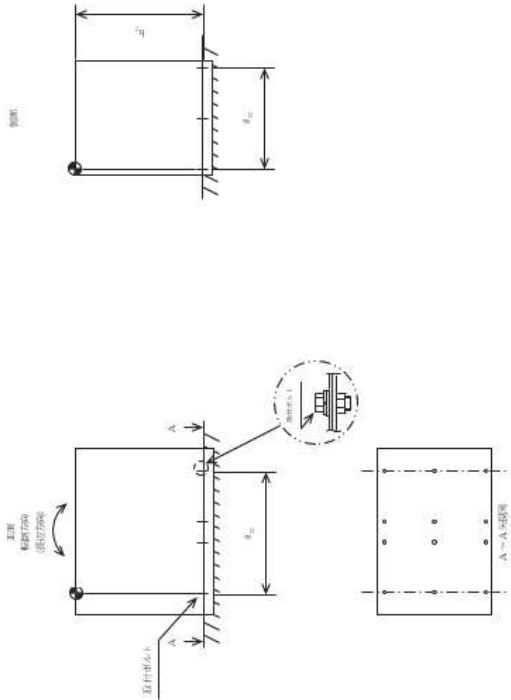
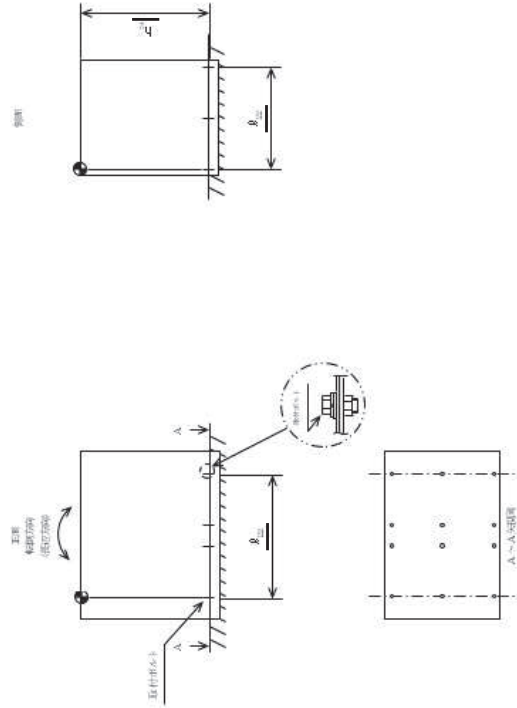
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-1-1 無停電交流電源用静止形無停電電源装置の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-1-1 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-3-1-1 R 2 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

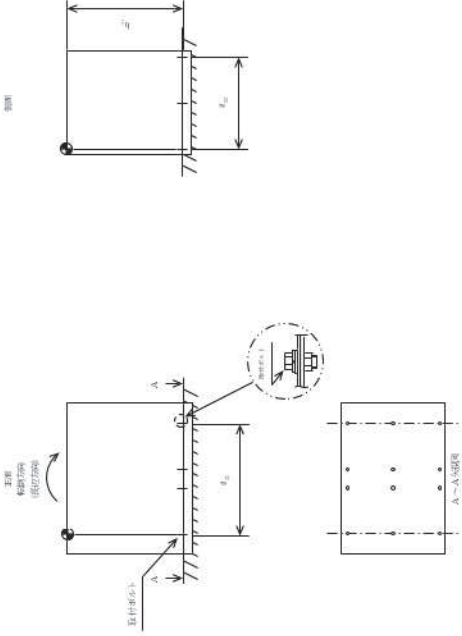
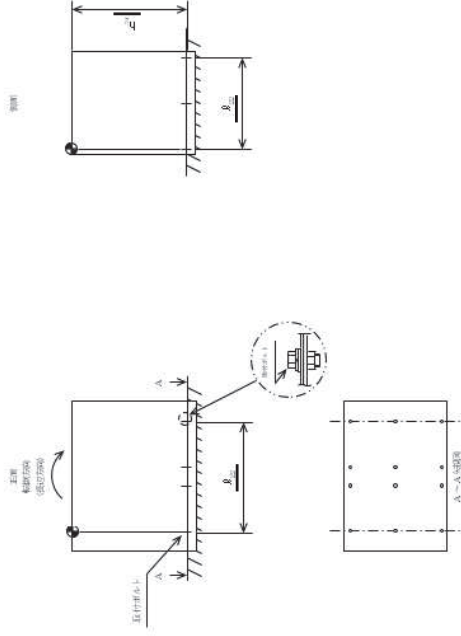


変更前	変更後	備考
<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p>15</p>	<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p>15</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p> <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p> <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

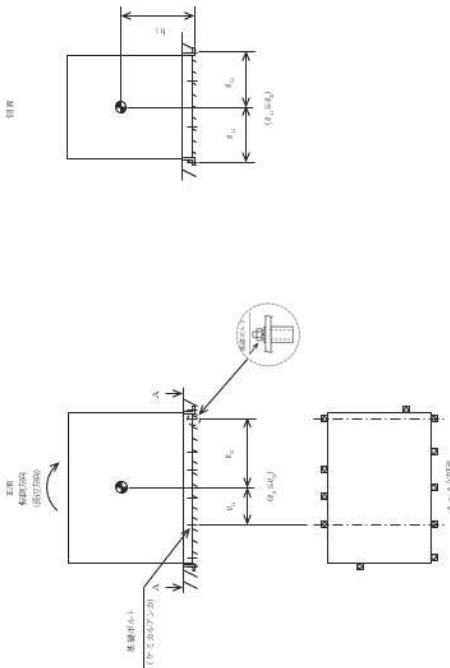
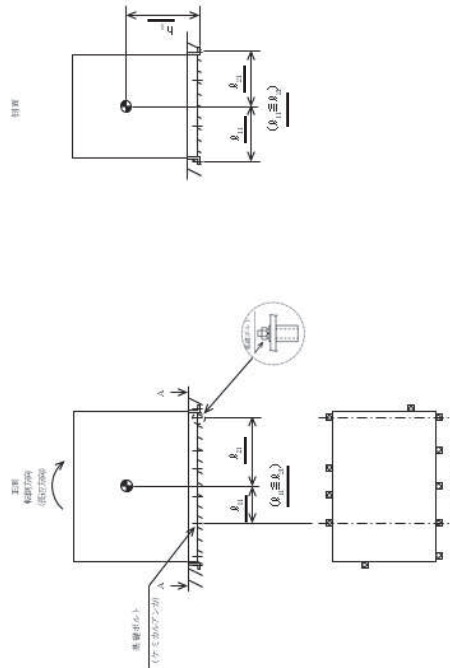
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⊗ M-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⊗ M-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

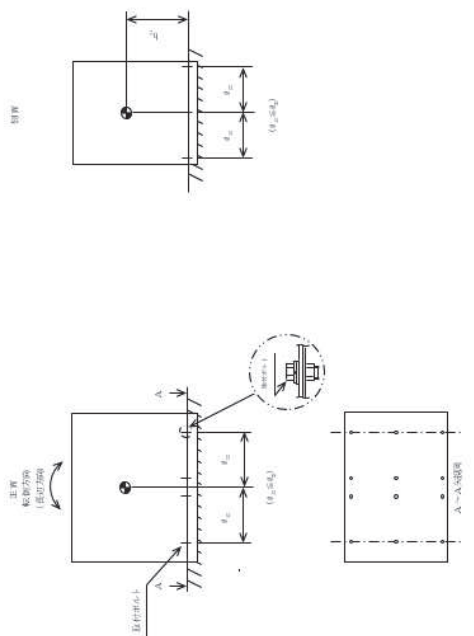
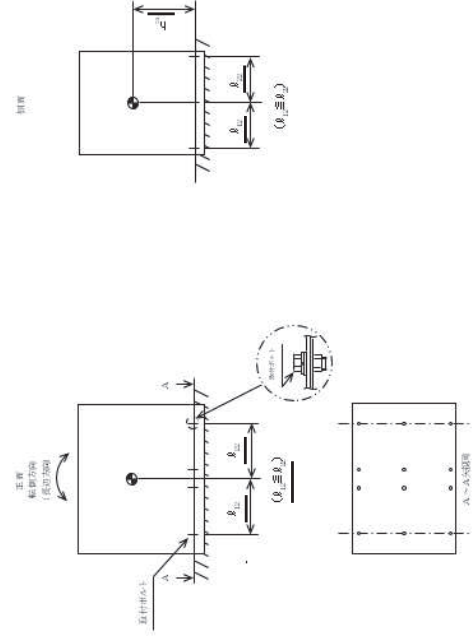
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

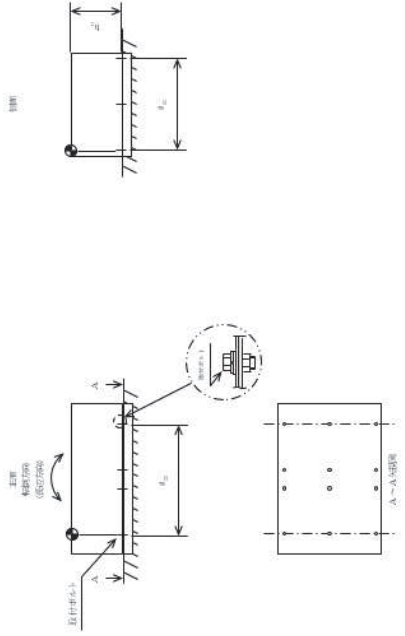
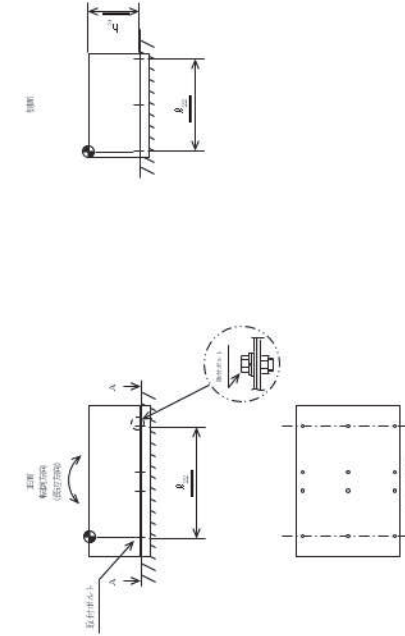
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p> <p style="text-align: center;">23</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p> <p style="text-align: center;">23</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p> <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p> <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

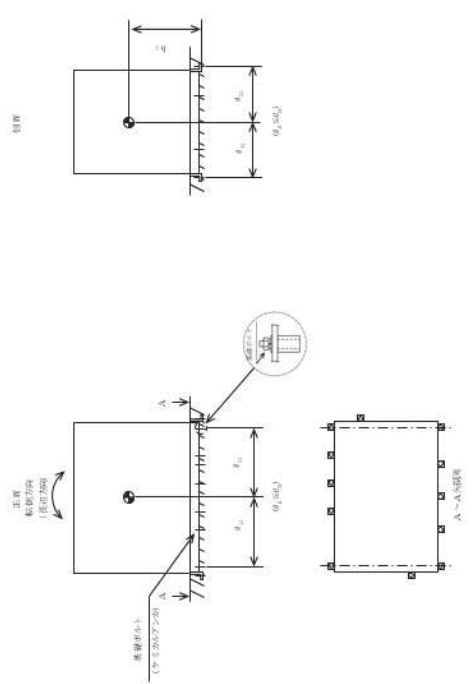
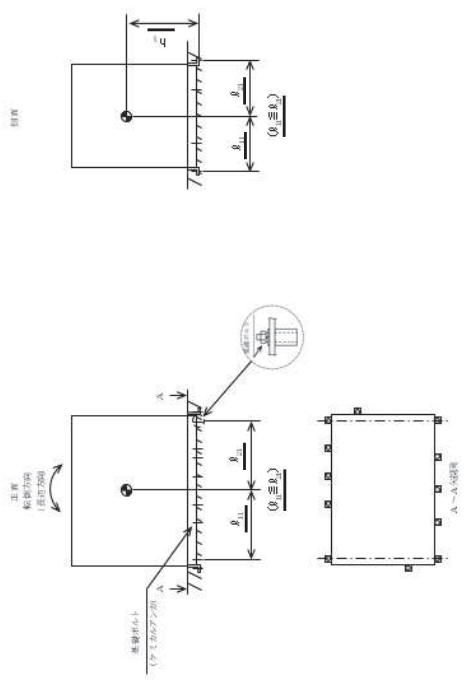
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

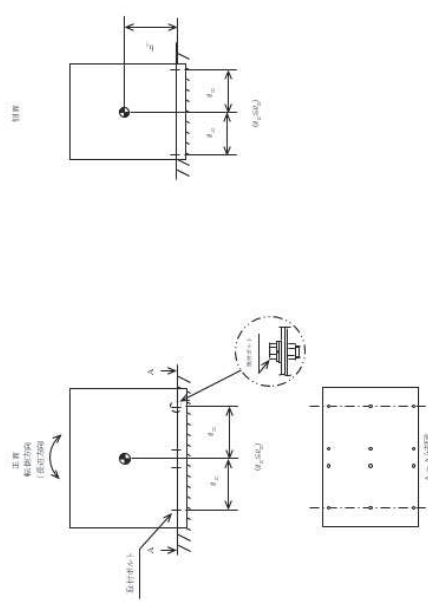
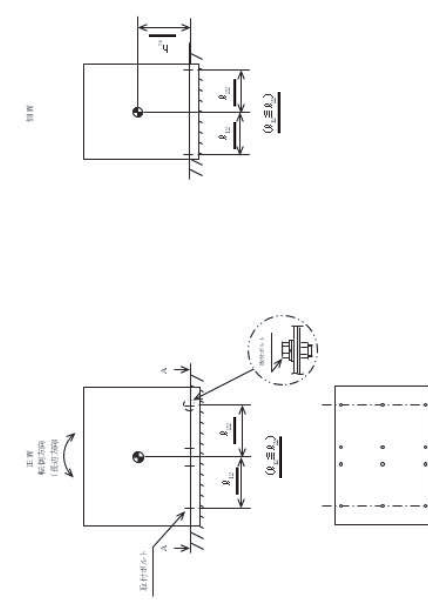
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p>31</p>	<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p>31</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

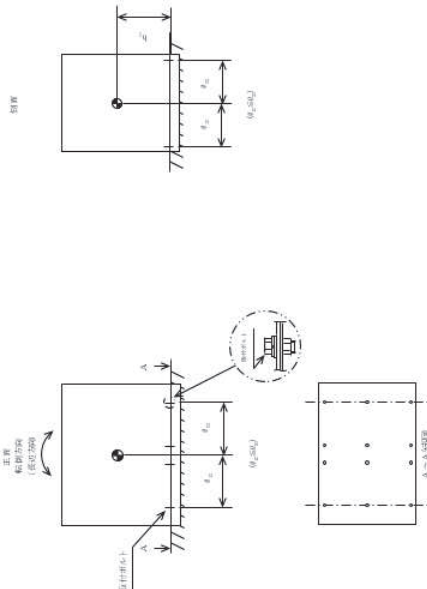
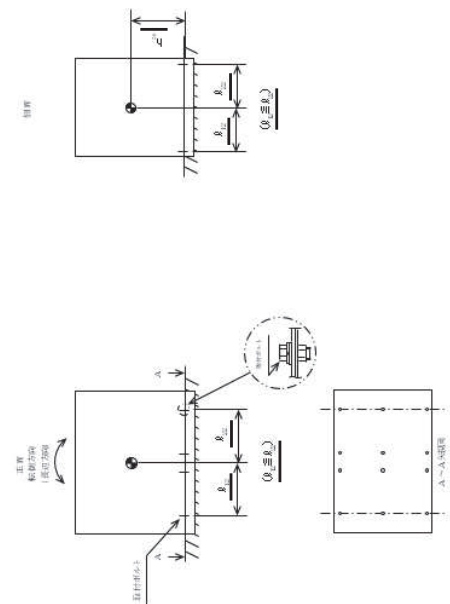
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p> <p style="text-align: center;">34</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p> <p style="text-align: center;">34</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">37</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">37</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">38</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">38</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>○ 2 ③ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p> <p>41</p>	<p>○ 2 ③ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p> <p>41</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

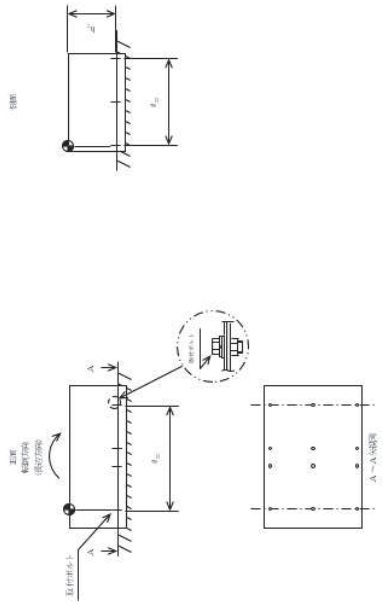
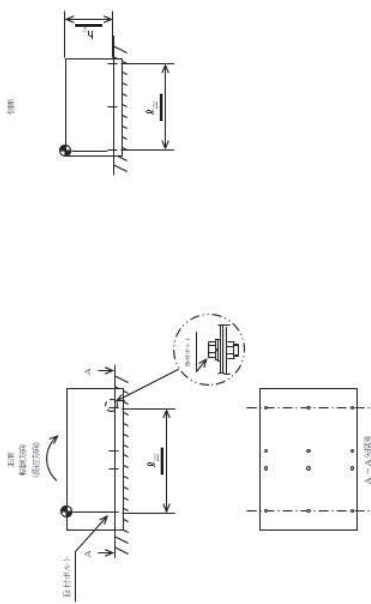
変更前	変更後	備考
<p>○ 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p>42</p>	<p>○ 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p>42</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

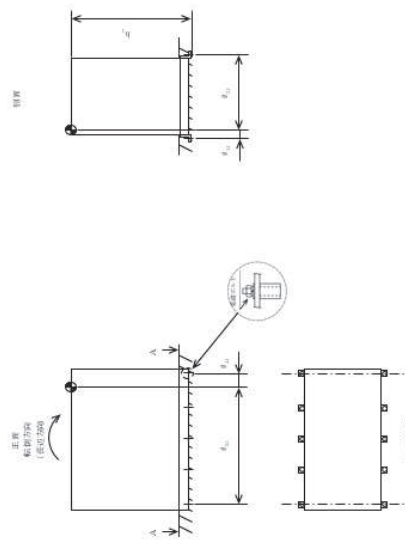
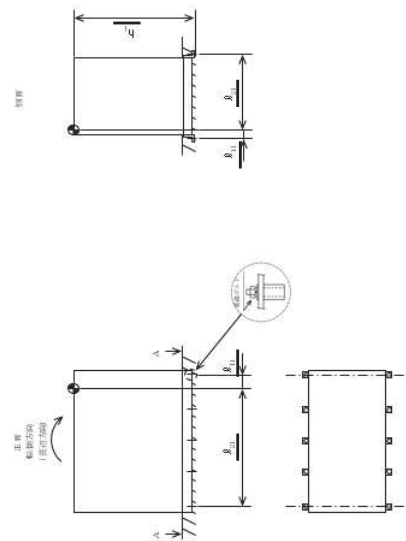
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p> <p style="text-align: center;">45</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p> <p style="text-align: center;">45</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p style="text-align: center;">48</p>	<p style="text-align: center;">○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p style="text-align: center;">48</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

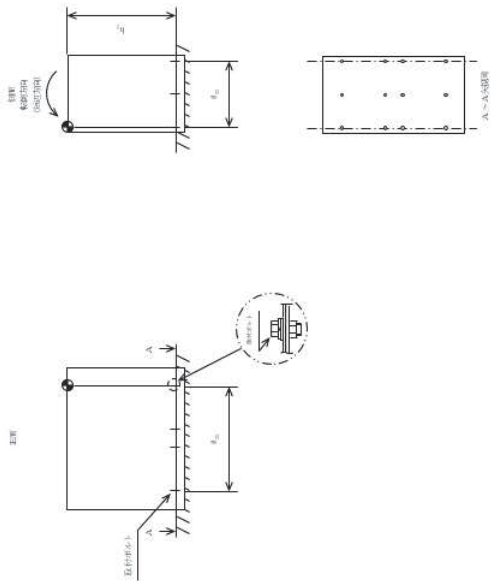
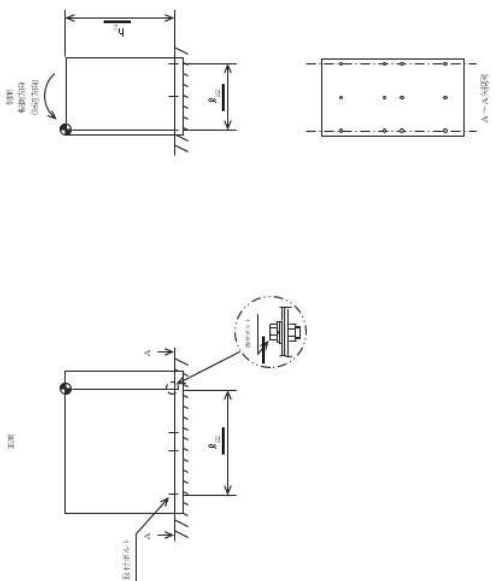
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">51</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">51</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>図 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p> <p>52</p>	<p>図 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p> <p>52</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

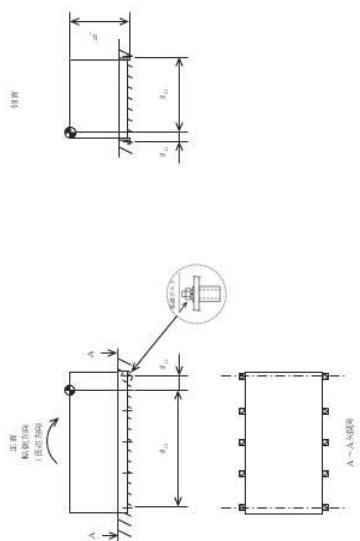
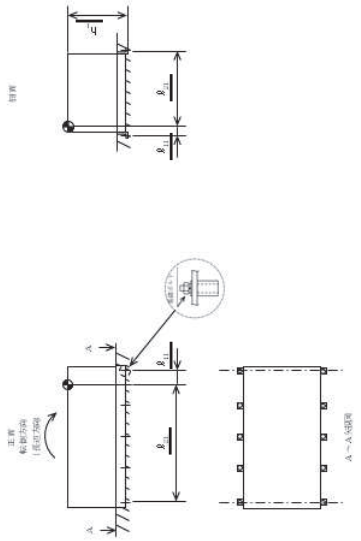
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 1</p> <p style="text-align: center;">55</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ② VI-2-10-1-3-2-1 R 2</p> <p style="text-align: center;">55</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

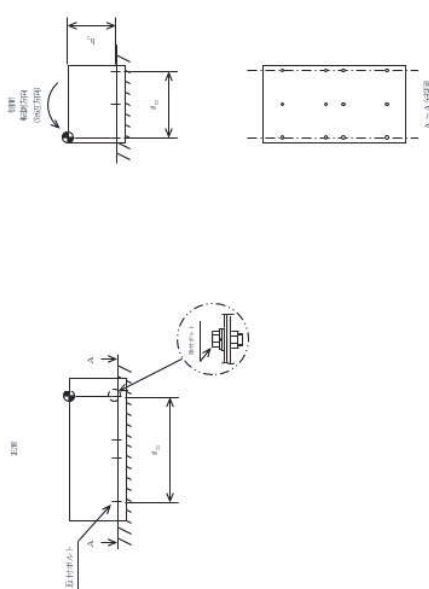
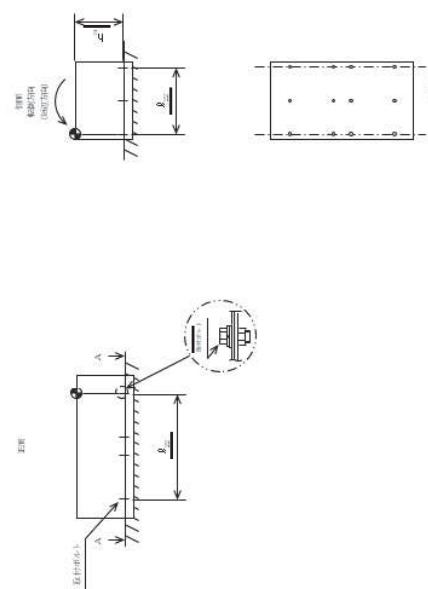
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">56</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">56</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

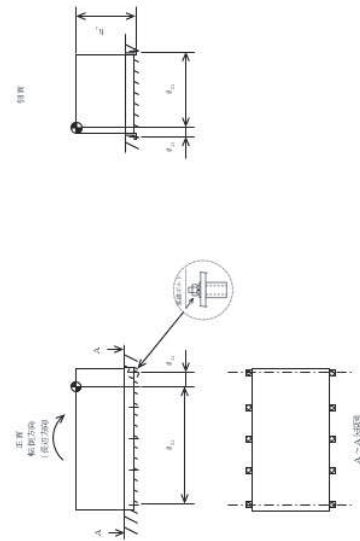
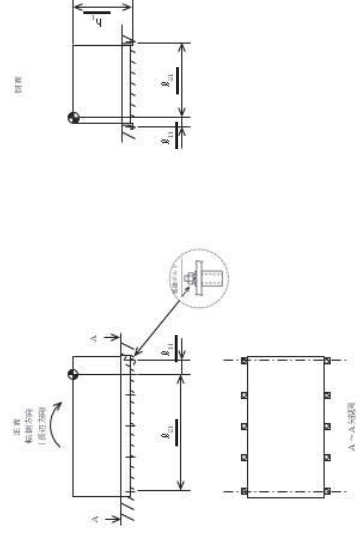


女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

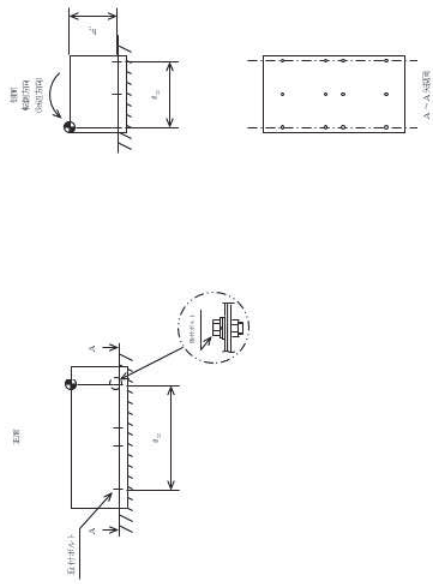
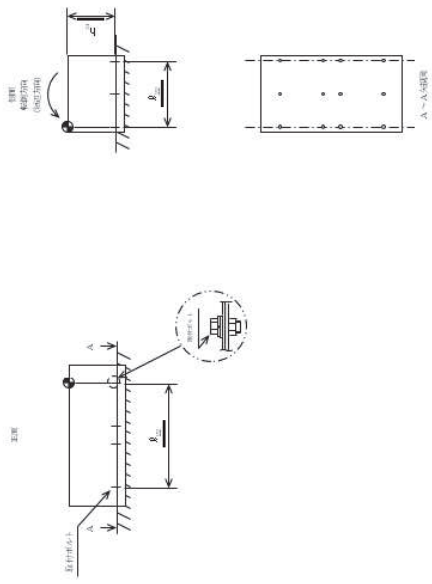
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">59</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">59</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ M-2-10-1-3-2-1 R 1</p>  <p style="text-align: center;">60</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ M-2-10-1-3-2-1 R 2</p>  <p style="text-align: center;">60</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

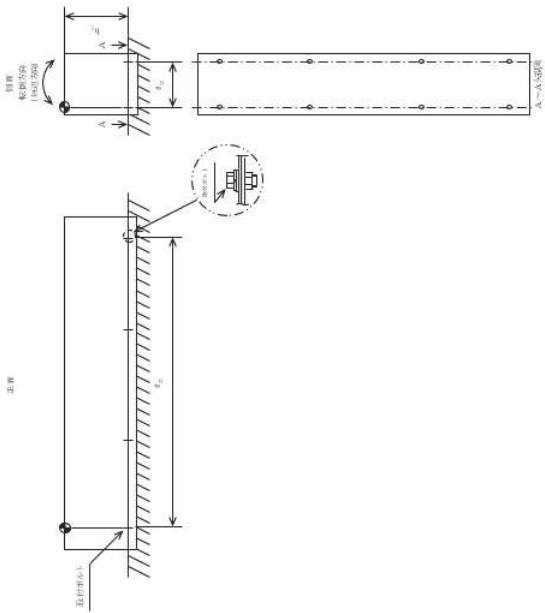
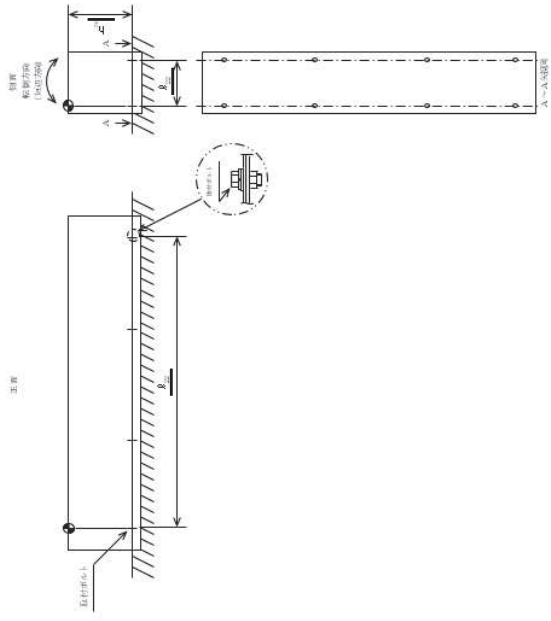
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">63</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">63</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

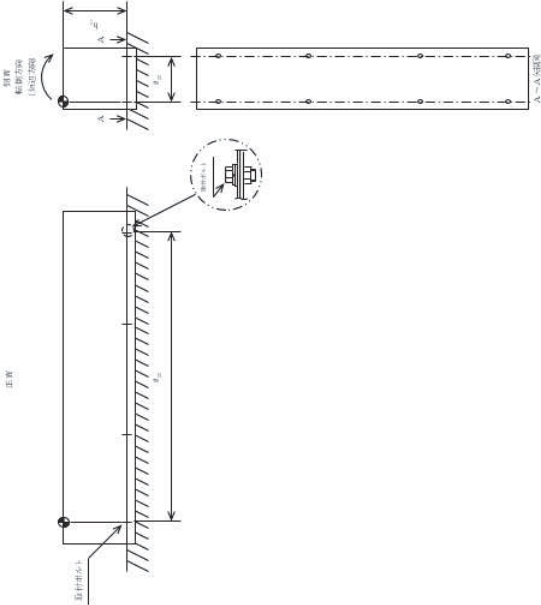
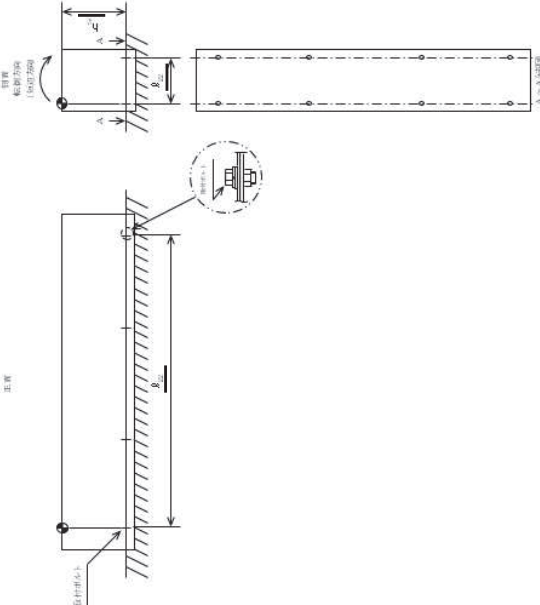
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

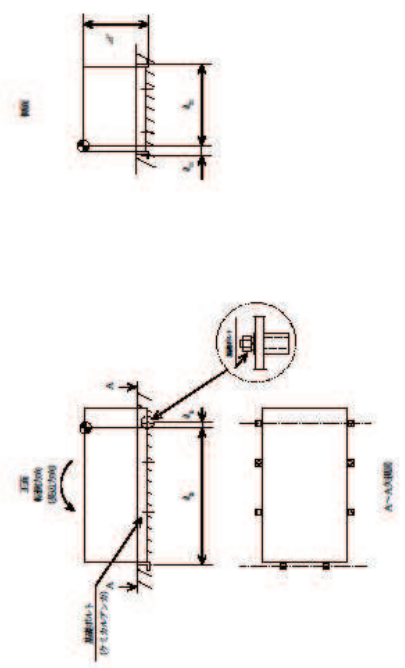
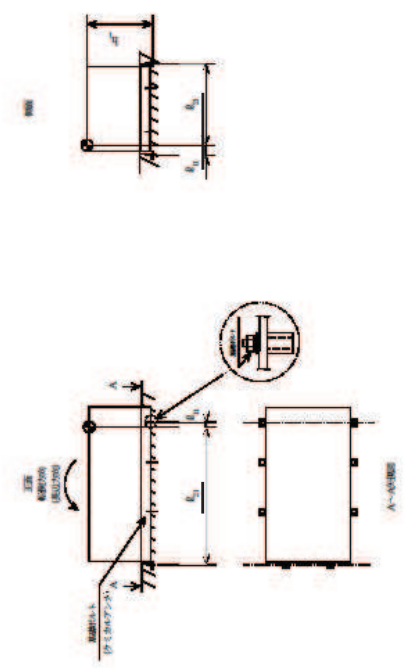
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p style="text-align: center;">64</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑤ VI-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p style="text-align: center;">64</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

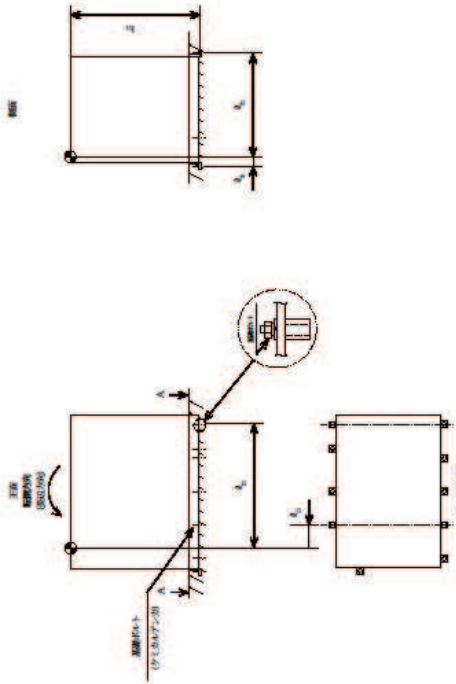
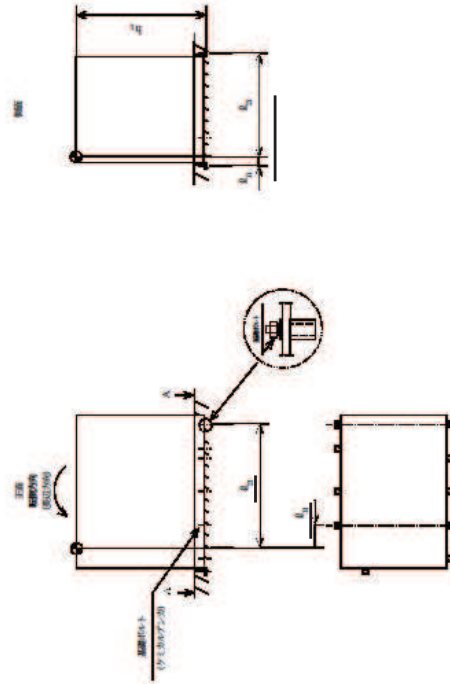
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-3-2-1 125V蓄電池の耐震性についての計算書】

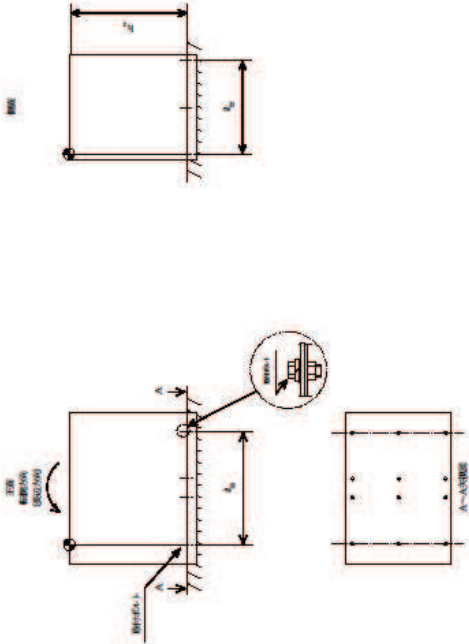
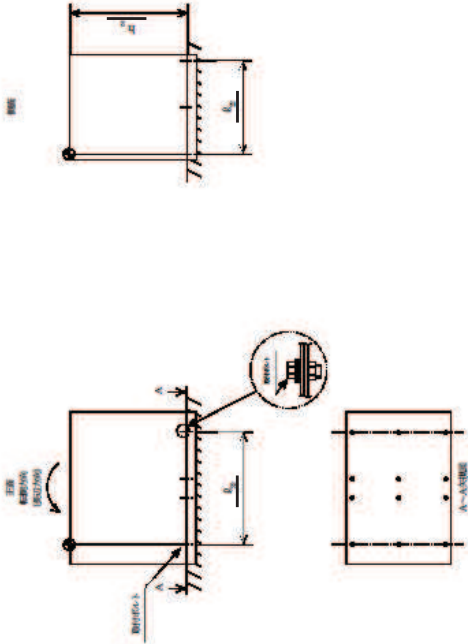
変更前	変更後	備考
<p>図 2 ⑥ M-2-10-1-3-2-1 R.1</p>  <p>67</p>	<p>図 2 ⑥ M-2-10-1-3-2-1 R.2</p>  <p>67</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>



変更前	変更後	備考
<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 1 E</p>  <p>70</p>	<p>○ 2 ④ VI-2-10-1-3-2-1 R 2 E</p>  <p>70</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-2 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-3-2-2 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-3-2-3 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-3-2-3 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="219 703 241 986">O 2 ④ VI-2-10-1-3-2-3 R 1 E</p>  <p data-bbox="584 1353 607 1374">13</p>	<p data-bbox="1106 703 1128 986">O 2 ④ VI-2-10-1-3-2-3 R 2 E</p>  <p data-bbox="1476 1353 1498 1374">13</p>	<p data-bbox="1962 608 2085 628">記載の適正化</p> <p data-bbox="1962 986 2085 1007">記載の適正化</p>

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-1 R.1

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図
<p>基礎・支持構造 メタルクラッドスイッチギア (非常用) のうち6.9kVメタクラ6-2C及び6.9kVメタクラ6-2Dは、基礎に埋め込まれたチャンネルスに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の殻)</p>	
<p>※図面の内容は図面番号の観点から公開できません。</p>		

12

変更前

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-1 R.3

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図
<p>基礎・支持構造 メタルクラッドスイッチギア (非常用) のうち6.9kVメタクラ6-2C及び6.9kVメタクラ6-2Dは、基礎に埋め込まれたチャンネルスに取付ボルトで設置する。</p>	<p>主体構造 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の殻であり、列盤構造である。)</p>	
<p>※図面の内容は図面番号の観点から公開できません。</p>		

12

変更後

記載の適正化

備考



変更前	変更後	備考																						
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（非常用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kV メタクラ 6-2C 及び 6.9kV メタクラ 6-2D の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表 5-1 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="349 635 967 785"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2C</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2D</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">□ 枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kV メタクラ 6-2C	水平	□	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2D	水平	□	鉛直	<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（非常用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kV メタクラ 6-2C 及び 6.9kV メタクラ 6-2D の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表 5-1 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1245 635 1841 785"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2C</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2D</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">□ 枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kV メタクラ 6-2C	水平	□	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2D	水平	□	鉛直	<p>記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認済加速度																						
6.9kV メタクラ 6-2C	水平	□																						
	鉛直																							
6.9kV メタクラ 6-2D	水平	□																						
	鉛直																							
評価部位	方向	機能確認済加速度																						
6.9kV メタクラ 6-2C	水平	□																						
	鉛直																							
6.9kV メタクラ 6-2D	水平	□																						
	鉛直																							

変更前										
O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-1 R 1										
1.3 計算数値										
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)										
部材	<table border="1"> <thead> <tr> <th><math>F_{11}</math></th> <th><math>Q_{11}</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弾性設計用地震動Sd又は耐力強度</td> <td>基準地震動Ss</td> </tr> <tr> <td>9.697×10<sup>8</sup></td> <td>4.226×10<sup>8</sup></td> </tr> </tbody> </table>	$F_{11}$	$Q_{11}$	弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	基準地震動Ss	9.697×10 <sup>8</sup>	4.226×10 <sup>8</sup>			
$F_{11}$	$Q_{11}$									
弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	基準地震動Ss									
9.697×10 <sup>8</sup>	4.226×10 <sup>8</sup>									
1.4 結論										
1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)										
部材	<table border="1"> <thead> <tr> <th>弾性設計用地震動Sd又は耐力強度</th> <th>算出応力</th> <th>基準地震動Ss</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張り</td> <td><math>f_{111}=196^*</math></td> <td><math>f_{112}=78</math></td> </tr> <tr> <td>せん断</td> <td><math>f_{113}=138</math></td> <td><math>f_{114}=111</math></td> </tr> </tbody> </table>	弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	算出応力	基準地震動Ss	引張り	$f_{111}=196^*$	$f_{112}=78$	せん断	$f_{113}=138$	$f_{114}=111$
弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	算出応力	基準地震動Ss								
引張り	$f_{111}=196^*$	$f_{112}=78$								
せん断	$f_{113}=138$	$f_{114}=111$								
注記*： $f_{11n} = \min [1.4 \cdot f_{11n} - 1.6 \cdot \tau_{11n}, f_{11n}]$ より算出 すべて許容応力以下である。										
1.4.2 縦方向機械接合部の耐力結果 (×9.386/δ)										
6.99/メタクラッド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機械的許容耐力</th> <th>機械的耐力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.91</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機械的許容耐力	機械的耐力	1.31		0.91				
機械的許容耐力	機械的耐力									
1.31										
0.91										
注記*：基準地震動Ssにより定まる応力増加率とする。 機械的許容耐力(1.029N)はすべて機械的耐力以下である。										
二										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     特記事項の内容は標準仕様書の観点から公開できません。                 </div>										

変更後										
O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-1 R 3										
1.3 計算数値										
1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)										
部材	<table border="1"> <thead> <tr> <th><math>F_{11}</math></th> <th><math>Q_{11}</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弾性設計用地震動Sd又は耐力強度</td> <td>基準地震動Ss</td> </tr> <tr> <td>9.697×10<sup>8</sup></td> <td>4.226×10<sup>8</sup></td> </tr> </tbody> </table>	$F_{11}$	$Q_{11}$	弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	基準地震動Ss	9.697×10 <sup>8</sup>	4.226×10 <sup>8</sup>			
$F_{11}$	$Q_{11}$									
弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	基準地震動Ss									
9.697×10 <sup>8</sup>	4.226×10 <sup>8</sup>									
1.4 結論										
1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)										
部材	<table border="1"> <thead> <tr> <th>弾性設計用地震動Sd又は耐力強度</th> <th>算出応力</th> <th>基準地震動Ss</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張り</td> <td><math>f_{111}=196^*</math></td> <td><math>f_{112}=78</math></td> </tr> <tr> <td>せん断</td> <td><math>f_{113}=138</math></td> <td><math>f_{114}=111</math></td> </tr> </tbody> </table>	弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	算出応力	基準地震動Ss	引張り	$f_{111}=196^*$	$f_{112}=78$	せん断	$f_{113}=138$	$f_{114}=111$
弾性設計用地震動Sd又は耐力強度	算出応力	基準地震動Ss								
引張り	$f_{111}=196^*$	$f_{112}=78$								
せん断	$f_{113}=138$	$f_{114}=111$								
注記*： $f_{11n} = \min [1.4 \cdot f_{11n} - 1.6 \cdot \tau_{11n}, f_{11n}]$ より算出 すべて許容応力以下である。										
1.4.2 縦方向機械接合部の耐力結果 (×9.386/δ)										
6.99/メタクラッド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機械的許容耐力</th> <th>機械的耐力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.91</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機械的許容耐力	機械的耐力	1.31		0.91				
機械的許容耐力	機械的耐力									
1.31										
0.91										
注記*：基準地震動Ssにより定まる応力増加率とする。 機械的許容耐力(1.029N)はすべて機械的耐力以下である。										
二										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     特記事項の内容は標準仕様書の観点から公開できません。                 </div>										

記載の適正化



変更前	変更後	備考														
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（高圧炉心スプレイ系用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（高圧炉心スプレイ系用）の機能確認加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認加速度を表 5-1 に示す。</p> <div style="text-align: center;"> <p>表 5-1 機能確認加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2H</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>持図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	評価部位	方向	機能確認加速度	6.9kV メタクラ 6-2H	水平	□	鉛直	<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（高圧炉心スプレイ系用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（高圧炉心スプレイ系用）の機能確認加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認加速度を表 5-1 に示す。</p> <div style="text-align: center;"> <p>表 5-1 機能確認加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2H</td> <td>水平</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>持図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	評価部位	方向	機能確認加速度	6.9kV メタクラ 6-2H	水平	□	鉛直	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認加速度														
6.9kV メタクラ 6-2H	水平	□														
	鉛直															
評価部位	方向	機能確認加速度														
6.9kV メタクラ 6-2H	水平	□														
	鉛直															

変更前

O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-2 R 1

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)

部材	F <sub>1.1</sub>		Q <sub>1.1</sub>	
	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数	基本地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数	基本地震動 S <sub>s</sub>
取付ボルト (1=2)	9.48×10 <sup>6</sup>	2.190×10 <sup>6</sup>	7.661×10 <sup>6</sup>	1.671×10 <sup>6</sup>

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数		基本地震動 S <sub>s</sub>	
			引張り	せん断	引張り	せん断
取付ボルト (1=2)	SS400		σ <sub>1.1</sub> =31	τ <sub>1.1</sub> =19*	σ <sub>1.1</sub> =70	τ <sub>1.1</sub> =20*
			σ <sub>1.2</sub> =6	τ <sub>1.2</sub> =13*	σ <sub>1.2</sub> =12	τ <sub>1.2</sub> =101

注記\*：f<sub>tm</sub> = Min [1.4・f<sub>tm</sub> - 1.6・τ<sub>0.7・f<sub>0.2</sub>] より算出  
 ※すべて許容応力以下である。</sub>

1.4.2 電気の絶縁部材の耐力結果 (×9.806/2)

絶縁部材許容耐力		機内絶縁部材許容耐力	
水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向
1.31			
0.91			

注記\*：基本地震動 S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機内絶縁部材許容耐力(1.02FA)はすべて機内絶縁部材許容耐力以下である。

角部みの内容は原簿機軸の観点から公開できません。

変更後

O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-2 R 3

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)

部材	F <sub>1.1</sub>		Q <sub>1.1</sub>	
	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数	基本地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数	基本地震動 S <sub>s</sub>
取付ボルト (1=2)	9.48×10 <sup>6</sup>	2.190×10 <sup>6</sup>	7.661×10 <sup>6</sup>	1.671×10 <sup>6</sup>

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は耐力係数		基本地震動 S <sub>s</sub>	
			引張り	せん断	引張り	せん断
取付ボルト (1=2)	SS400		σ <sub>1.1</sub> =31	τ <sub>1.1</sub> =19*	σ <sub>1.1</sub> =70	τ <sub>1.1</sub> =20*
			σ <sub>1.2</sub> =6	τ <sub>1.2</sub> =13*	σ <sub>1.2</sub> =12	τ <sub>1.2</sub> =101

注記\*：f<sub>tm</sub> = Min [1.4・f<sub>tm</sub> - 1.6・τ<sub>0.7・f<sub>0.2</sub>] より算出  
 ※すべて許容応力以下である。</sub>

1.4.2 電気の絶縁部材の耐力結果 (×9.806/2)

絶縁部材許容耐力		機内絶縁部材許容耐力	
水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向
1.31			
0.91			

注記\*：基本地震動 S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機内絶縁部材許容耐力(1.02FA)はすべて機内絶縁部材許容耐力以下である。

角部みの内容は原簿機軸の観点から公開できません。

備考

記載の適正化

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-3 R.1

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図													
<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（非常用）のうち 460V パワ ーセンタ 4-2C 及び 460V パワーセンタ 4- 2D は、基礎に埋め込ま れたチャンネルベ ースに取付ボルトで設 置する。	<b>主体構造</b> 直立形 （鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の器）	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V パワーセンタ 4-2C</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td></td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>mm</td> </tr> </table>	たて	mm	460V パワーセンタ 4-2C	mm	幅	mm		mm	高さ	mm		mm	【パワーセンタ（非常用）】 
たて	mm	460V パワーセンタ 4-2C	mm												
幅	mm		mm												
高さ	mm		mm												

※ 断面みの内寸は標準構造の観点から公称でも可也。

12

変更後

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-3 R.2

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図													
<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（非常 用）のうち 460V パワ ーセンタ 4-2C 及び 460V パワーセンタ 4- 2D は、基礎に埋め込ま れたチャンネルベ ースに取付ボルトで設 置する。	<b>主体構造</b> 直立形 （鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の器であり、列設 構造である。）	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V パワーセンタ 4-2C</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td></td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>mm</td> </tr> </table>	たて	mm	460V パワーセンタ 4-2C	mm	幅	mm		mm	高さ	mm		mm	【パワーセンタ（非常用）】 
たて	mm	460V パワーセンタ 4-2C	mm												
幅	mm		mm												
高さ	mm		mm												

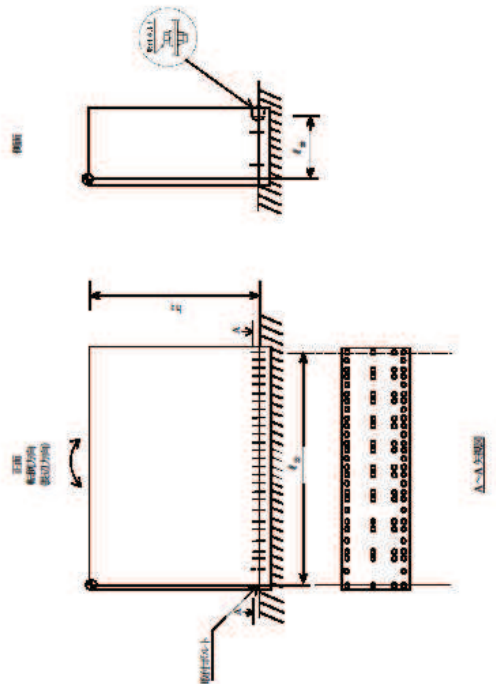
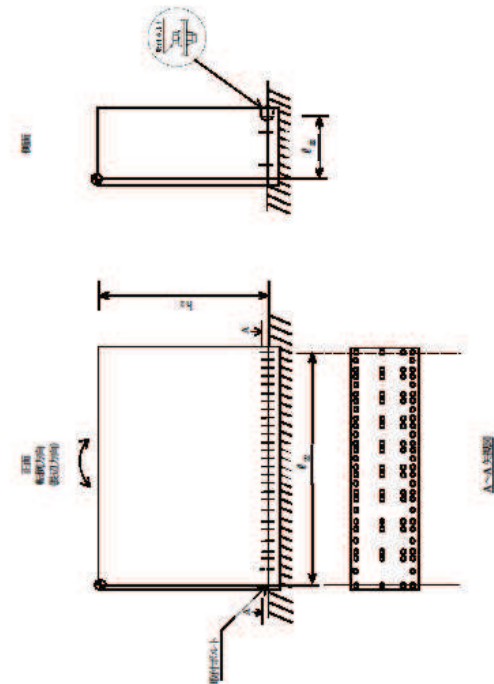
※ 断面みの内寸は標準構造の観点から公称でも可也。

12

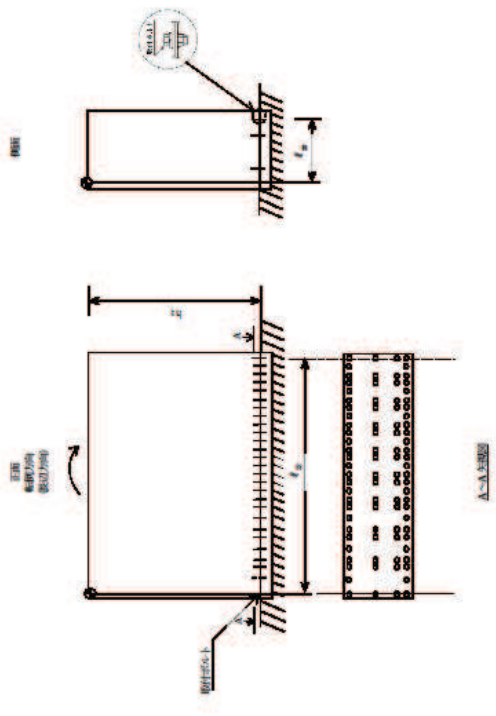
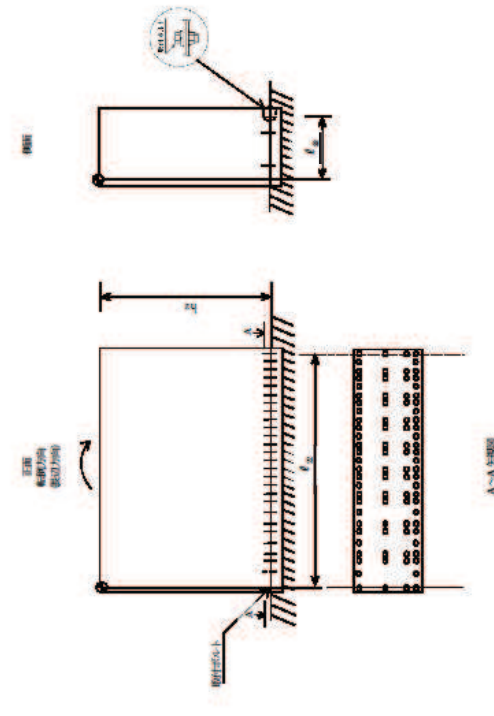
記載の適正化



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-3 パワーセンタ（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-3 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-3 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-3 パワーセンタ（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-3 R 1</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-3 R 2</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

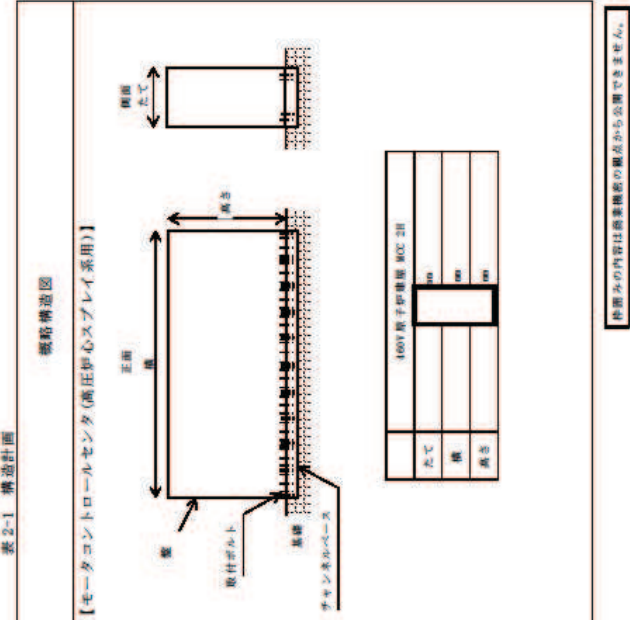
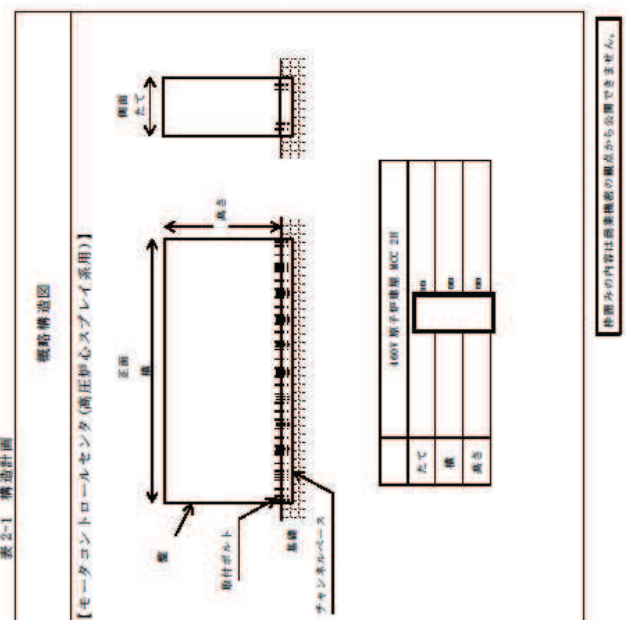
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-3 パワーセンタ（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-3 R 1</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-3 R 2</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-3 パワーセンタ（非常用）の耐震性についての計算書】

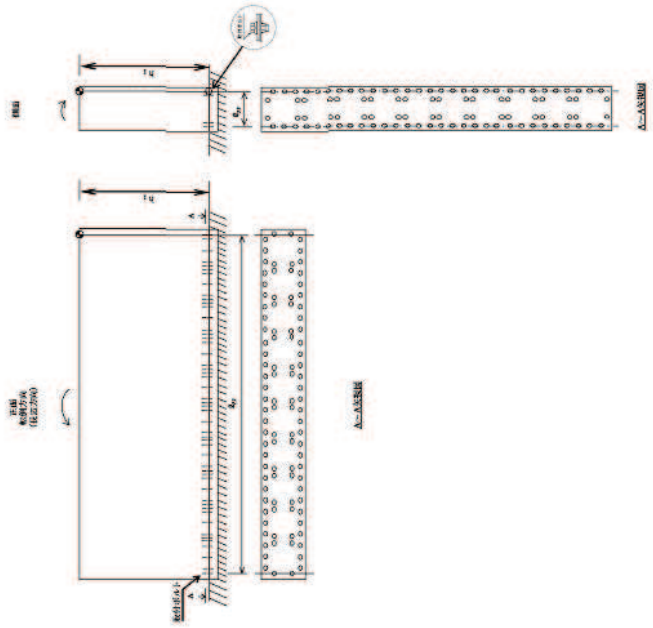
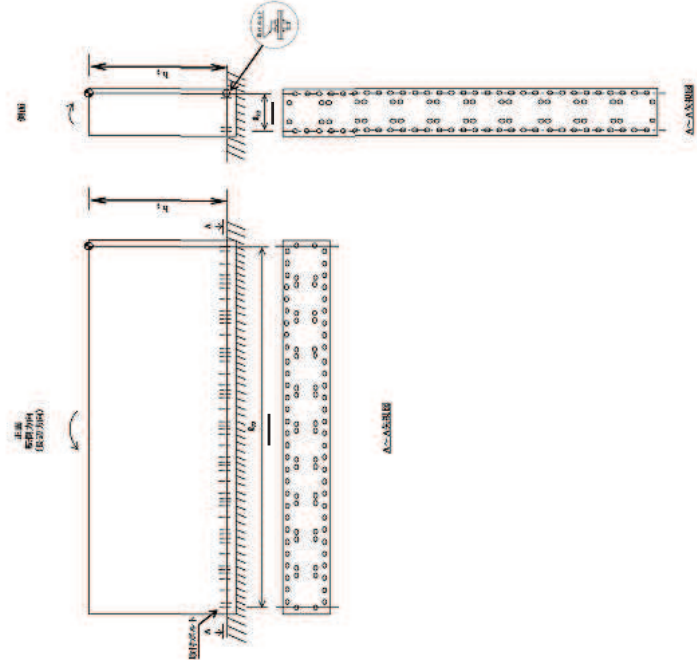
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-4-3 R 1 E</p> <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-4-3 R 2 E</p> <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



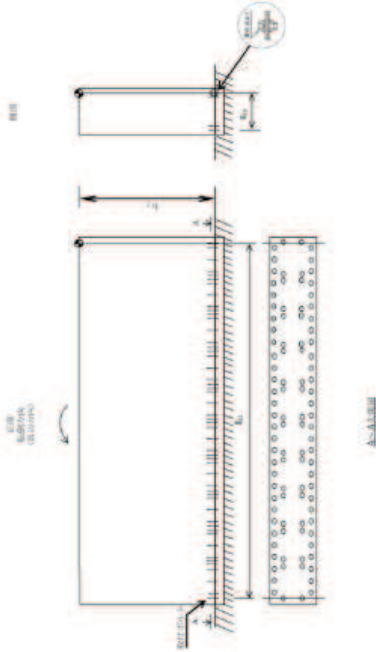
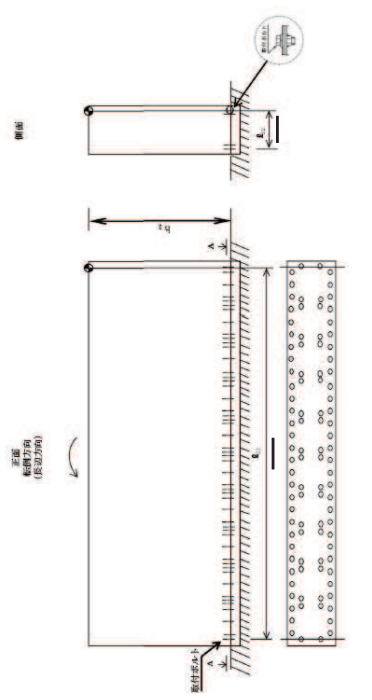
変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-5 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> </tr> <tr> <td>基礎・支持構造</td> <td>主体構造</td> </tr> <tr> <td>モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</td> <td>直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型)</td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型)	<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-5 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> </tr> <tr> <td>基礎・支持構造</td> <td>主体構造</td> </tr> <tr> <td>モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。</td> <td>直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型であり、列型 構造である。)</td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型であり、列型 構造である。)	<p style="text-align: center;">備考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要														
基礎・支持構造	主体構造													
モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型)													
計画の概要														
基礎・支持構造	主体構造													
モータコントロールセンタ(高圧炉心スプレイ系用)は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立四角 型の型であり、列型 構造である。)													

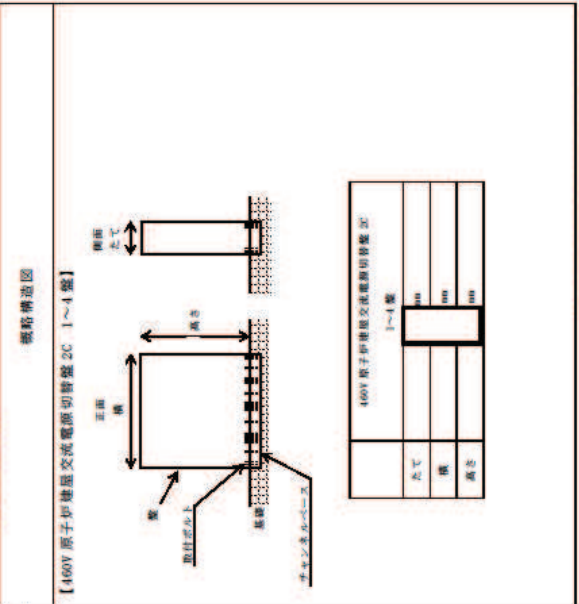
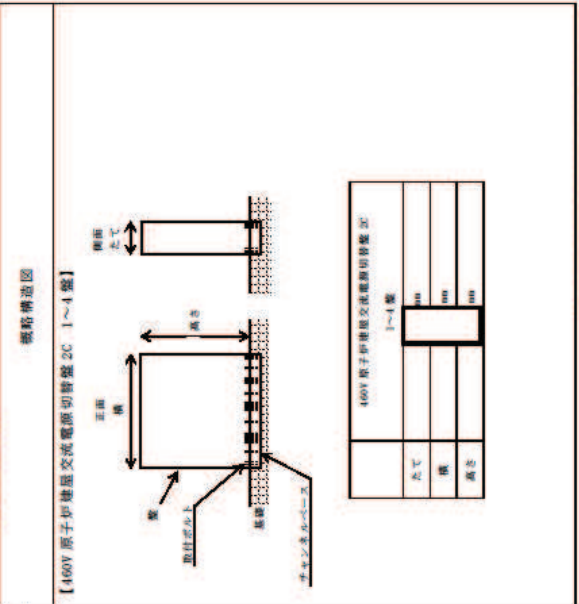
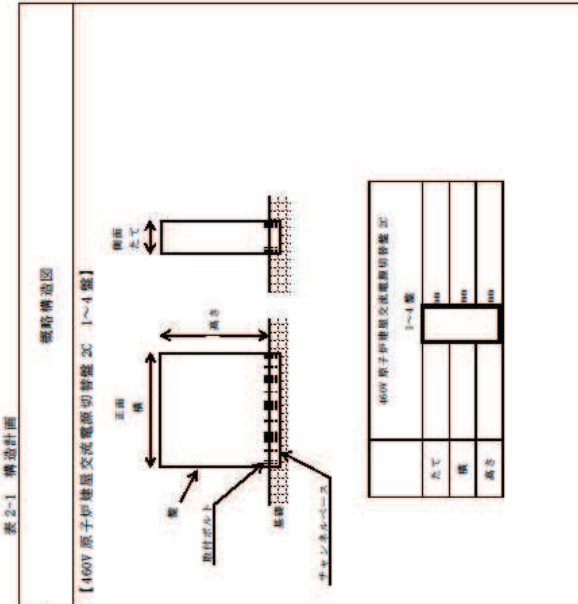
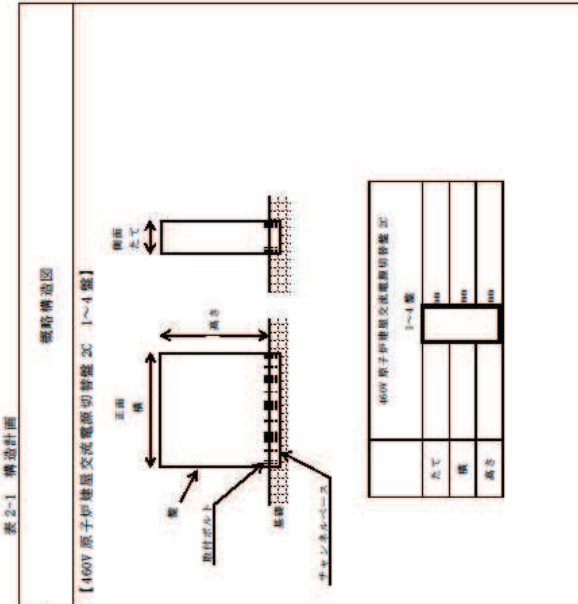
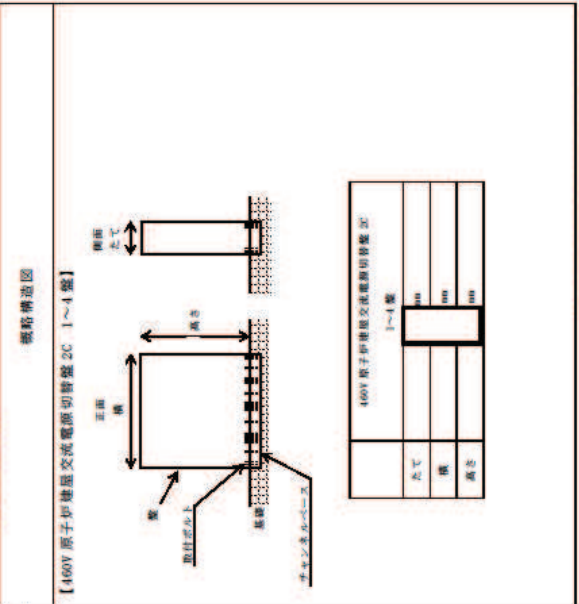
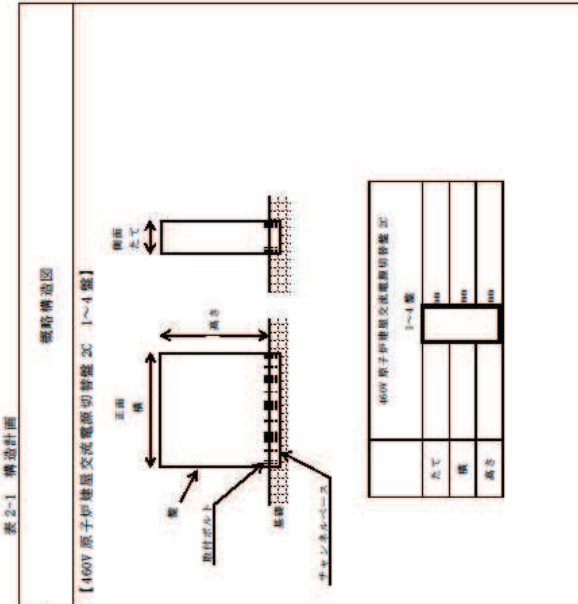


女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-5 モータコントロールセンタ（高圧炉心スプレイ系用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-5 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-5 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-5 モータコントロールセンタ（高圧炉心スプレイ系用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-5 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-5 R 2 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> <tr> <td> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）</p> </td> <td>  </td> </tr> </table>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）</p>		<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> <tr> <td> <p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p> </td> <td> <p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。）</p> </td> <td>  </td> </tr> </table>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。）</p>		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）</p>													
計画の概要		概略構造図												
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 1～4 盤は、基礎に埋め込まれたチャレンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。）</p>													

O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1

表 2-2 構造計画

計画の概要		概略構造図	
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 5～6 盤及び 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2D は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p>		

※ 詳細図の内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前

O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2

表 2-2 構造計画

計画の概要		概略構造図	
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2C 5～6 盤及び 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 2D は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)</p>		

※ 詳細図の内容は商業機密の観点から公開できません。

変更後

記載の適正化

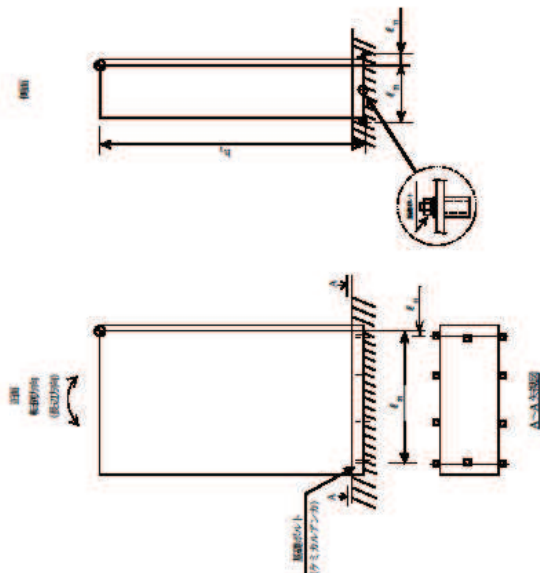
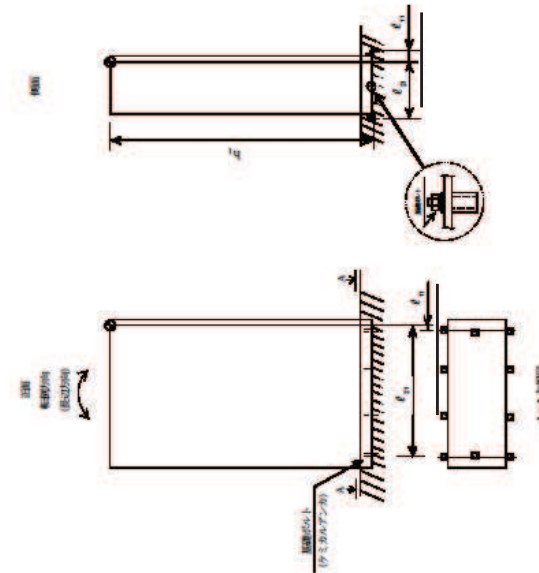
備考

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 2</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

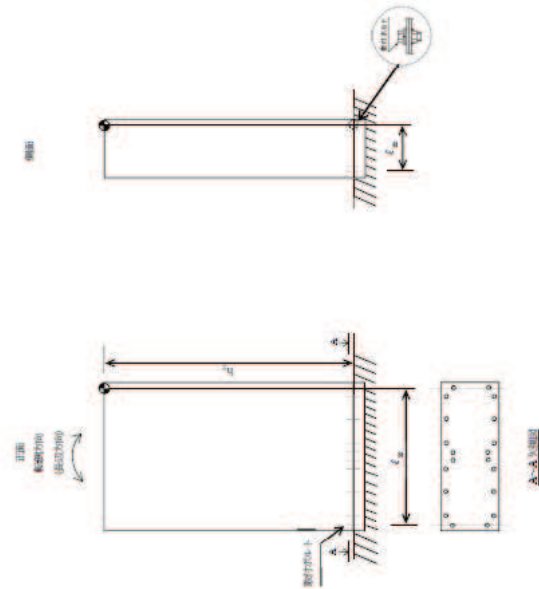
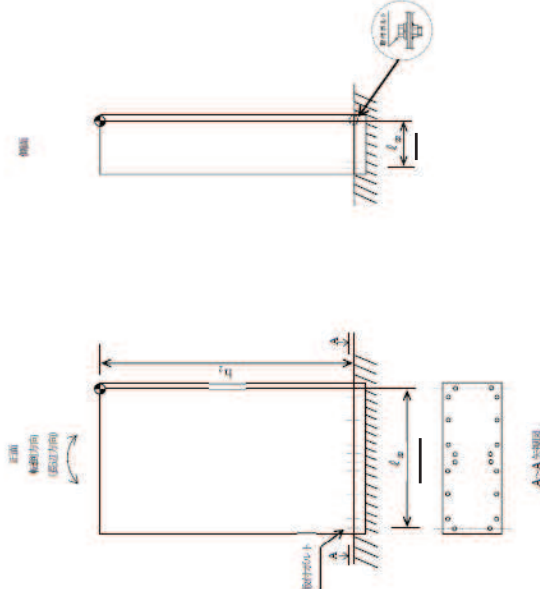
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R.1</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R.2</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



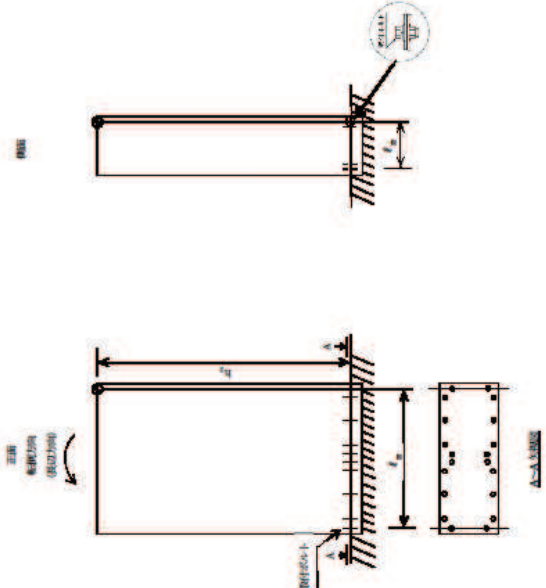
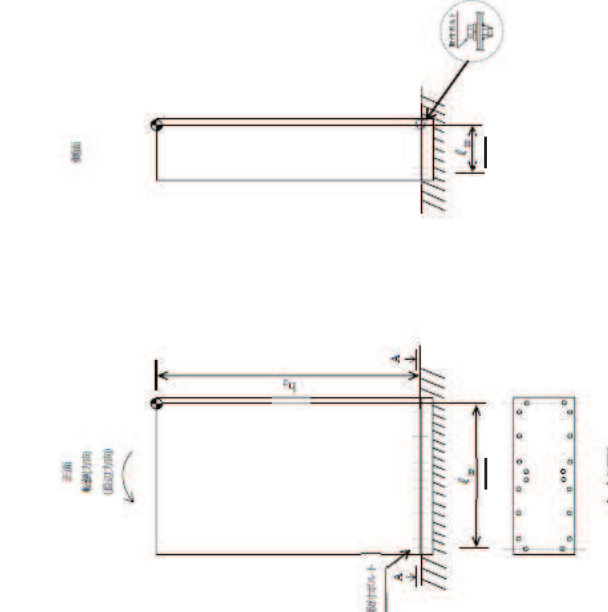
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R.1</p>  <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R.2</p>  <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

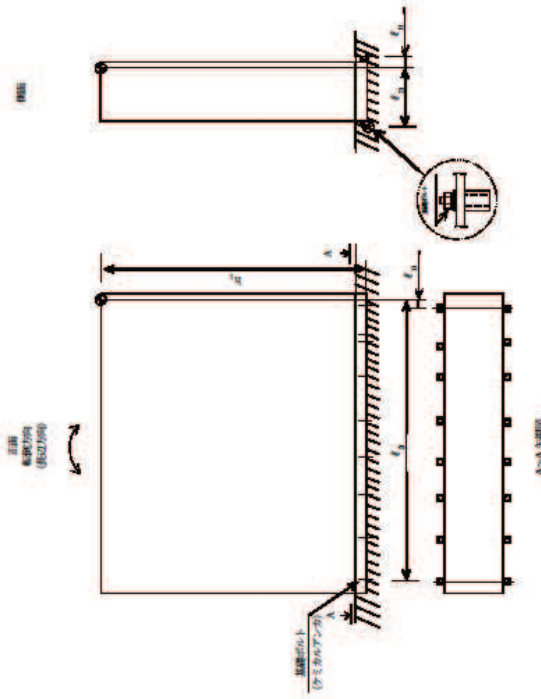
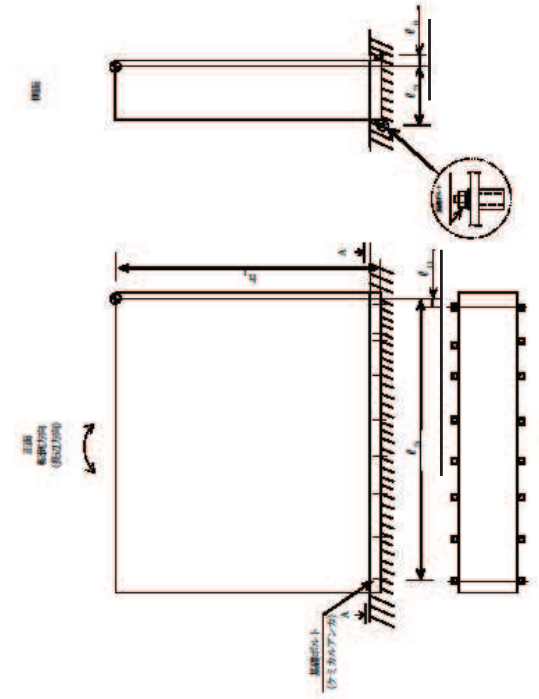
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

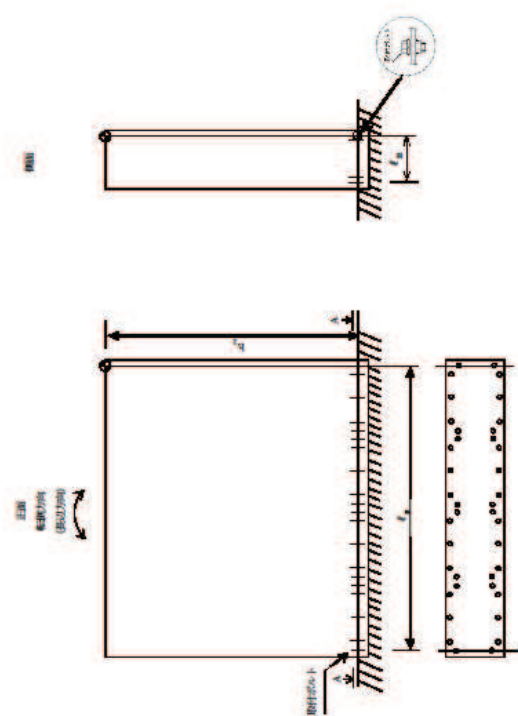
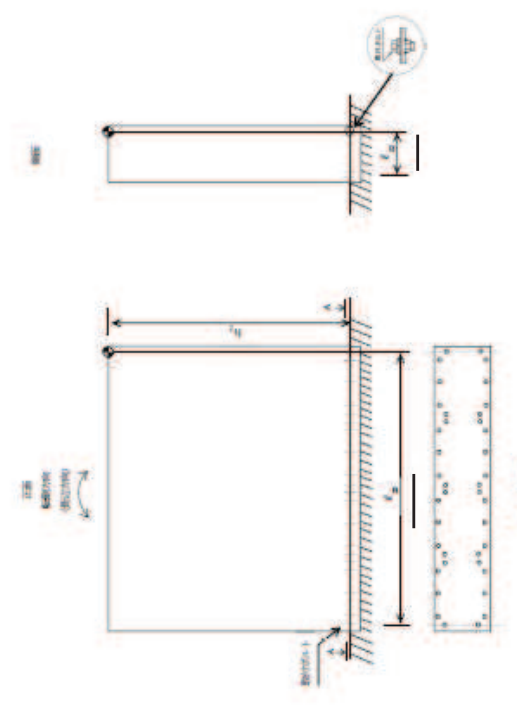
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p>  <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p>  <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

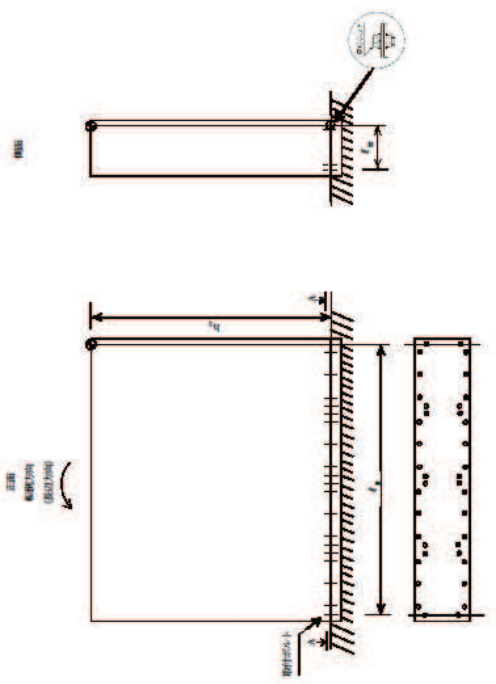
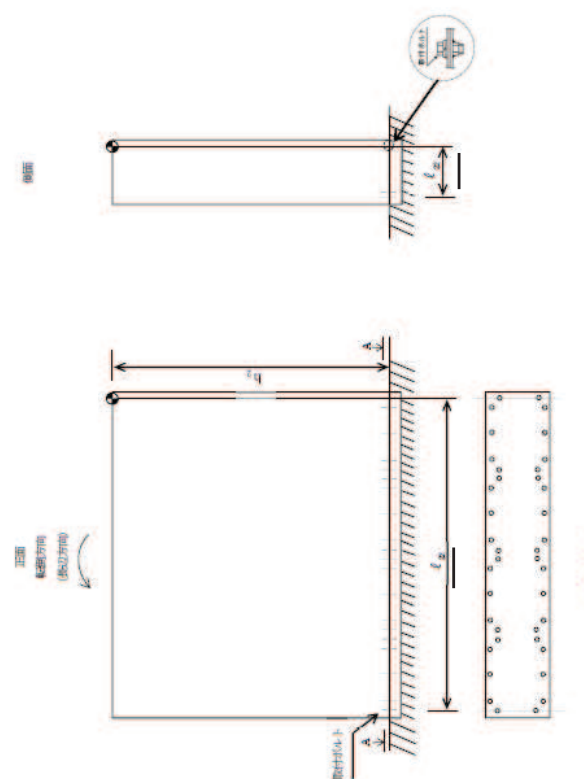
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p>  <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p>  <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p>  <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p>  <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

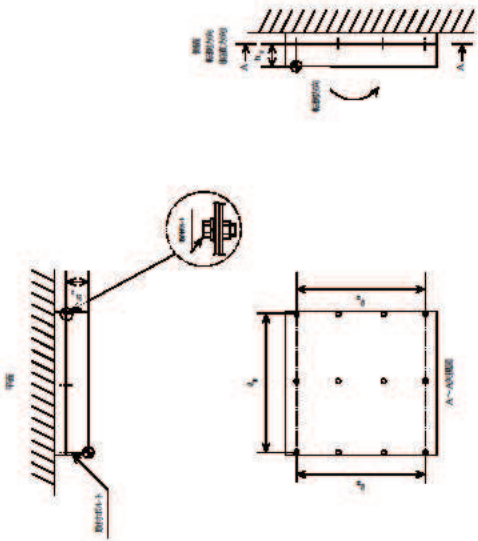
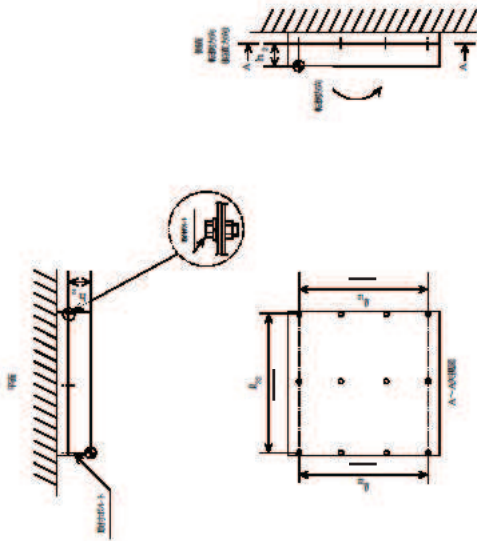
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-8 460V原子炉建屋交流電源切替盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R 1</p> <p style="text-align: center;">31</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R 2</p> <p style="text-align: center;">31</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

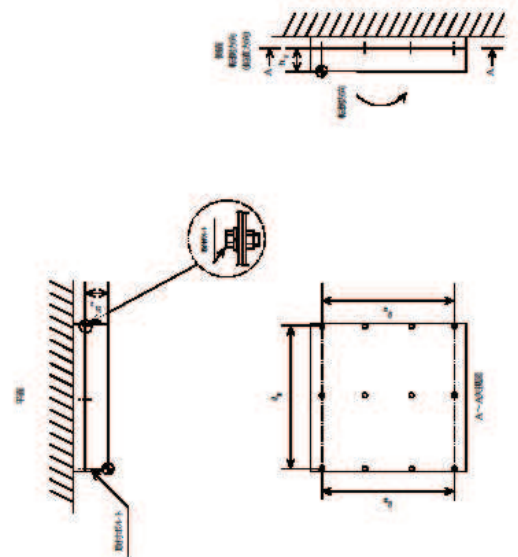
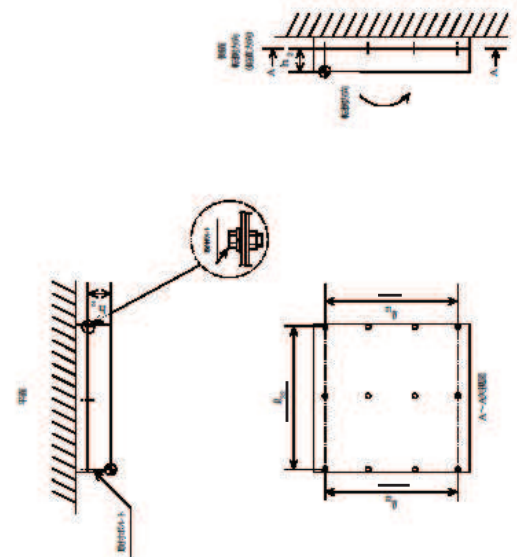
変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-8 R1E</p>  <p>正面              配筋方向              (梁の方向)</p> <p>32</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-8 R2E</p>  <p>正面              配筋方向              (梁の方向)</p> <p>32</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>



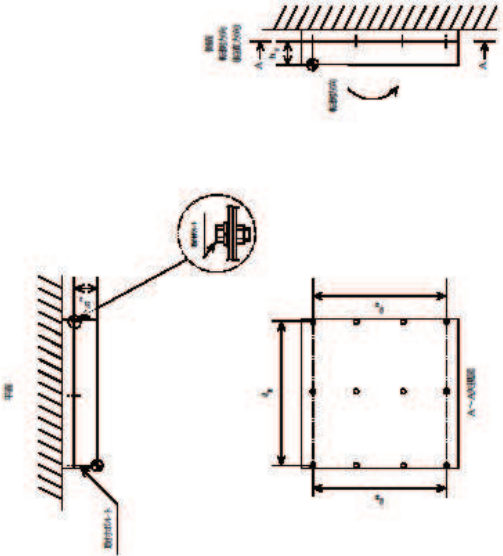
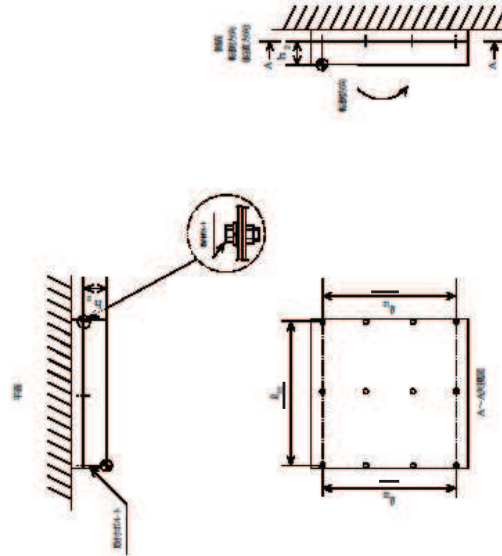
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-9 R 1</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-9 R 2</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

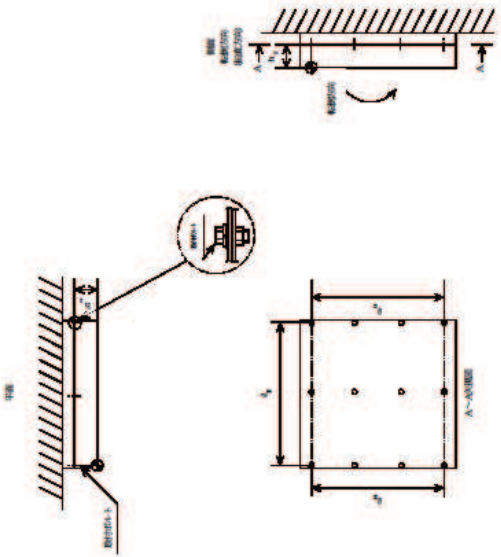
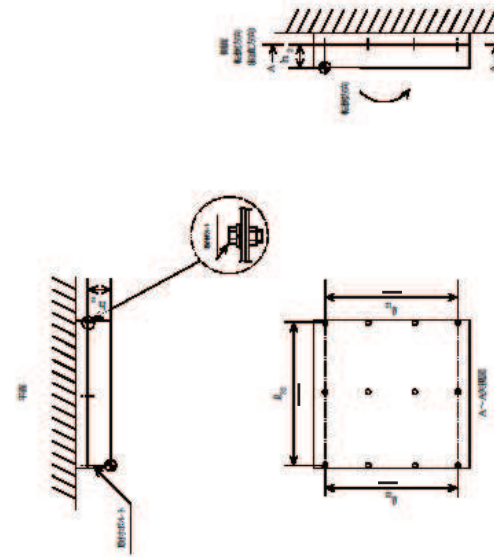
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-9 R 1</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-9 R 2</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

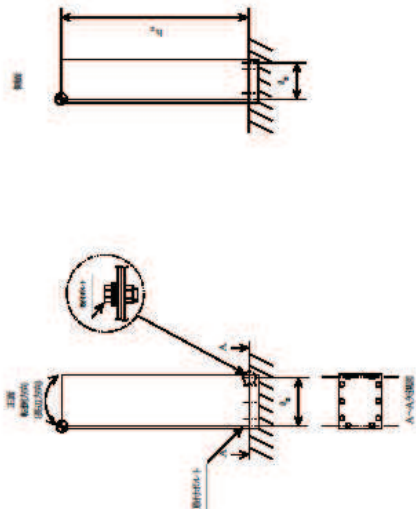
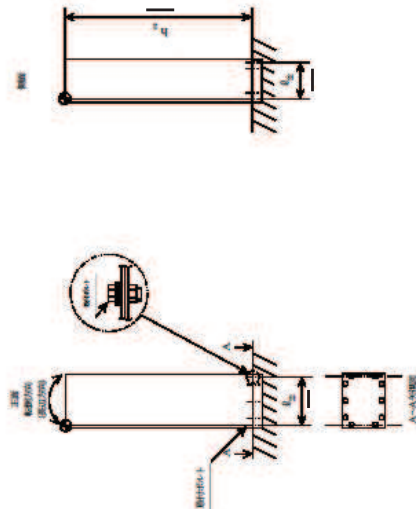
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-9 R 1</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-9 R 2</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-9 R 1</p>  <p style="text-align: center;">22</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-9 R 2</p>  <p style="text-align: center;">22</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-9 R 1</p>  <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-9 R 2</p>  <p style="text-align: center;">25</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-9 中央制御室120V交流分電盤（非常用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-9 R1E</p> <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-9 R2E</p> <p style="text-align: center;">28</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-10 R 1

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図										
基礎・支持構造	主体構造	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>たて</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>幅</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注記 * : ガスタービン発電機 (A) 接続盤, ガスタービン発電機 (B) 接続盤より構成する。</p>		たて			幅			高さ		
たて												
幅												
高さ												
ガスタービン発電機接続盤は、基礎に埋め込まれたチャネル型の盤で設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)	<p>特注みの内容は図書掲載の観点から公開できません。</p>										

12

変更後

O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-10 R 3

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図										
基礎・支持構造	主体構造	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>たて</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>幅</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注記 * : ガスタービン発電機 (A) 接続盤, ガスタービン発電機 (B) 接続盤より構成する。</p>		たて			幅			高さ		
たて												
幅												
高さ												
ガスタービン発電機接続盤は、基礎に埋め込まれたチャネル型の盤であり、列盤で設置する。	直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤である。)	<p>特注みの内容は図書掲載の観点から公開できません。</p>										

13

備考

記載の適正化



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-10 ガスタービン発電機接続盤の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考																
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電気的機能維持評価方法</p> <p>ガスタービン発電機接続盤の電気的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電気的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>ガスタービン発電機接続盤の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電気的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="394 603 954 687"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ガスタービン発電機接続盤</td> <td>水平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-10 R 1</p> <p style="text-align: right;">8 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</span></p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	ガスタービン発電機接続盤	水平		鉛直		<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電気的機能維持評価方法</p> <p>ガスタービン発電機接続盤の電気的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電気的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>ガスタービン発電機接続盤の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電気的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1256 603 1816 687"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ガスタービン発電機接続盤</td> <td>水平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-10 R 3</p> <p style="text-align: right;">8 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</span></p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	ガスタービン発電機接続盤	水平		鉛直		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認済加速度																
ガスタービン発電機接続盤	水平																	
	鉛直																	
評価部位	方向	機能確認済加速度																
ガスタービン発電機接続盤	水平																	
	鉛直																	

変更前	変更後	備考																																																				
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-10 R.1</p> <p>1.3 計算数値                      1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)</p> <table border="1"> <tr> <td>部材</td> <td>F<sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>Q<sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>基準地震動S<sub>s</sub></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>—</td> <td>1.102×10<sup>6</sup></td> <td>4.448×10<sup>6</sup></td> </tr> </table> <p>1.4 結論                      1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)</p> <table border="1"> <tr> <td>部材</td> <td>材料</td> <td>応力</td> <td>弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>算出応力</td> <td>基準地震動S<sub>s</sub></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1s</sub>=35 τ<sub>s1s</sub>=7 f<sub>s1s</sub>=101</td> </tr> </table> <p>注記※：f<sub>s1s</sub> = Min [1.4・f<sub>yk</sub> - 1.6・σ<sub>yk</sub>, f<sub>yk</sub>] より算出                      ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電気的絶縁体の評価結果 (×0.8α/g<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>ガスタービン発電機 接続盤</td> <td>水平方向 鉛直方向</td> <td>機械的許容応力増加率*</td> <td>0.70 0.37</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>注記※：基準地震動S<sub>s</sub>により定まる応力増加率とする。                      機械的許容応力増加率(1.0ZPA)はすべて機械的許容応力増加率以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>※部材の材質は設置機番の欄から公開できません。</p> </div>	部材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	基準地震動S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	—	1.102×10 <sup>6</sup>	4.448×10 <sup>6</sup>	部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	SS400	引張り	—	—	σ <sub>s1s</sub> =35 τ <sub>s1s</sub> =7 f <sub>s1s</sub> =101	ガスタービン発電機 接続盤	水平方向 鉛直方向	機械的許容応力増加率*	0.70 0.37			<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-10 R.3</p> <p>1.3 計算数値                      1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)</p> <table border="1"> <tr> <td>部材</td> <td>F<sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>Q<sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>基準地震動S<sub>s</sub></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>—</td> <td>1.102×10<sup>6</sup></td> <td>4.448×10<sup>6</sup></td> </tr> </table> <p>1.4 結論                      1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)</p> <table border="1"> <tr> <td>部材</td> <td>材料</td> <td>応力</td> <td>弾性設計用応力係数S<sub>d</sub>又は許容応力</td> <td>算出応力</td> <td>基準地震動S<sub>s</sub></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1s</sub>=35 τ<sub>s1s</sub>=7 f<sub>s1s</sub>=101</td> </tr> </table> <p>注記※：f<sub>s1s</sub> = Min [1.4・f<sub>yk</sub> - 1.6・σ<sub>yk</sub>, f<sub>yk</sub>] より算出                      ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電気的絶縁体の評価結果 (×0.8α/g<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <tr> <td>ガスタービン発電機 接続盤</td> <td>水平方向 鉛直方向</td> <td>機械的許容応力増加率*</td> <td>0.70 0.37</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>注記※：基準地震動S<sub>s</sub>により定まる応力増加率とする。                      機械的許容応力増加率(1.0ZPA)はすべて機械的許容応力増加率以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>※部材の材質は設置機番の欄から公開できません。</p> </div>	部材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	基準地震動S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	—	1.102×10 <sup>6</sup>	4.448×10 <sup>6</sup>	部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	SS400	引張り	—	—	σ <sub>s1s</sub> =35 τ <sub>s1s</sub> =7 f <sub>s1s</sub> =101	ガスタービン発電機 接続盤	水平方向 鉛直方向	機械的許容応力増加率*	0.70 0.37			<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
部材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	基準地震動S <sub>s</sub>																																																			
取付ボルト (I=2)	—	1.102×10 <sup>6</sup>	4.448×10 <sup>6</sup>																																																			
部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>																																																	
取付ボルト (I=2)	SS400	引張り	—	—	σ <sub>s1s</sub> =35 τ <sub>s1s</sub> =7 f <sub>s1s</sub> =101																																																	
ガスタービン発電機 接続盤	水平方向 鉛直方向	機械的許容応力増加率*	0.70 0.37																																																			
部材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	基準地震動S <sub>s</sub>																																																			
取付ボルト (I=2)	—	1.102×10 <sup>6</sup>	4.448×10 <sup>6</sup>																																																			
部材	材料	応力	弾性設計用応力係数S <sub>d</sub> 又は許容応力	算出応力	基準地震動S <sub>s</sub>																																																	
取付ボルト (I=2)	SS400	引張り	—	—	σ <sub>s1s</sub> =35 τ <sub>s1s</sub> =7 f <sub>s1s</sub> =101																																																	
ガスタービン発電機 接続盤	水平方向 鉛直方向	機械的許容応力増加率*	0.70 0.37																																																			

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-11 R.1

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図								
基礎・支持構造	主体構造	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">6.9kV メタクラ 6-2G</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>奥</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>奥さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>	6.9kV メタクラ 6-2G		たて	mm	奥	mm	奥さ	mm
6.9kV メタクラ 6-2G										
たて	mm									
奥	mm									
奥さ	mm									
メタルクラッドスイッチギア（緊急用）のうち6.9kVメタクラ6-2Gは基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）									

※図面の内容は図面集の欄から公開できません。

変更前

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-11 R.3

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図								
基礎・支持構造	主体構造	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">6.9kV メタクラ 6-2G</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>奥</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>奥さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>	6.9kV メタクラ 6-2G		たて	mm	奥	mm	奥さ	mm
6.9kV メタクラ 6-2G										
たて	mm									
奥	mm									
奥さ	mm									
メタルクラッドスイッチギア（緊急用）のうち6.9kVメタクラ6-2Gは基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、別盤構造である。）									

※図面の内容は図面集の欄から公開できません。

変更後

記載の適正化

備考



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-11 メタルクラッドスイッチギア（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考																										
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（緊急用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kV メタクラ 6-2G、6.9kV メタクラ 6-2F-1 及び 6.9kV メタクラ 6-2F-2 の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表 5-1 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="376 624 929 810"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2G</td> <td>水平</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">[ ]</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2F-1</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2F-2</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">9</p> <p style="text-align: center;">特記の内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kV メタクラ 6-2G	水平	[ ]	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2F-1	水平	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2F-2	水平	鉛直	<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電氣的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（緊急用）の電氣的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電氣的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kV メタクラ 6-2G、6.9kV メタクラ 6-2F-1 及び 6.9kV メタクラ 6-2F-2 の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電氣的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表 5-1 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1249 624 1803 810"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2G</td> <td>水平</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">[ ]</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2F-1</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kV メタクラ 6-2F-2</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">9</p> <p style="text-align: center;">特記の内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kV メタクラ 6-2G	水平	[ ]	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2F-1	水平	鉛直	6.9kV メタクラ 6-2F-2	水平	鉛直	<p>記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認済加速度																										
6.9kV メタクラ 6-2G	水平	[ ]																										
	鉛直																											
6.9kV メタクラ 6-2F-1	水平																											
	鉛直																											
6.9kV メタクラ 6-2F-2	水平																											
	鉛直																											
評価部位	方向	機能確認済加速度																										
6.9kV メタクラ 6-2G	水平	[ ]																										
	鉛直																											
6.9kV メタクラ 6-2F-1	水平																											
	鉛直																											
6.9kV メタクラ 6-2F-2	水平																											
	鉛直																											

変更前	変更後	備考																																																																																																				
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-11 R1</p> <p>1.3 計算数値 1.3.1 ボルトに作用する力 (単位: N)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 材</th> <th>F<sub>s1</sub> 弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容力</th> <th>Q<sub>s1</sub> 弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容力</th> <th>基準応力 S<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (1=1)</td> <td>—</td> <td>1.72×10<sup>6</sup></td> <td>3.91×10<sup>6</sup></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (1=2)</td> <td>—</td> <td>2.48×10<sup>6</sup></td> <td>3.45×10<sup>6</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>1.4 総論 1.4.1 ボルトの応力 (単位: MPa)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 材</th> <th>材 料</th> <th>応 力</th> <th>許容力</th> <th>基準応力 S<sub>s</sub></th> <th>許容応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (1=1)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1</sub>=96</td> <td>f<sub>t11</sub>=106*</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (1=2)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1</sub>=17</td> <td>f<sub>t11</sub>=129</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>せん断</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s2</sub>=79</td> <td>f<sub>t12</sub>=210*</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>せん断</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s3</sub>=20</td> <td>f<sub>t13</sub>=101</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※: <math>f_{t11} = \min [1.4 \cdot f_{t1} - 1.6 \cdot \tau_{su}, f_{t1}]</math> より算出                  ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電気の絶縁部材の評価結果 (×0.8k<sub>0</sub>/f)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>6.00V スタックラッド</th> <th>水方向</th> <th>絶縁部材許容加速度*</th> <th>機械的許容加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.2</td> <td style="border: 1px solid black;">□</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※: 基準用電圧S<sub>s</sub>により定まる応力増加率とする。                  機械的許容用加速度(1.0GPA)はすべて機械的許容加速度以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                     詳細図の内容は新機種の図表から公開できません。                 </div>	部 材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	基礎ボルト (1=1)	—	1.72×10 <sup>6</sup>	3.91×10 <sup>6</sup>	取付ボルト (1=2)	—	2.48×10 <sup>6</sup>	3.45×10 <sup>6</sup>	部 材	材 料	応 力	許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	許容応力	基礎ボルト (1=1)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =96	f <sub>t11</sub> =106*	取付ボルト (1=2)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =17	f <sub>t11</sub> =129			せん断	—	σ <sub>s2</sub> =79	f <sub>t12</sub> =210*			せん断	—	σ <sub>s3</sub> =20	f <sub>t13</sub> =101	6.00V スタックラッド	水方向	絶縁部材許容加速度*	機械的許容加速度			2.2	□	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-11 R3</p> <p>1.3 計算数値 1.3.1 ボルトに作用する力 (単位: N)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 材</th> <th>F<sub>s1</sub> 弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容力</th> <th>Q<sub>s1</sub> 弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容力</th> <th>基準応力 S<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (1=1)</td> <td>—</td> <td>1.72×10<sup>6</sup></td> <td>3.91×10<sup>6</sup></td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (1=2)</td> <td>—</td> <td>2.48×10<sup>6</sup></td> <td>3.45×10<sup>6</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>1.4 総論 1.4.1 ボルトの応力 (単位: MPa)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 材</th> <th>材 料</th> <th>応 力</th> <th>許容力</th> <th>基準応力 S<sub>s</sub></th> <th>許容応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (1=1)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1</sub>=96</td> <td>f<sub>t11</sub>=106*</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (1=2)</td> <td>SS400</td> <td>引張り</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s1</sub>=17</td> <td>f<sub>t11</sub>=129</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>せん断</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s2</sub>=79</td> <td>f<sub>t12</sub>=210*</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>せん断</td> <td>—</td> <td>σ<sub>s3</sub>=20</td> <td>f<sub>t13</sub>=101</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※: <math>f_{t11} = \min [1.4 \cdot f_{t1} - 1.6 \cdot \tau_{su}, f_{t1}]</math> より算出                  ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電気の絶縁部材の評価結果 (×0.8k<sub>0</sub>/f)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>6.00V スタックラッド</th> <th>水方向</th> <th>絶縁部材許容加速度*</th> <th>機械的許容加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.2</td> <td style="border: 1px solid black;">□</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※: 基準用電圧S<sub>s</sub>により定まる応力増加率とする。                  機械的許容用加速度(1.0GPA)はすべて機械的許容加速度以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                     詳細図の内容は新機種の図表から公開できません。                 </div>	部 材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	基礎ボルト (1=1)	—	1.72×10 <sup>6</sup>	3.91×10 <sup>6</sup>	取付ボルト (1=2)	—	2.48×10 <sup>6</sup>	3.45×10 <sup>6</sup>	部 材	材 料	応 力	許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	許容応力	基礎ボルト (1=1)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =96	f <sub>t11</sub> =106*	取付ボルト (1=2)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =17	f <sub>t11</sub> =129			せん断	—	σ <sub>s2</sub> =79	f <sub>t12</sub> =210*			せん断	—	σ <sub>s3</sub> =20	f <sub>t13</sub> =101	6.00V スタックラッド	水方向	絶縁部材許容加速度*	機械的許容加速度			2.2	□	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
部 材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力 S <sub>s</sub>																																																																																																			
基礎ボルト (1=1)	—	1.72×10 <sup>6</sup>	3.91×10 <sup>6</sup>																																																																																																			
取付ボルト (1=2)	—	2.48×10 <sup>6</sup>	3.45×10 <sup>6</sup>																																																																																																			
部 材	材 料	応 力	許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	許容応力																																																																																																	
基礎ボルト (1=1)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =96	f <sub>t11</sub> =106*																																																																																																	
取付ボルト (1=2)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =17	f <sub>t11</sub> =129																																																																																																	
		せん断	—	σ <sub>s2</sub> =79	f <sub>t12</sub> =210*																																																																																																	
		せん断	—	σ <sub>s3</sub> =20	f <sub>t13</sub> =101																																																																																																	
6.00V スタックラッド	水方向	絶縁部材許容加速度*	機械的許容加速度																																																																																																			
		2.2	□																																																																																																			
部 材	F <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	Q <sub>s1</sub> 弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力 S <sub>s</sub>																																																																																																			
基礎ボルト (1=1)	—	1.72×10 <sup>6</sup>	3.91×10 <sup>6</sup>																																																																																																			
取付ボルト (1=2)	—	2.48×10 <sup>6</sup>	3.45×10 <sup>6</sup>																																																																																																			
部 材	材 料	応 力	許容力	基準応力 S <sub>s</sub>	許容応力																																																																																																	
基礎ボルト (1=1)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =96	f <sub>t11</sub> =106*																																																																																																	
取付ボルト (1=2)	SS400	引張り	—	σ <sub>s1</sub> =17	f <sub>t11</sub> =129																																																																																																	
		せん断	—	σ <sub>s2</sub> =79	f <sub>t12</sub> =210*																																																																																																	
		せん断	—	σ <sub>s3</sub> =20	f <sub>t13</sub> =101																																																																																																	
6.00V スタックラッド	水方向	絶縁部材許容加速度*	機械的許容加速度																																																																																																			
		2.2	□																																																																																																			



変更前

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-11 R.1

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

F <sub>s1</sub>		Q <sub>s1</sub>	
部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力
取付ボルト (1=2)	1.05×10 <sup>6</sup>	1.519×10 <sup>6</sup>	1.519×10 <sup>6</sup>

(単位：N)

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	許容力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力
取付ボルト (1=2)	SS400	引張り せん断	— —	— —	— —	σ <sub>112</sub> =35 τ <sub>112</sub> =27	σ <sub>112</sub> =210* τ <sub>112</sub> =161

(単位：MPa)

注記※：f<sub>tm</sub> = Min [1.4・f<sub>tm</sub> - 1.6・τ<sub>0.2</sub>/f<sub>tm</sub>] より算出  
 ※すべて許容力以下である。

1.4.2 電気用絶縁材料の評価結果

絶縁材料	水平方向	垂直方向	機械的許容加速度*	機械的許容加速度
6.6kV メタカラ 6-29-1	0.70	0.57		

(×0.56g/g)

注記※：基準地震動S<sub>8</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機械的許容加速度(1.02PA)はすべて機械的許容加速度以下である。

詳細みの内容は審査機能の範囲から公開できません。

変更後

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-11 R.3

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

F <sub>s1</sub>		Q <sub>s1</sub>	
部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力
取付ボルト (1=2)	1.05×10 <sup>6</sup>	1.519×10 <sup>6</sup>	1.519×10 <sup>6</sup>

(単位：N)

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	許容力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力	基準応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容力
取付ボルト (1=2)	SS400	引張り せん断	— —	— —	— —	σ <sub>112</sub> =35 τ <sub>112</sub> =27	σ <sub>112</sub> =210* τ <sub>112</sub> =161

(単位：MPa)

注記※：f<sub>tm</sub> = Min [1.4・f<sub>tm</sub> - 1.6・τ<sub>0.2</sub>/f<sub>tm</sub>] より算出  
 ※すべて許容力以下である。

1.4.2 電気用絶縁材料の評価結果

絶縁材料	水平方向	垂直方向	機械的許容加速度*	機械的許容加速度
6.6kV メタカラ 6-29-1	0.70	0.57		

(×0.56g/g)

注記※：基準地震動S<sub>8</sub>により定まる応答加速度とする。  
 機械的許容加速度(1.02PA)はすべて機械的許容加速度以下である。

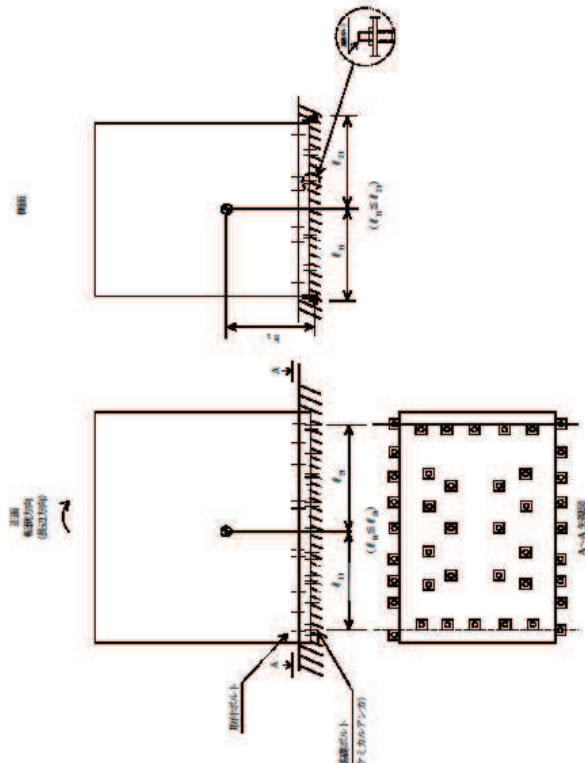
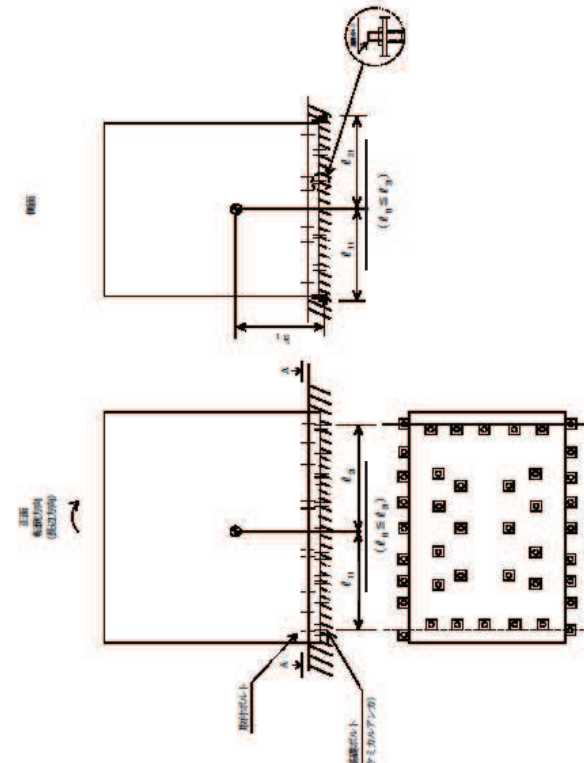
詳細みの内容は審査機能の範囲から公開できません。

備考

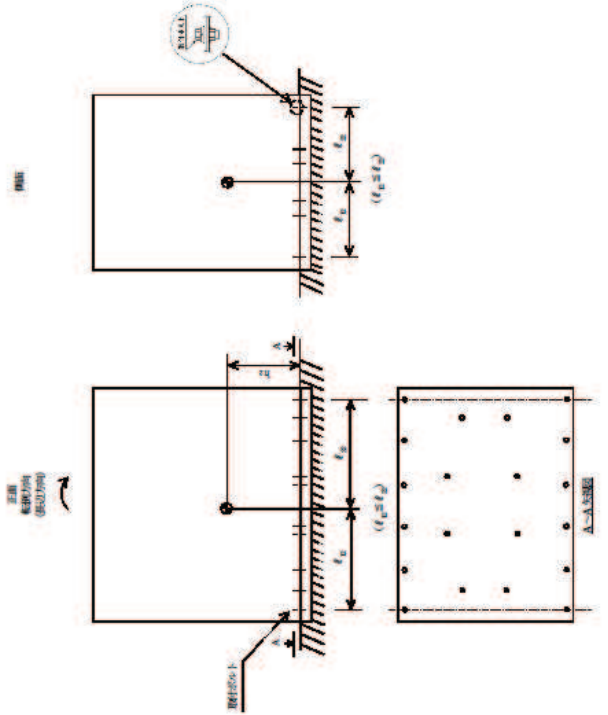
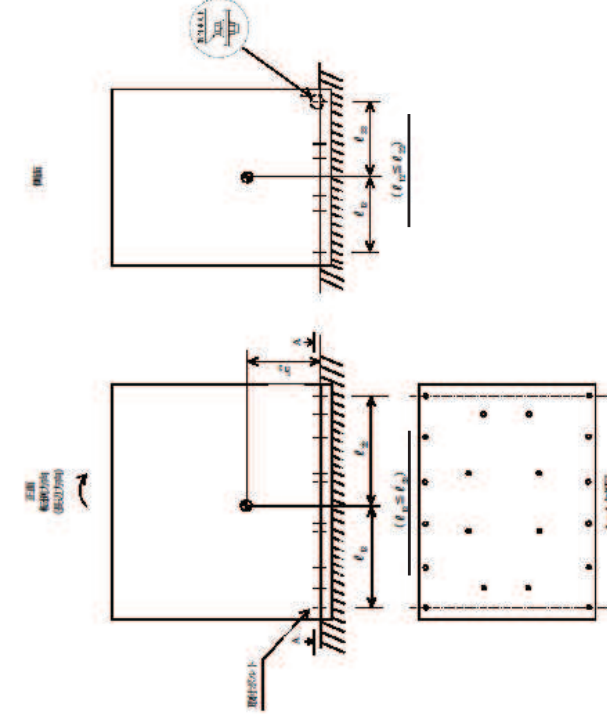
記載の適正化



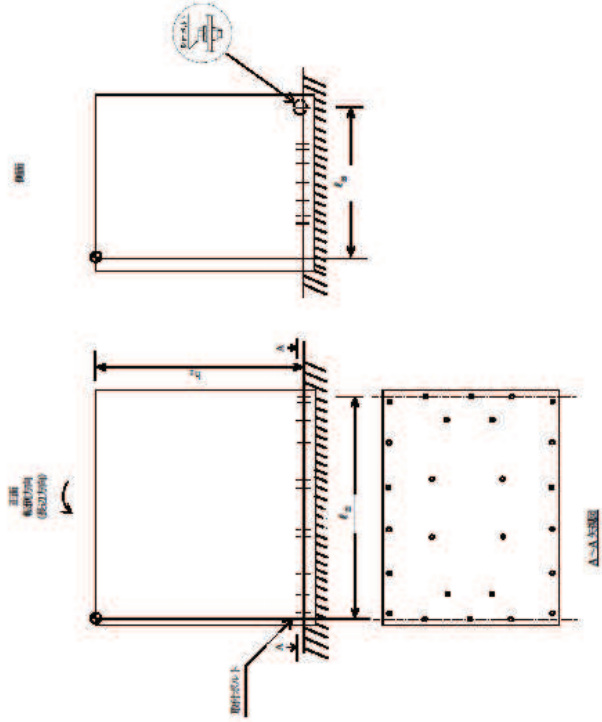
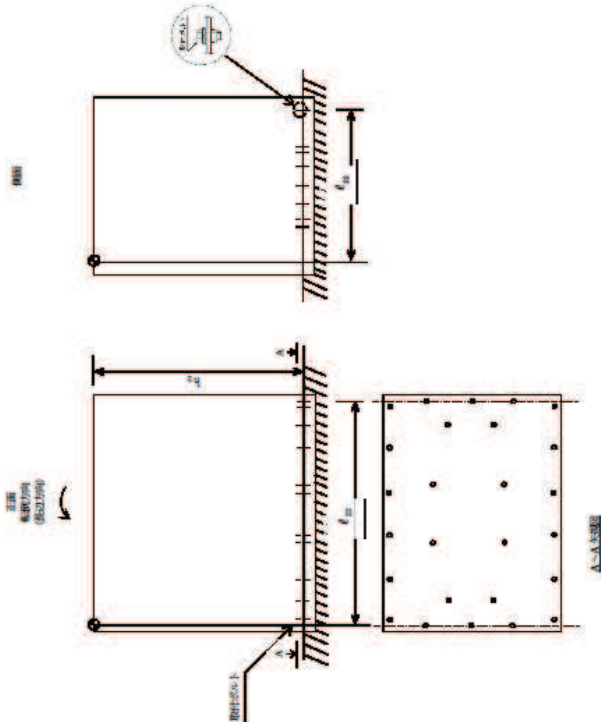
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-12 動力変圧器（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O.2. ⑥ VI-2-10-1-4-12 R.1</p>  <p>13</p>	<p>O.2. ⑦ VI-2-10-1-4-12 R.2</p>  <p>13</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-12 動力変圧器（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2. ⑥ VI-2-10-1-4-12 R.1</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">O.2. ⑦ VI-2-10-1-4-12 R.2</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-12 動力変圧器（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-12 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-12 R 2 E</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																												
<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-13 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）                 </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図	<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	<b>主体構造</b> 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）	<table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p>	400V パワーセンタ 4-2G		たて	3000	幅	3000	高さ	3000	<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-13 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）                 </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図	<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	<b>主体構造</b> 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）	<table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p>	400V パワーセンタ 4-2G		たて	3000	幅	3000	高さ	3000	記載の適正化
計画の概要		概略構造図																												
<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	<b>主体構造</b> 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）	<table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p>	400V パワーセンタ 4-2G		たて	3000	幅	3000	高さ	3000																				
400V パワーセンタ 4-2G																														
たて	3000																													
幅	3000																													
高さ	3000																													
計画の概要		概略構造図																												
<b>基礎・支持構造</b> パワーセンタ（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	<b>主体構造</b> 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）	<table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td colspan="2">400V パワーセンタ 4-2G</td></tr> <tr><td>たて</td><td>3000</td></tr> <tr><td>幅</td><td>3000</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>3000</td></tr> </table> <p style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;">各図面の寸法は標準値の観点から公称ではありません。</p>	400V パワーセンタ 4-2G		たて	3000	幅	3000	高さ	3000																				
400V パワーセンタ 4-2G																														
たて	3000																													
幅	3000																													
高さ	3000																													

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ M-2-10-1-4-13 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-13 R 2</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

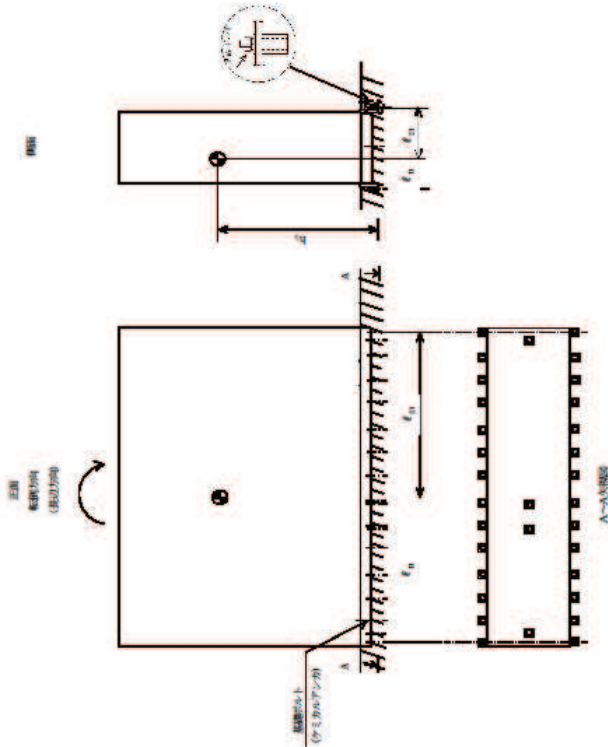
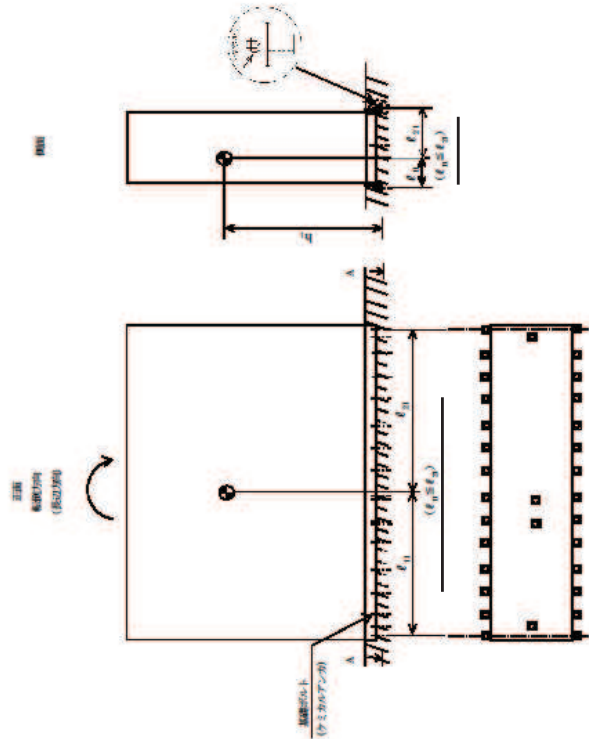
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-13 パワーセンタ（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-13 R 1 E</p> <p>正面              軸線方向              (北方向)</p> <p>13</p>	<p>O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-13 R 2 E</p> <p>正面              軸線方向              (北方向)</p> <p>13</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																												
<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-14 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </td> <td style="width: 30%;"> <p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁)</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p>	460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2	たて	100	幅	100	高さ	100	<p style="text-align: center;">O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-14 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </td> <td style="width: 30%;"> <p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁であり、<u>列壁構造である。</u>)</p> </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図	<p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁であり、<u>列壁構造である。</u>)</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p>	460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2	たて	100	幅	100	高さ	100	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図																												
<p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁)</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p>	460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2	たて	100	幅	100	高さ	100																				
460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2																													
たて	100																													
幅	100																													
高さ	100																													
計画の概要		概略構造図																												
<p><b>基礎・支持構造</b>                      モータコントロールセンタ (緊急用) のうち460W原子炉建屋MCC 2G-1, 460W原子炉建屋MCC 2G-2は、基礎に埋め込まれたチャネルネルベースに取付ボルトで設置する。チャネルネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p><b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立階級型の壁であり、<u>列壁構造である。</u>)</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-1</td> <td>460W原子炉建屋 MCC 2G-2</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>100</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; text-align: center;">寸法値の内容は建築構造の欄から公開できません。</p>	460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2	たて	100	幅	100	高さ	100																				
460W原子炉建屋 MCC 2G-1	460W原子炉建屋 MCC 2G-2																													
たて	100																													
幅	100																													
高さ	100																													



変更前	変更後	備考																																								
<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-14 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">                     基礎・支持構造                      モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;">                     主体構造                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> <table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 詳細図の内容は添付図書の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図		基礎・支持構造 モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	主体構造 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2	横	mm			高さ	mm			<p style="text-align: center;">O 2 ㊹ VI-2-10-1-4-14 R 2</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">                     基礎・支持構造                      モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;">                     主体構造                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> <table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 詳細図の内容は添付図書の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図		基礎・支持構造 モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	主体構造 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2	横	mm			高さ	mm			<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図																																								
基礎・支持構造 モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	主体構造 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁）		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2	横	mm			高さ	mm																													
たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2																																							
横	mm																																									
高さ	mm																																									
計画の概要		概略構造図																																								
基礎・支持構造 モータコントロールセンタ（緊急用）のうち460V緊急用電気品建屋MCC 2F-1及び2F-2は、基礎に埋め込まれたチャネルベースに取付ボルトで設置する。	主体構造 直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の壁であり、列壁構造である。）		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1</td> <td>460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2	横	mm			高さ	mm																													
たて	mm	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-1	460V緊急用電気品建屋 MCC 2F-2																																							
横	mm																																									
高さ	mm																																									

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-14 R.1</p>  <p>13</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-14 R.2</p>  <p>13</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-14 モータコントロールセンタ (緊急用) の耐震性についての計算書】

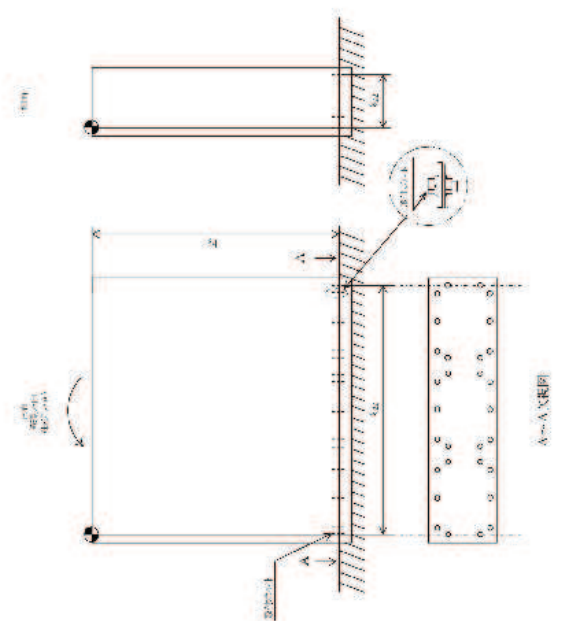
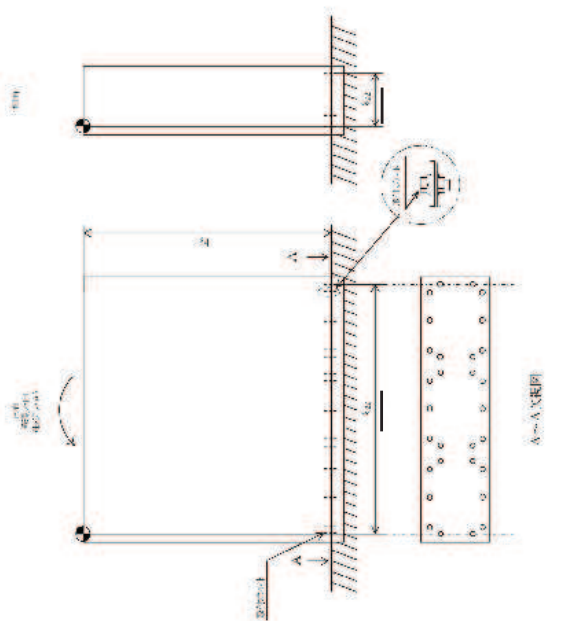
変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-14 R.1</p> <p>14</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-14 R.2</p> <p>14</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-14 R.1</p> <p>17</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-14 R.2</p> <p>17</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

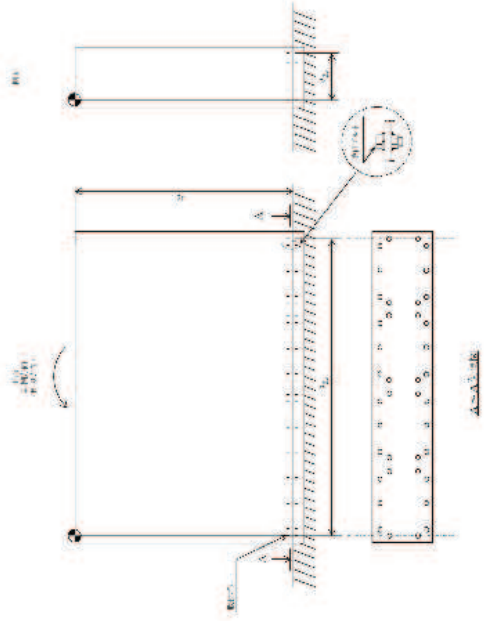
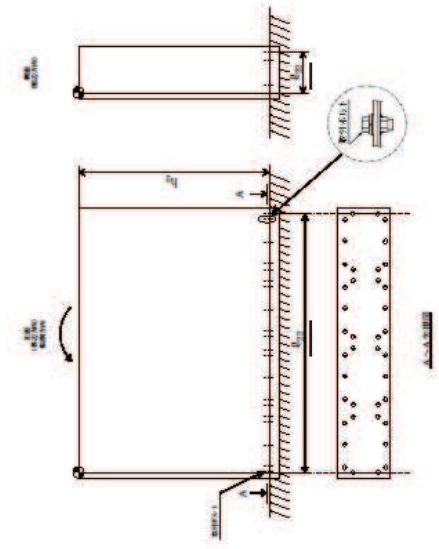
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-14 モータコントロールセンタ (緊急用) の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-14 R 1</p> <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-14 R 2</p> <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-14 モータコントロールセンタ（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-14 R.1</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-14 R.2</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-14 モータコントロールセンタ（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-14 R1E</p>  <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-14 R2E</p>  <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



変更前		変更後		備考
O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-16 R.0				
表 2-1 構造計画				
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 26 は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、<u>列盤構造である。</u>)</p> <p>460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)のうち 460V 原子炉建屋交流電源切替盤 26 は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>概略構造図</p> <p>作図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p>概略構造図</p> <p>作図みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p>記載の適正化</p>
O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-16 R.2				
表 2-1 構造計画				

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-16 460V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-16 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-16 R 2</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-16 460V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-16 R 1</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-16 R 2</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-16 460V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-16 R.1</p> <p style="text-align: center;">A~A断面図</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-16 R.2</p> <p style="text-align: center;">A~A断面図</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-16 R 1</p> <p>正面 (奥辺方向) 電機方向</p> <p>側面 (短辺方向)</p> <p>取付ボルト</p> <p>A</p> <p><math>a</math></p> <p><math>b_p</math></p> <p><math>h_p</math></p> <p><math>(b_p \leq h_p)</math></p> <p>A~A断面図</p> <p>17</p>	<p>O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-16 R 2</p> <p>正面 (奥辺方向) 電機方向</p> <p>側面 (短辺方向)</p> <p>取付ボルト</p> <p>A</p> <p><math>a</math></p> <p><math>b_p</math></p> <p><math>h_p</math></p> <p><math>(b_p \leq h_p)</math></p> <p>A~A断面図</p> <p>17</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-16 460V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-16 R 1</p> <p style="text-align: center;">A~A矢視図</p> <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-16 R 2</p> <p style="text-align: center;">A~A矢視図</p> <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>





O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-17 R 0

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
基礎・支持構造	主体構造										
120V 原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。 チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組み合わせた自立型鋼製の壁）	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>		120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20		たて	mm	幅	mm	高さ	mm
120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20											
たて	mm										
幅	mm										
高さ	mm										

※ 詳細図の内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前

O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-17 R 2

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
基礎・支持構造	主体構造										
120V 原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。 チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組み合わせた自立型鋼製の壁であり、列壁構造である。）	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>		120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20		たて	mm	幅	mm	高さ	mm
120V 原子炉建屋 交流電源切替盤 20											
たて	mm										
幅	mm										
高さ	mm										

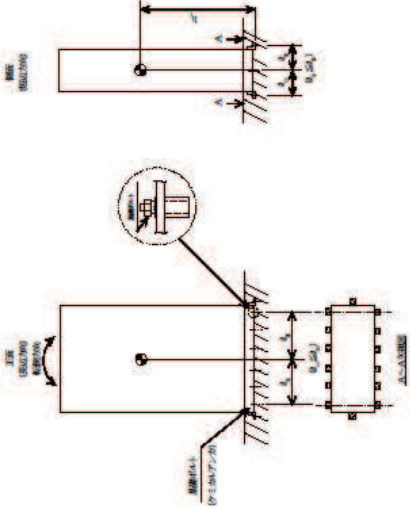
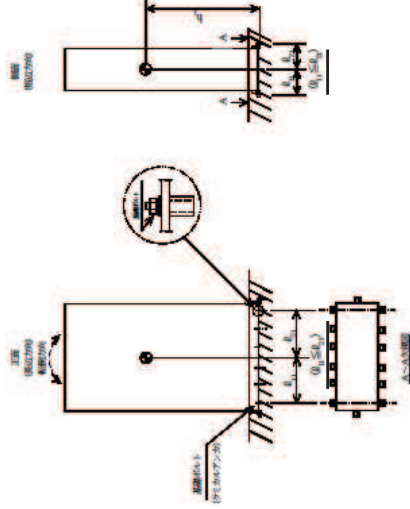
※ 詳細図の内容は商業機密の観点から公開できません。

変更後

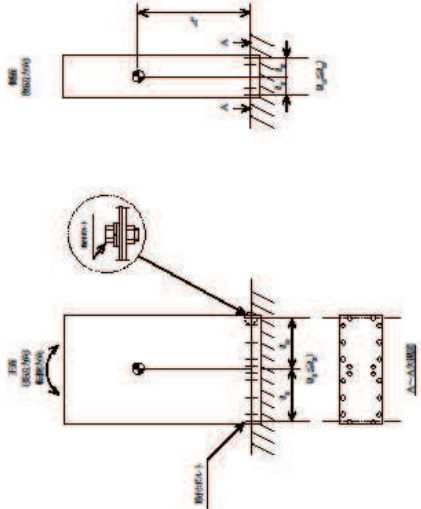
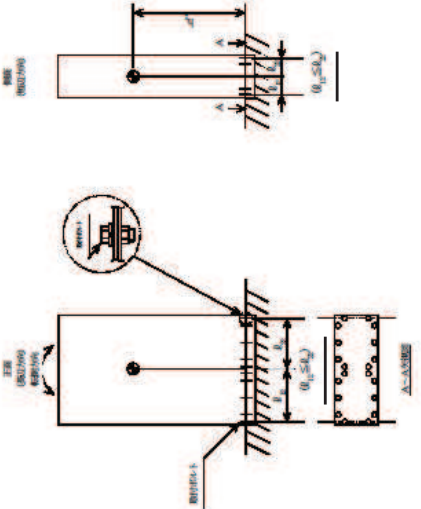
備考

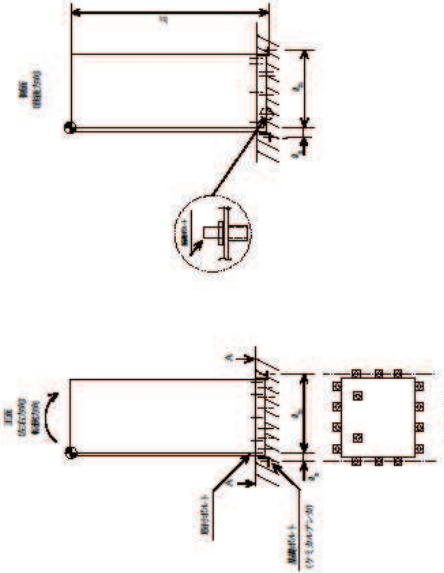
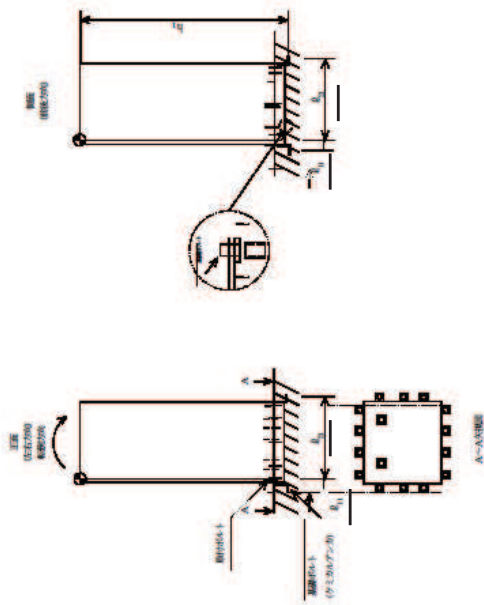
記載の適正化

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-17 120V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

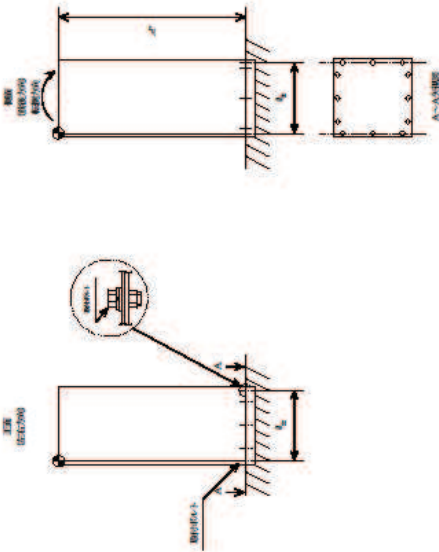
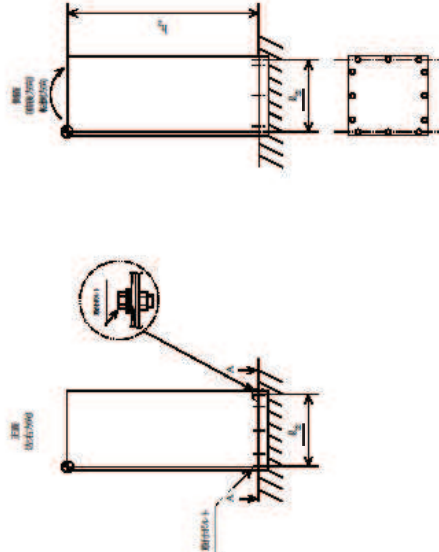
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-17 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-17 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-17 120V原子炉建屋交流電源切替盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="232 715 255 992">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-17 R 1 E</p>  <p data-bbox="633 1369 656 1391">13</p>	<p data-bbox="1115 715 1137 992">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-17 R 2 E</p>  <p data-bbox="1518 1369 1541 1391">13</p>	<p data-bbox="1962 683 2085 705">記載の適正化</p> <p data-bbox="1962 946 2085 968">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-18 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-18 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-18 中央制御室120V交流分電盤（緊急用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="219 715 241 986">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-18 R.0 E</p>  <p data-bbox="622 1369 645 1385">13</p>	<p data-bbox="1115 715 1137 986">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-18 R.2 E</p>  <p data-bbox="1518 1369 1541 1385">13</p>	<p data-bbox="1960 683 2083 707">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 1026 2083 1050">記載の適正化</p>

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-19 R.0

表 2-1 構造計画

計画の概要		縦断構造図	
基礎・支持構造	主体構造	正面	側面
メタルクラッドスイッチギア（緊急時対策所用）のうち6.9kVメタクラ 6-J-1 及び 6.9kVメタクラ 6-J-2 は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組み合わせた自立桁架型の壁）		
		6.9kVメタクラ 6-J-1 1000 1000 1000	6.9kVメタクラ 6-J-2 1000 1000 1000
		高さ	高さ
		たて	たて

断面図の内容は建築機室の断面から省略できません。

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-19 R.1

表 2-1 構造計画

計画の概要		縦断構造図	
基礎・支持構造	主体構造	正面	側面
メタルクラッドスイッチギア（緊急時対策所用）のうち6.9kVメタクラ 6-J-1 及び 6.9kVメタクラ 6-J-2 は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組み合わせた自立桁架型の壁である。）		
		6.9kVメタクラ 6-J-1 1000 1000 1000	6.9kVメタクラ 6-J-2 1000 1000 1000
		高さ	高さ
		たて	たて

断面図の内容は建築機室の断面から省略できません。

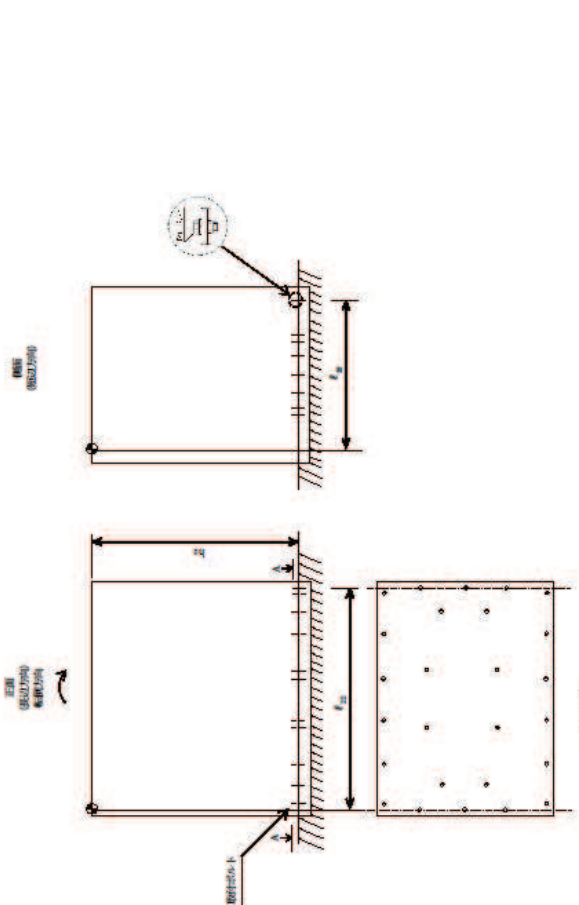
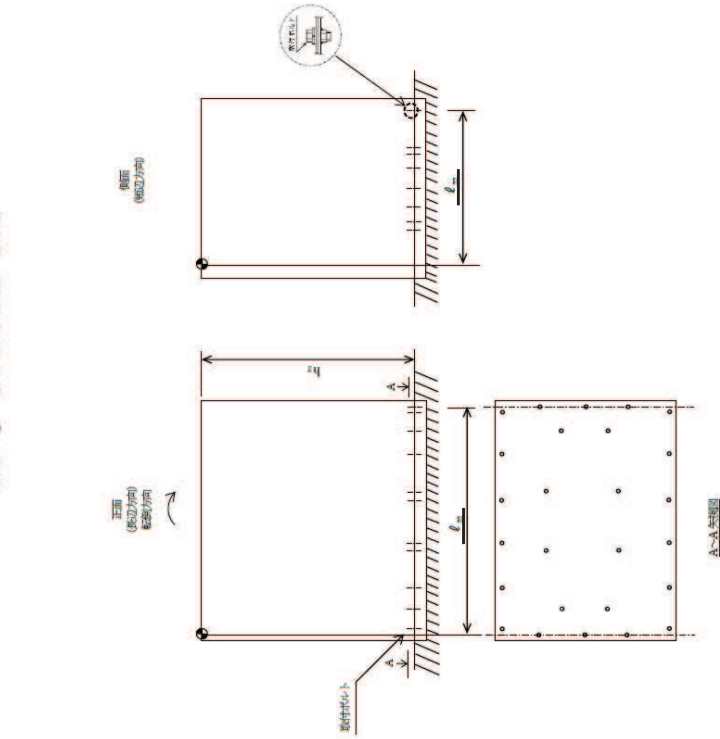
記載の適正化

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-19 メタルクラッドスイッチギア（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考																				
<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電気的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（緊急時対策所用）の電気的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電気的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kVメタクラ6-J-1, 6.9kVメタクラ6-J-2の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電気的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="344 639 929 783"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kVメタクラ6-J-1</td> <td>水平</td> <td rowspan="4" style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kVメタクラ6-J-2</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">② ⑥ VI-2-10-1-4-19 R 1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">特記の内容は商業機密の観点から公開できません。</div> <p style="text-align: center;">8</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kVメタクラ6-J-1	水平		鉛直	6.9kVメタクラ6-J-2	水平	鉛直	<p>5. 機能維持評価</p> <p>5.1 電気的機能維持評価方法</p> <p>メタルクラッドスイッチギア（緊急時対策所用）の電気的機能維持評価について、以下に示す。</p> <p>電気的機能維持評価は、添付書類「VI-2-1-13-7 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の評価方法に基づき評価する。</p> <p>6.9kVメタクラ6-J-1, 6.9kVメタクラ6-J-2の機能確認済加速度には、同形式の器具の正弦波加振試験において、電気的機能の健全性を確認した器具の加速度を適用する。</p> <p>機能確認済加速度を表5-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表5-1 機能確認済加速度 (×9.8m/s<sup>2</sup>)</p> <table border="1" data-bbox="1263 632 1848 775"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>方向</th> <th>機能確認済加速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">6.9kVメタクラ6-J-1</td> <td>水平</td> <td rowspan="4" style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6.9kVメタクラ6-J-2</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">② ⑦ VI-2-10-1-4-19 R 3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">特記の内容は商業機密の観点から公開できません。</div> <p style="text-align: center;">8</p>	評価部位	方向	機能確認済加速度	6.9kVメタクラ6-J-1	水平		鉛直	6.9kVメタクラ6-J-2	水平	鉛直	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
評価部位	方向	機能確認済加速度																				
6.9kVメタクラ6-J-1	水平																					
	鉛直																					
6.9kVメタクラ6-J-2	水平																					
	鉛直																					
評価部位	方向	機能確認済加速度																				
6.9kVメタクラ6-J-1	水平																					
	鉛直																					
6.9kVメタクラ6-J-2	水平																					
	鉛直																					



変更前	変更後	備考																																																																				
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-19 R 2</p> <p>1.3 計算数値                      1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">F<sub>st</sub></th> <th colspan="2">Q<sub>st</sub></th> </tr> <tr> <th>部材</th> <th>弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th>弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th>基準応力S<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>2.33×10<sup>6</sup></td> <td>—</td> <td>1.745×10<sup>6</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>1.4 荷役                      1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">応力</th> <th colspan="2">弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th rowspan="2">基準応力S<sub>s</sub></th> </tr> <tr> <th>引張り</th> <th>圧縮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>SS400</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>σ<sub>t1.0</sub>=74 σ<sub>c1.0</sub>=13</td> <td>f<sub>t1.0</sub>=210<sup>MPa</sup> f<sub>c1.0</sub>=101</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※：f<sub>ctm</sub>=Min [1.4・f<sub>cm</sub>-1.6・σ<sub>bc</sub>/f<sub>cm</sub>]より算出                      ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電氣的機械部材の評価結果 (×9.8N/cm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>6.6KVメタクラ6-J1</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>機械的許容応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1.40</td> <td>0.80</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※：基準地盤動S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。                      機械的許容応力(0.02FA)はすべて機械的許容応力以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">                         参照みの内容は耐震補強の観点から公開できません。                     </div>	F <sub>st</sub>		Q <sub>st</sub>		部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	基準応力S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	2.33×10 <sup>6</sup>	—	1.745×10 <sup>6</sup>	部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度		基準応力S <sub>s</sub>	引張り	圧縮	取付ボルト (I=2)	SS400	—	—	σ <sub>t1.0</sub> =74 σ <sub>c1.0</sub> =13	f <sub>t1.0</sub> =210 <sup>MPa</sup> f <sub>c1.0</sub> =101	6.6KVメタクラ6-J1	水平方向	鉛直方向	機械的許容応力		1.40	0.80		<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-19 R 4</p> <p>1.3 計算数値                      1.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">F<sub>st</sub></th> <th colspan="2">Q<sub>st</sub></th> </tr> <tr> <th>部材</th> <th>弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th>弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th>基準応力S<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>2.318×10<sup>6</sup></td> <td>—</td> <td>1.745×10<sup>6</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>1.4 荷役                      1.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">応力</th> <th colspan="2">弾性設計用応力S<sub>d</sub>又は許容強度</th> <th rowspan="2">基準応力S<sub>s</sub></th> </tr> <tr> <th>引張り</th> <th>圧縮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付ボルト (I=2)</td> <td>SS400</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>σ<sub>t1.0</sub>=74 σ<sub>c1.0</sub>=13</td> <td>f<sub>t1.0</sub>=210<sup>MPa</sup> f<sub>c1.0</sub>=101</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※：f<sub>ctm</sub>=Min [1.4・f<sub>cm</sub>-1.6・σ<sub>bc</sub>/f<sub>cm</sub>]より算出                      ※すべて許容応力以下である。</p> <p>1.4.2 電氣的機械部材の評価結果 (×9.8N/cm<sup>2</sup>)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>6.6KVメタクラ6-J1</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>機械的許容応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1.40</td> <td>0.80</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※：基準地盤動S<sub>s</sub>により定まる応答加速度とする。                      機械的許容応力(0.02FA)はすべて機械的許容応力以下である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">                         参照みの内容は耐震補強の観点から公開できません。                     </div>	F <sub>st</sub>		Q <sub>st</sub>		部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	基準応力S <sub>s</sub>	取付ボルト (I=2)	2.318×10 <sup>6</sup>	—	1.745×10 <sup>6</sup>	部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度		基準応力S <sub>s</sub>	引張り	圧縮	取付ボルト (I=2)	SS400	—	—	σ <sub>t1.0</sub> =74 σ <sub>c1.0</sub> =13	f <sub>t1.0</sub> =210 <sup>MPa</sup> f <sub>c1.0</sub> =101	6.6KVメタクラ6-J1	水平方向	鉛直方向	機械的許容応力		1.40	0.80		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
F <sub>st</sub>		Q <sub>st</sub>																																																																				
部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	基準応力S <sub>s</sub>																																																																			
取付ボルト (I=2)	2.33×10 <sup>6</sup>	—	1.745×10 <sup>6</sup>																																																																			
部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度		基準応力S <sub>s</sub>																																																																	
			引張り	圧縮																																																																		
取付ボルト (I=2)	SS400	—	—	σ <sub>t1.0</sub> =74 σ <sub>c1.0</sub> =13	f <sub>t1.0</sub> =210 <sup>MPa</sup> f <sub>c1.0</sub> =101																																																																	
6.6KVメタクラ6-J1	水平方向	鉛直方向	機械的許容応力																																																																			
	1.40	0.80																																																																				
F <sub>st</sub>		Q <sub>st</sub>																																																																				
部材	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度	基準応力S <sub>s</sub>																																																																			
取付ボルト (I=2)	2.318×10 <sup>6</sup>	—	1.745×10 <sup>6</sup>																																																																			
部材	材料	応力	弾性設計用応力S <sub>d</sub> 又は許容強度		基準応力S <sub>s</sub>																																																																	
			引張り	圧縮																																																																		
取付ボルト (I=2)	SS400	—	—	σ <sub>t1.0</sub> =74 σ <sub>c1.0</sub> =13	f <sub>t1.0</sub> =210 <sup>MPa</sup> f <sub>c1.0</sub> =101																																																																	
6.6KVメタクラ6-J1	水平方向	鉛直方向	機械的許容応力																																																																			
	1.40	0.80																																																																				

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-20 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-20 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-19 R 0

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
基礎・支持構造	主体構造										
メタルクラッドスイ ッチギア（緊急時対策 所用）のうち6.9kVメ タクラ 6-J-1 及び 6.9kVメタクラ 6-J-2 は、基礎に埋め込まれ たチャネルベース に取付ボルトで設置 する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤）										
		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>6.9kV メタクラ 6-J-1</td> <td>6.9kV メタクラ 6-J-2</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> </table>	たて	6.9kV メタクラ 6-J-1	6.9kV メタクラ 6-J-2	幅	mm	mm	高さ	mm	mm
たて	6.9kV メタクラ 6-J-1	6.9kV メタクラ 6-J-2									
幅	mm	mm									
高さ	mm	mm									

※断面みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前

変更後

備考

O 2 ㊦ VI-2-10-1-4-19 R 1

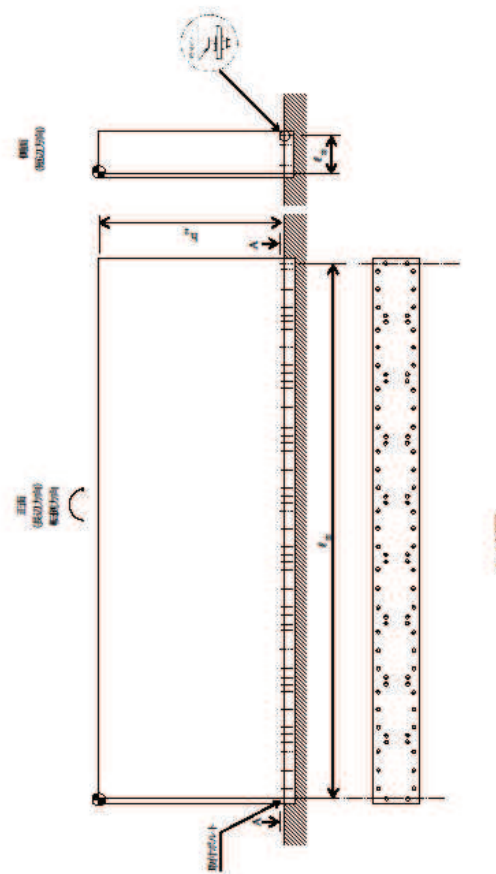
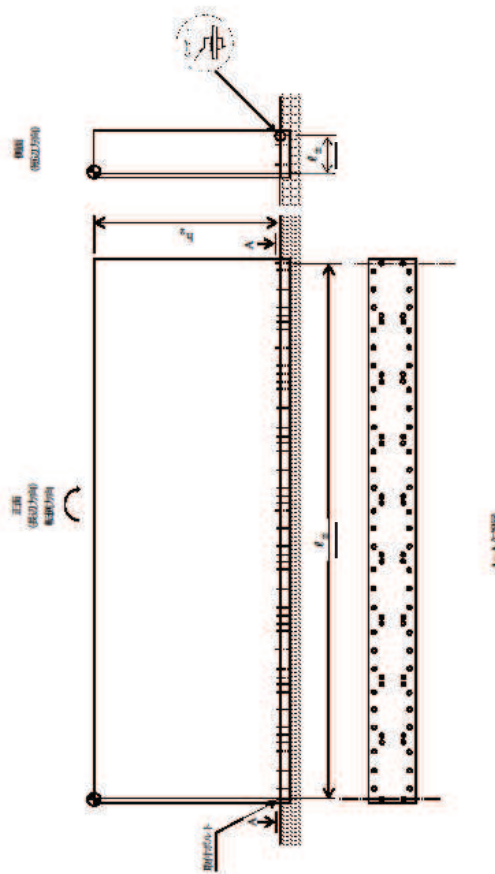
表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
基礎・支持構造	主体構造										
メタルクラッドスイ ッチギア（緊急時対策 所用）のうち6.9kVメ タクラ 6-J-1 及び 6.9kVメタクラ 6-J-2 は、基礎に埋め込まれ たチャネルベース に取付ボルトで設置 する。	直立形 （鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤であり、列盤 構造である。）										
		<table border="1"> <tr> <td>たて</td> <td>6.9kV メタクラ 6-J-1</td> <td>6.9kV メタクラ 6-J-2</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> </table>	たて	6.9kV メタクラ 6-J-1	6.9kV メタクラ 6-J-2	幅	mm	mm	高さ	mm	mm
たて	6.9kV メタクラ 6-J-1	6.9kV メタクラ 6-J-2									
幅	mm	mm									
高さ	mm	mm									

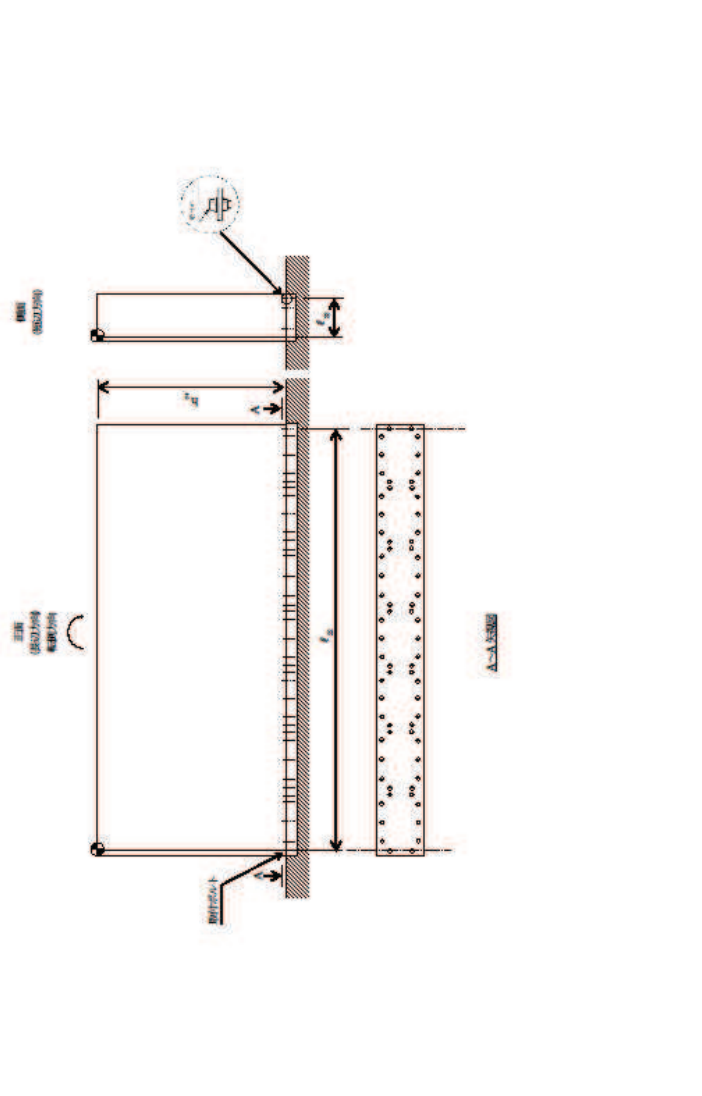
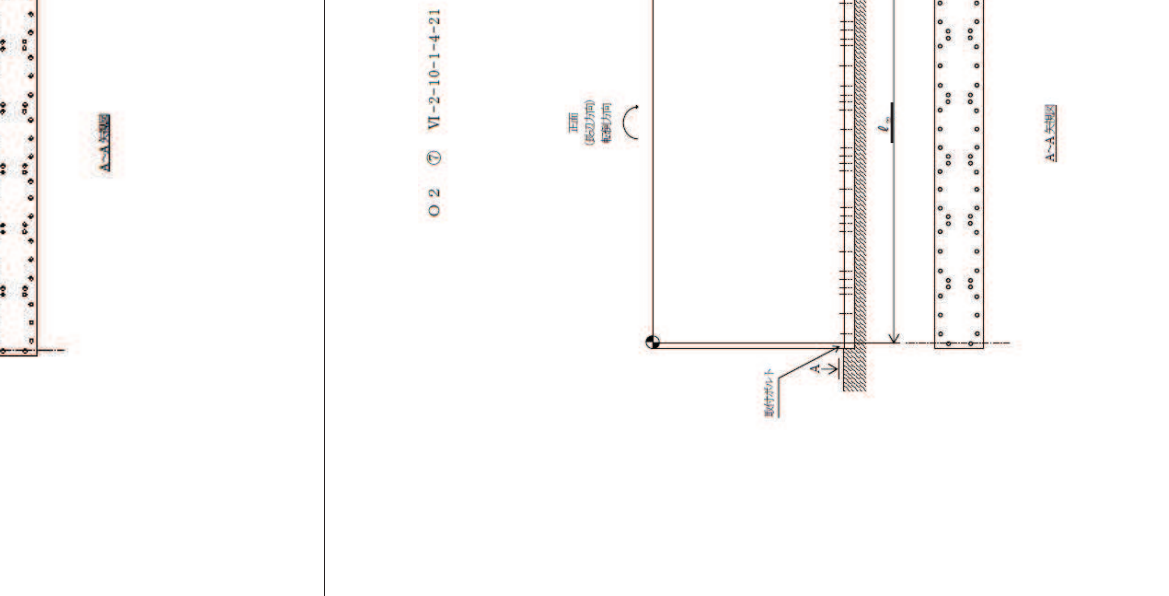
※断面みの内容は商業機密の観点から公開できません。

記載の適正化

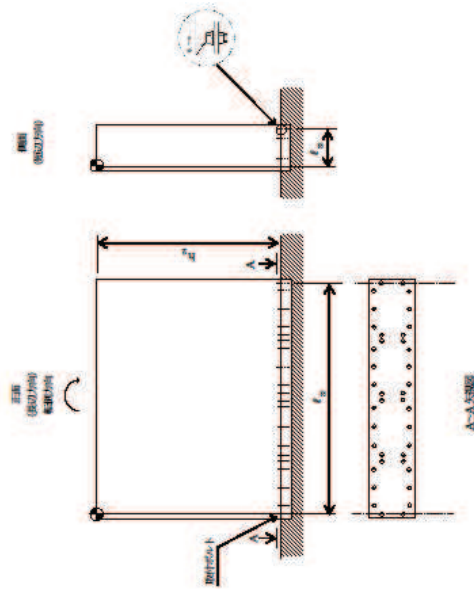
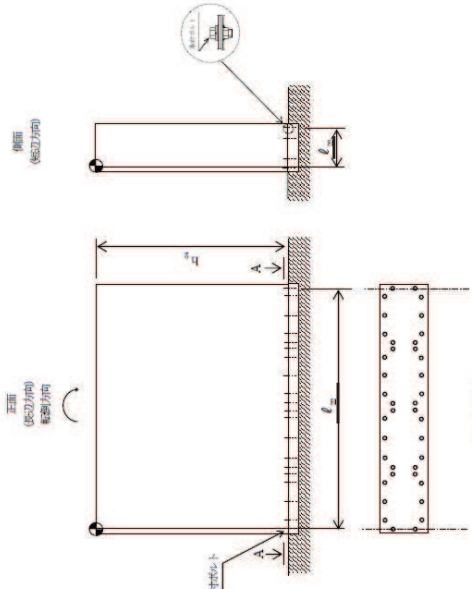
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-20 モータコントロールセンタ（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-21 R.1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-21 R.2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

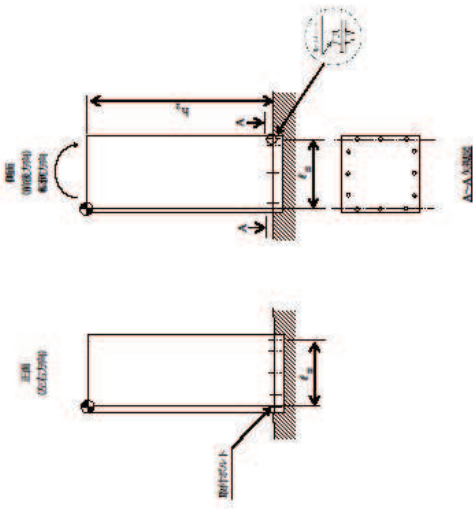
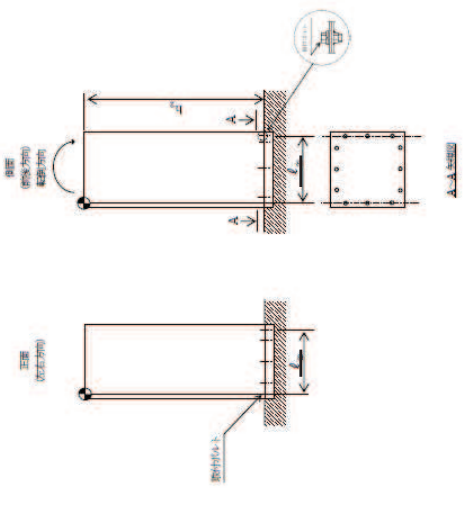
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-20 モータコントロールセンタ（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-21 R 0</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-21 R 1</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-20 モータコントロールセンタ（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

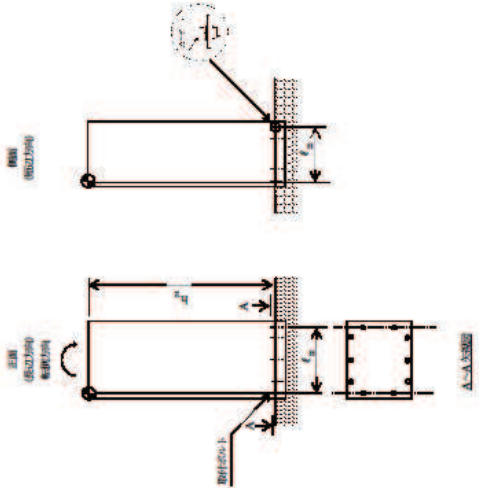
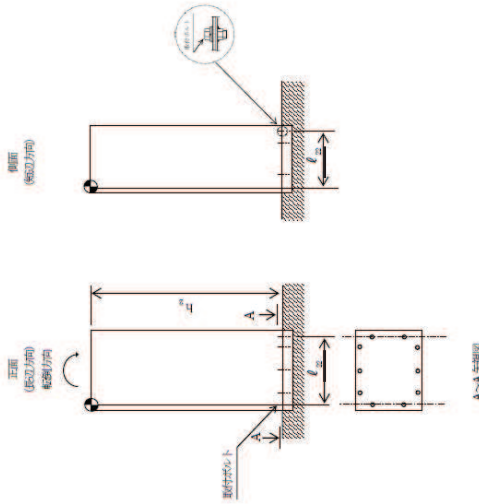
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-21 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-21 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-22 105V交流電源切替盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

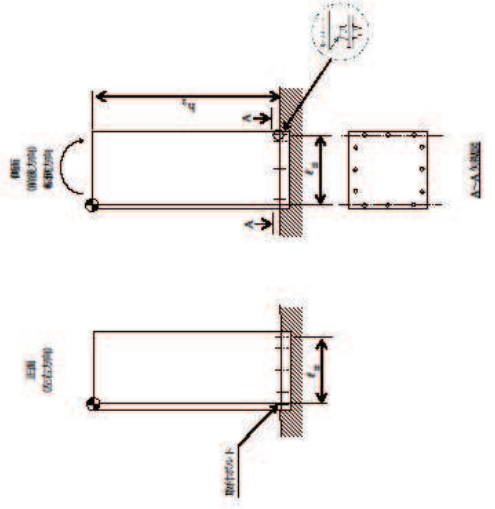
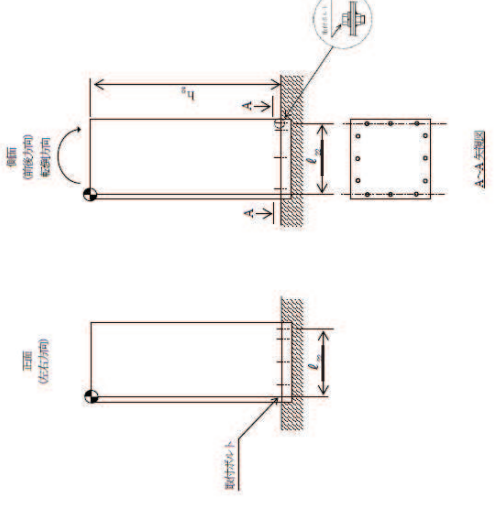
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-22 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-22 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



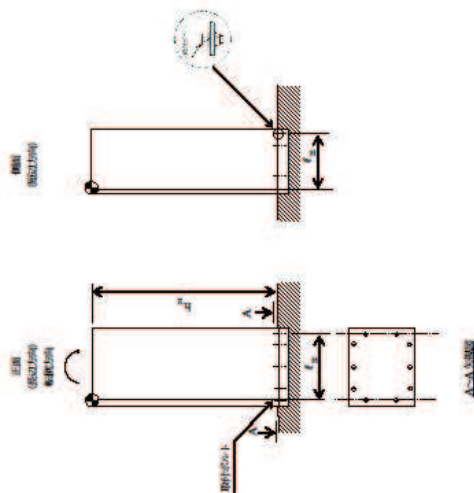
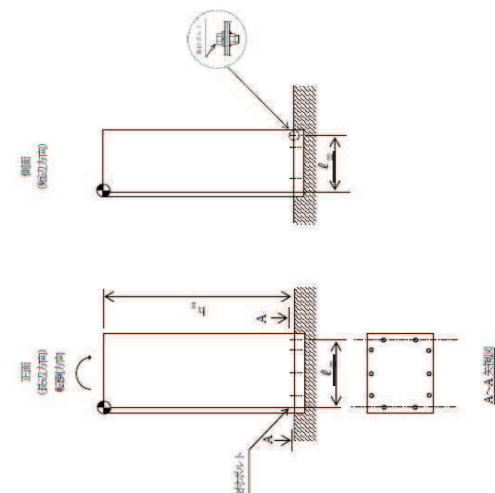
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-23 105V交流分電盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-23 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-23 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-24 120V交流分電盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="241 710 271 991">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-24 R.0.E.</p>  <p data-bbox="611 1364 640 1385">12</p>	<p data-bbox="1128 710 1158 991">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-24 R.1.E.</p>  <p data-bbox="1496 1364 1525 1385">12</p>	<p data-bbox="1960 758 2083 782">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 949 2083 973">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-25 210V交流分電盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-25 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ㊸ VI-2-10-1-4-25 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前

O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-26 R.0

表 2-2 構造計画

計画の概要		概略構造図																					
基礎・支持構造	主体構造		<table border="1"> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> </table>	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)			125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																	
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤（緊急時対策所用）のうち 125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)、J-2 (MCC 部) 及び J-3 (MCC 部) は、基礎に埋め込まれたチヤンネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）																						

※図中の内容は新構造の観点から公開できません。

変更後

O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-26 R.1

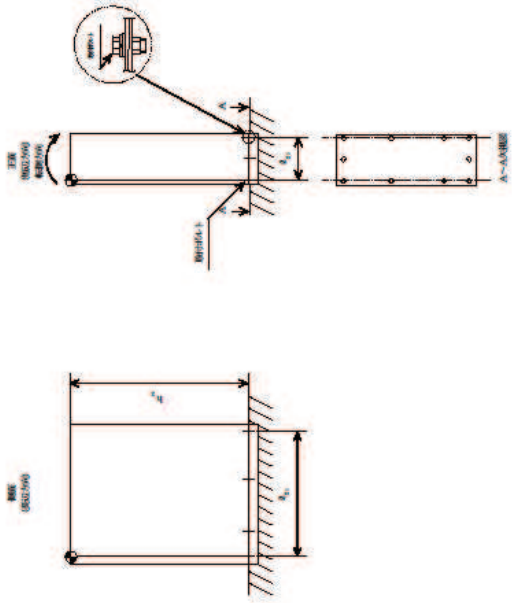
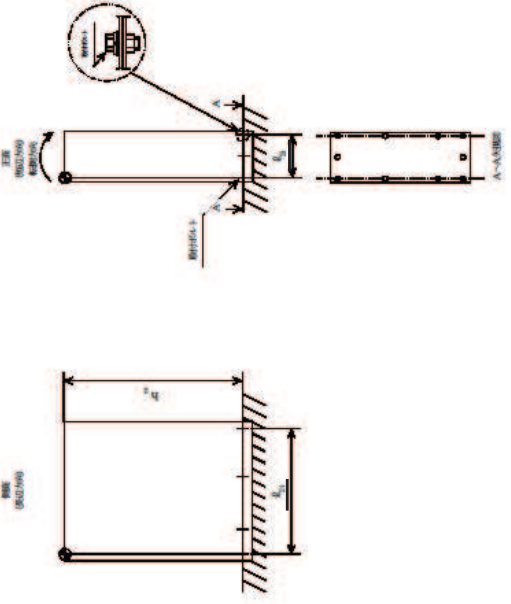
表 2-2 構造計画

計画の概要		概略構造図																					
基礎・支持構造	主体構造		<table border="1"> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)</td> </tr> </table>	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)			125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																	
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-2 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-3 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-4 (MCC 部)	125V 直流主母線盤 J-5 (MCC 部)																			
125V 直流主母線盤（緊急時対策所用）のうち 125V 直流主母線盤 J-1 (MCC 部)、J-2 (MCC 部) 及び J-3 (MCC 部) は、基礎に埋め込まれたチヤンネルベースに取付ボルトで設置する。	直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。）																						

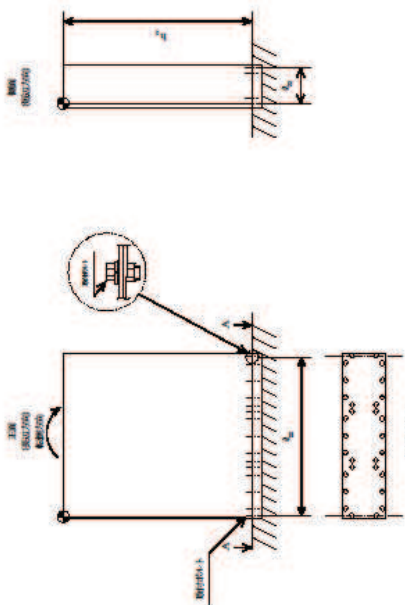
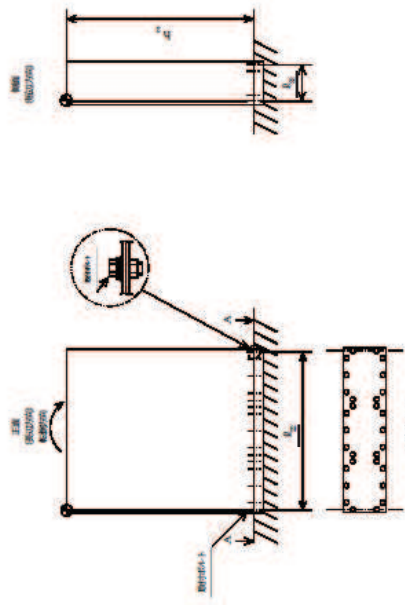
※図中の内容は新構造の観点から公開できません。

備考

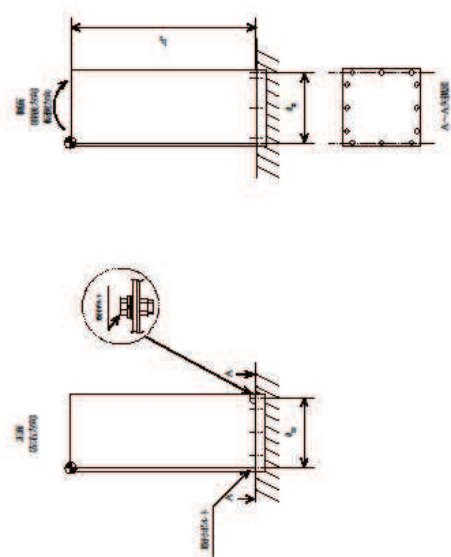
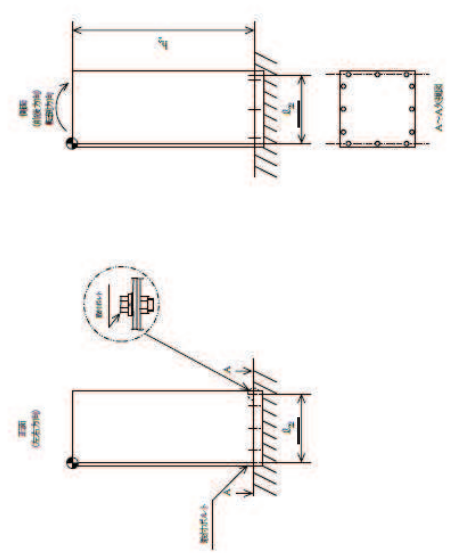
記載の適正化

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="241 719 271 979">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-26 R.1</p>  <p data-bbox="607 1362 636 1383">13</p>	<p data-bbox="1128 715 1158 975">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-26 R.2</p>  <p data-bbox="1494 1362 1523 1383">13</p>	<p data-bbox="1957 639 2085 667">記載の適正化</p> <p data-bbox="1957 986 2085 1013">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-26 125V直流主母線盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-26 R 1</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-26 R 2</p>  <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-26 125V直流主母線盤（緊急時対策所用）の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-26 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-26 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



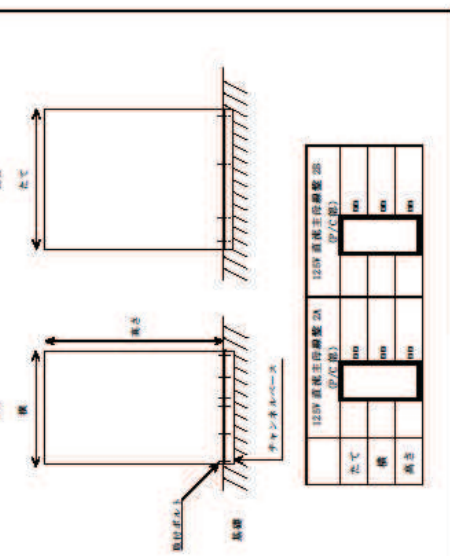
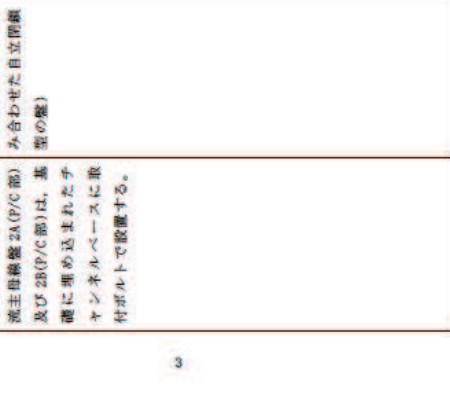
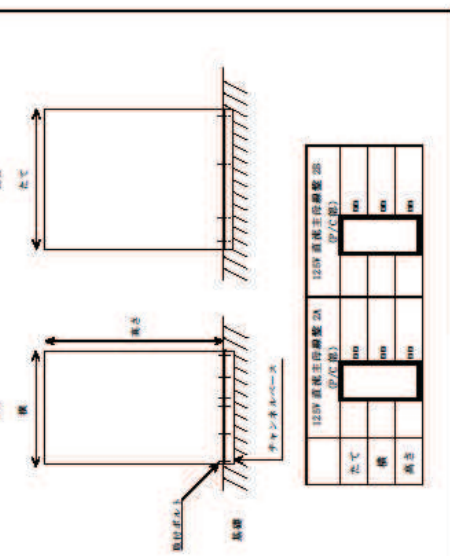
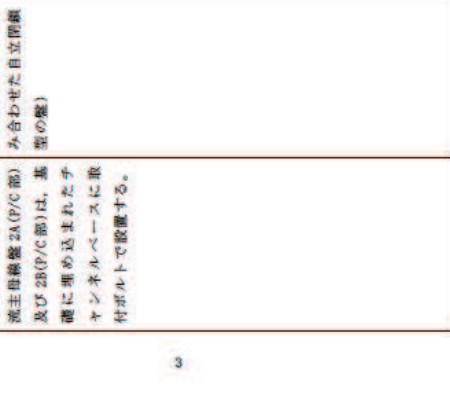
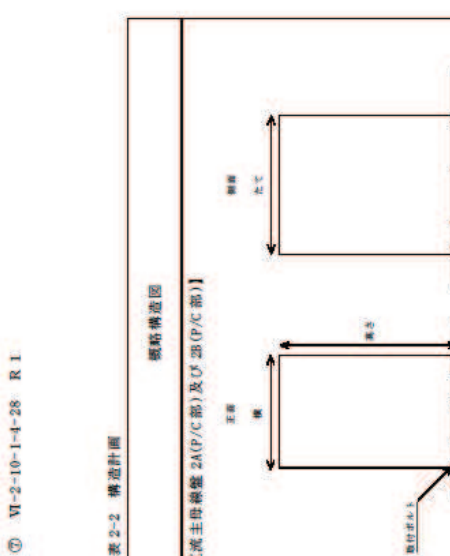
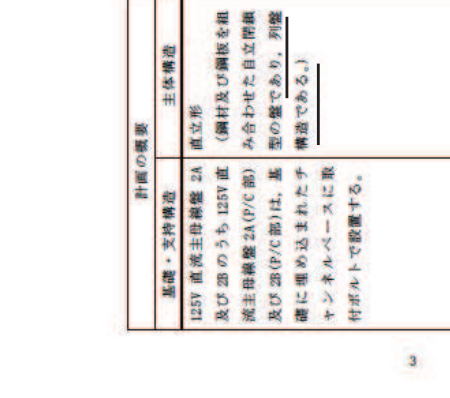
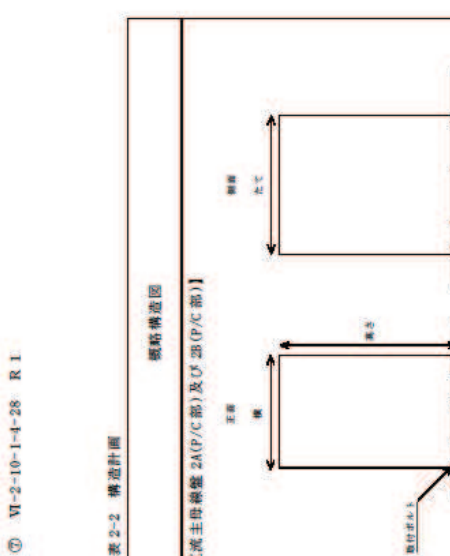
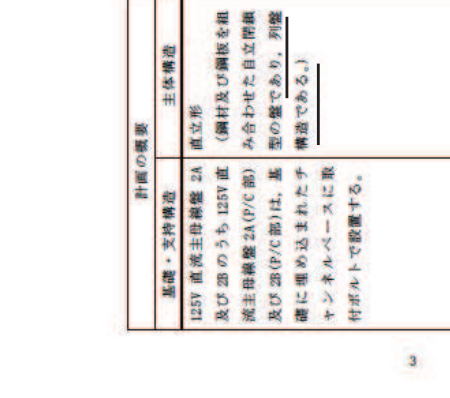
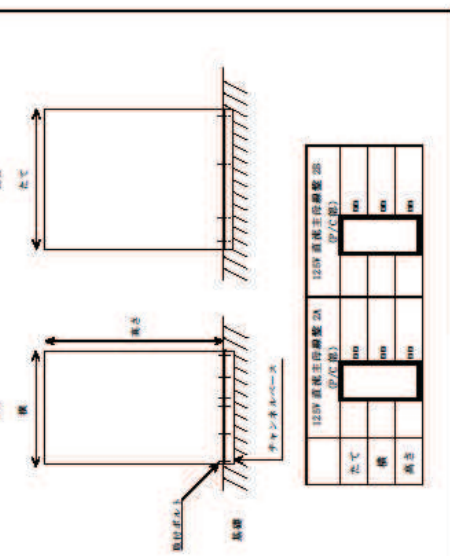
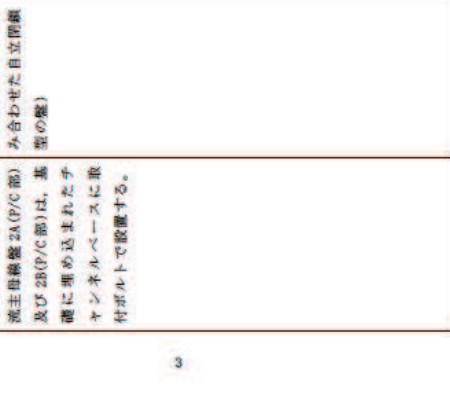
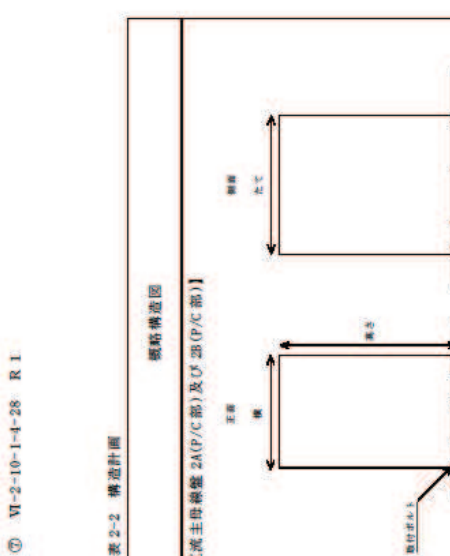
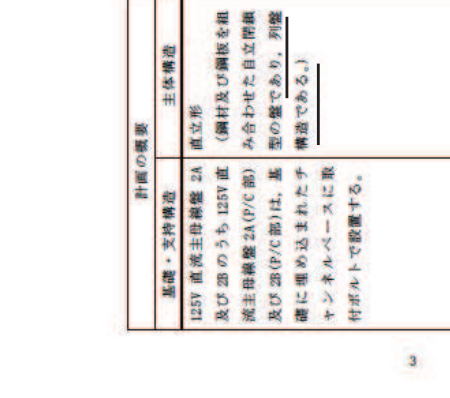
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-27 125V充電器2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-27 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-27 R 2</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

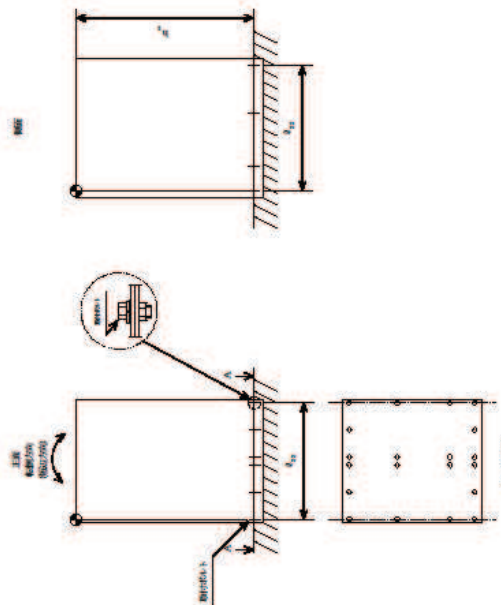
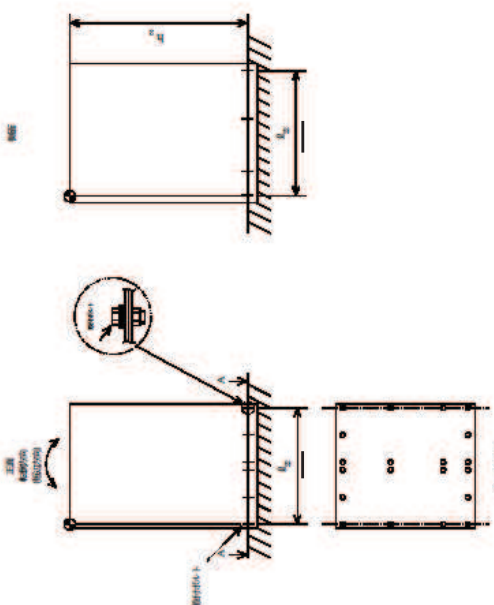
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-27 125V充電器2A及び2Bの耐震性についての計算書】

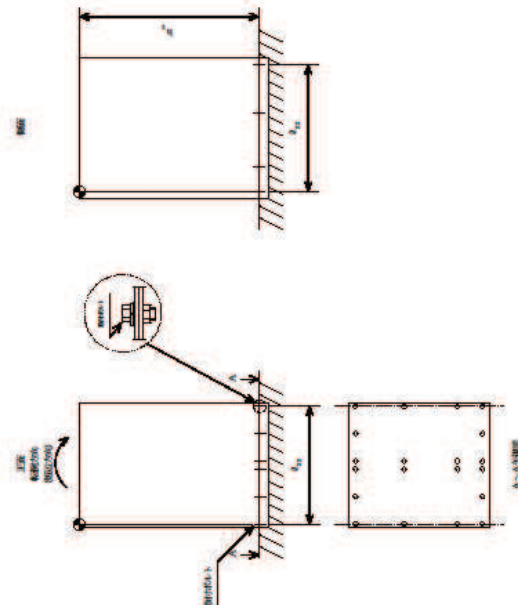
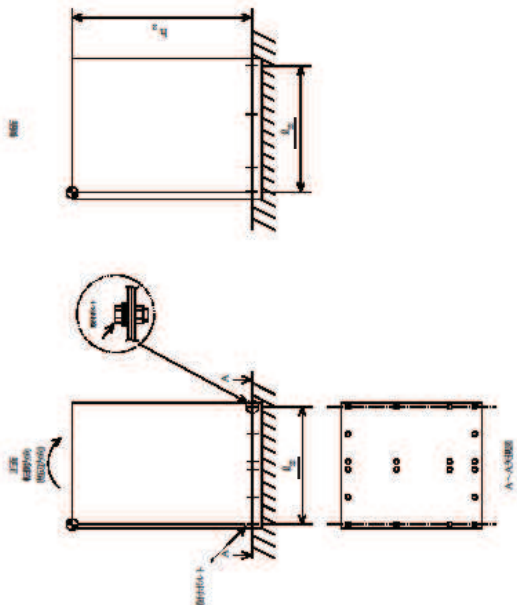
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-27 R 1 E</p> <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-27 R 2 E</p> <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																
<p style="text-align: center;">O.2 ㊸ VI-2-10-1-4-28 R.0</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">詳細図の内容は商業秘密の漏えいから公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図		<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁)			<p style="text-align: center;">O.2 ㊹ VI-2-10-1-4-28 R.1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁であり、列壁 構造である。)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">詳細図の内容は商業秘密の漏えいから公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図		<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁であり、列壁 構造である。)			<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図																
<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁)																	
計画の概要		概略構造図																
<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(受電 P/C 部)及び 2B(受電 P/C 部)は、基礎に埋め込まれたチャレンネル ベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立階級 型の壁であり、列壁 構造である。)																	

変更前	変更後	備考																								
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流主母線盤 2A                      及び 2B のうち 125V 直                      流主母線盤 2A(P/C 部)                      及び 2B(P/C 部)は、基                      礎に埋め込まれた子                      キンネルベースに取                      付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組                      み合わせた自立閉鎖                      型の盤)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">  </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">  </td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; font-size: small;">                     寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。                 </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図		<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(P/C 部) 及び 2B(P/C 部)は、基 礎に埋め込まれた子 キンネルベースに取 付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤)			寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。				<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th colspan="2">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流主母線盤 2A                      及び 2B のうち 125V 直                      流主母線盤 2A(P/C 部)                      及び 2B(P/C 部)は、基                      礎に埋め込まれた子                      キンネルベースに取                      付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組                      み合わせた自立閉鎖                      型の盤であり、列盤                      構造である。)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">  </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">  </td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; font-size: small;">                     寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。                 </td> </tr> </tbody> </table>	計画の概要		概略構造図		<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(P/C 部) 及び 2B(P/C 部)は、基 礎に埋め込まれた子 キンネルベースに取 付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤であり、列盤 構造である。)			寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。				<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図																								
<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(P/C 部) 及び 2B(P/C 部)は、基 礎に埋め込まれた子 キンネルベースに取 付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤)																									
寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。																										
計画の概要		概略構造図																								
<b>基礎・支持構造</b> 125V 直流主母線盤 2A 及び 2B のうち 125V 直 流主母線盤 2A(P/C 部) 及び 2B(P/C 部)は、基 礎に埋め込まれた子 キンネルベースに取 付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組 み合わせた自立閉鎖 型の盤であり、列盤 構造である。)																									
寸法のみ内容は商業機密の観点から公開できません。																										

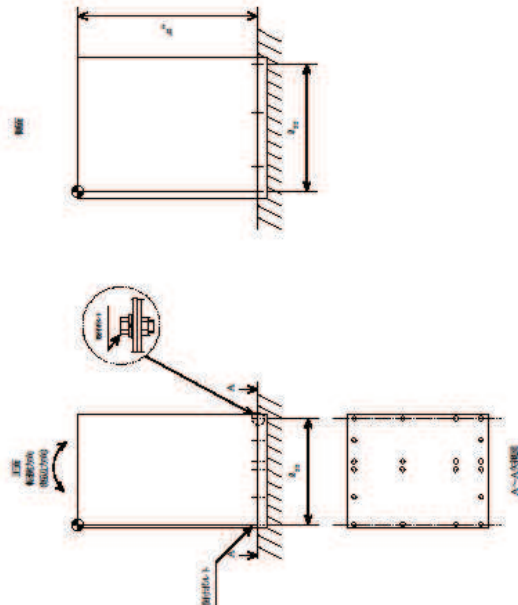
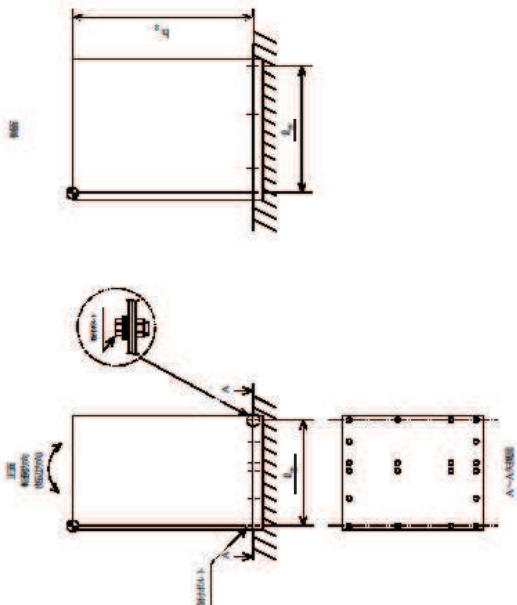


変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

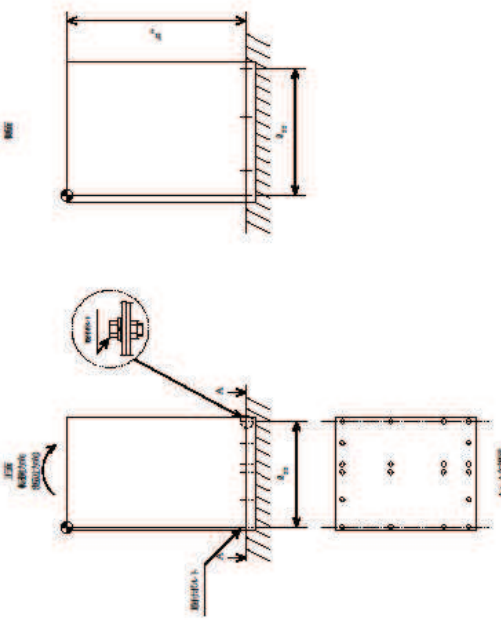
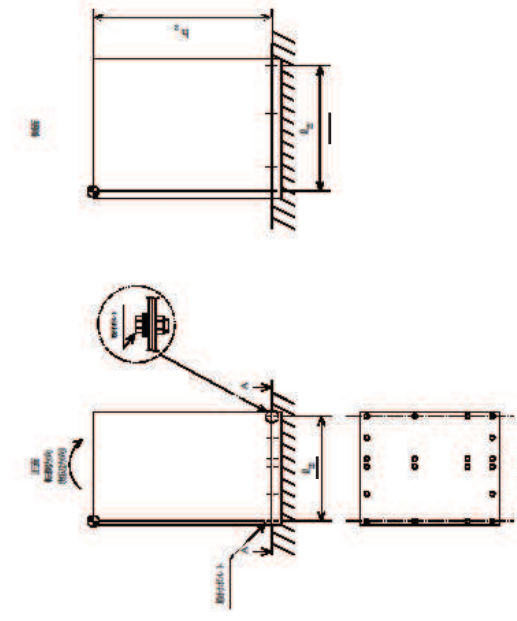
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

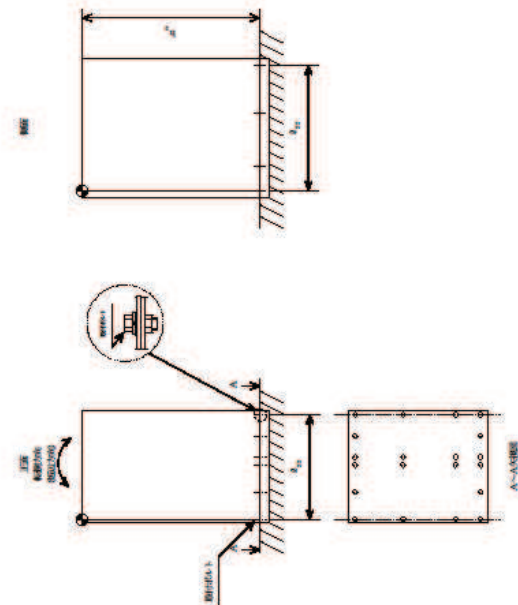
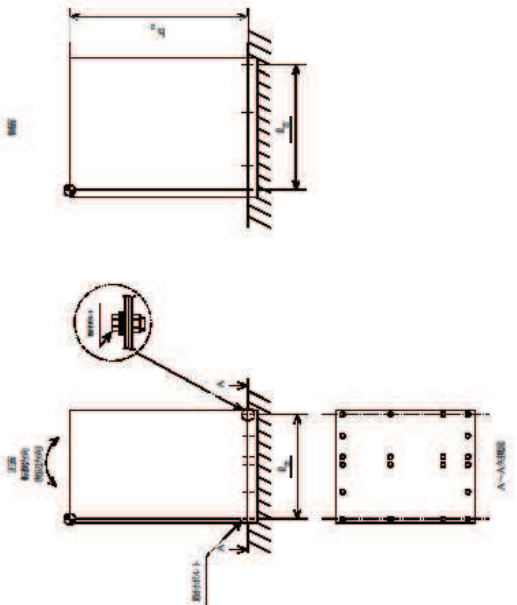


女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

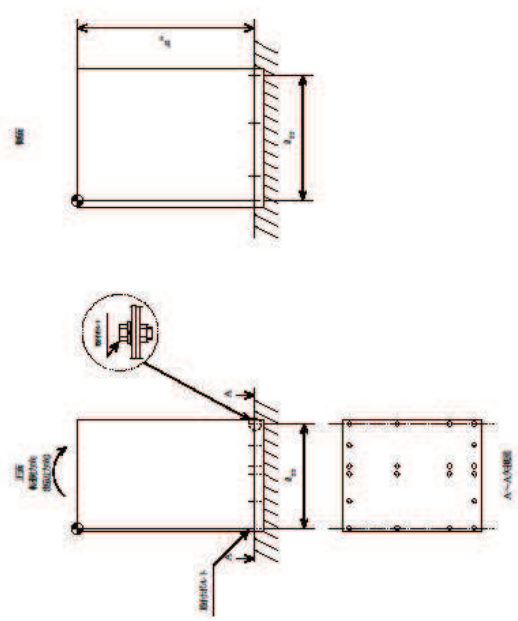
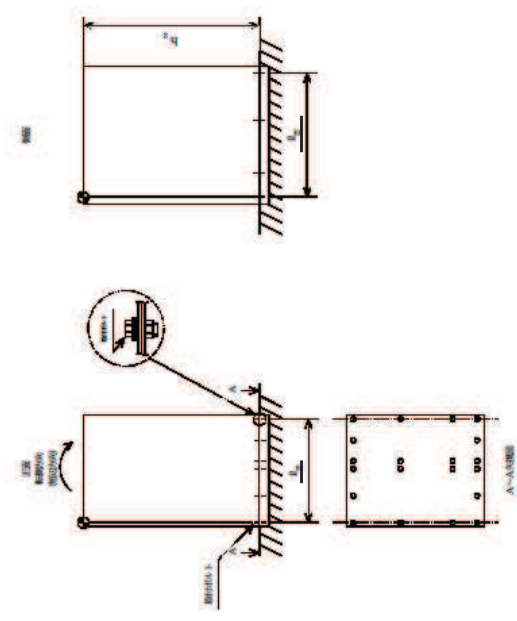
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p> 	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p> 	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

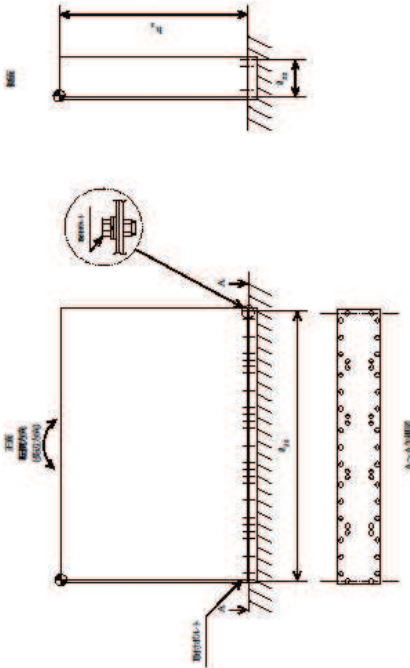
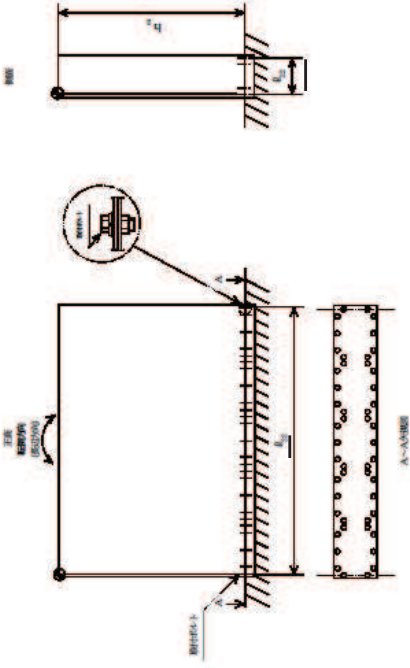
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p> 	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p> 	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

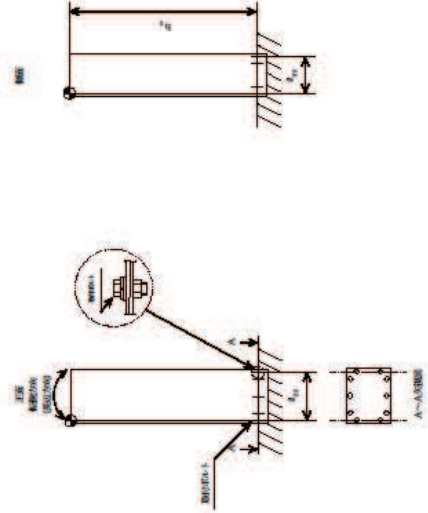
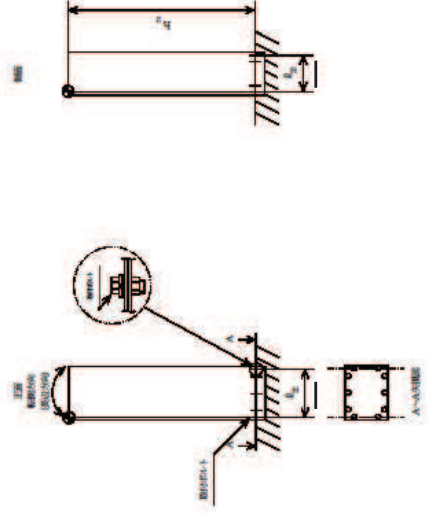
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">32</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ④ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">32</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

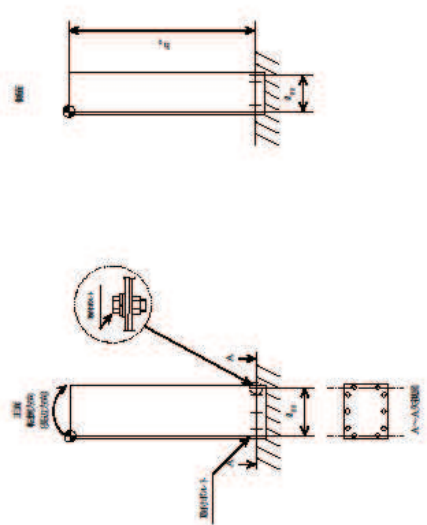
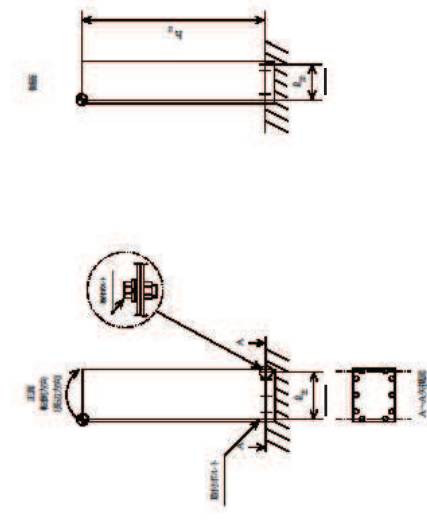
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p> <p style="text-align: center;">35</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p> <p style="text-align: center;">35</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

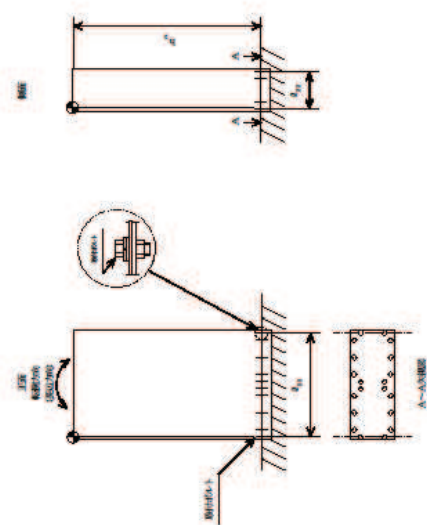
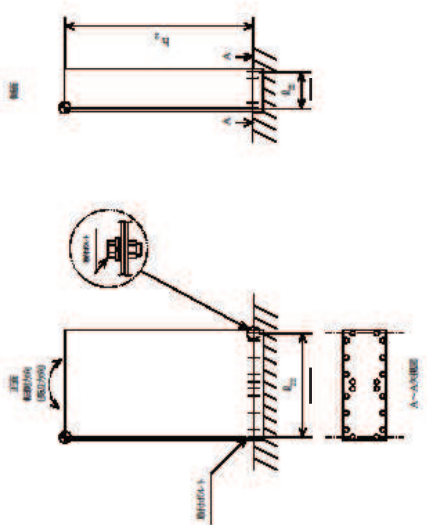
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">38</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">38</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



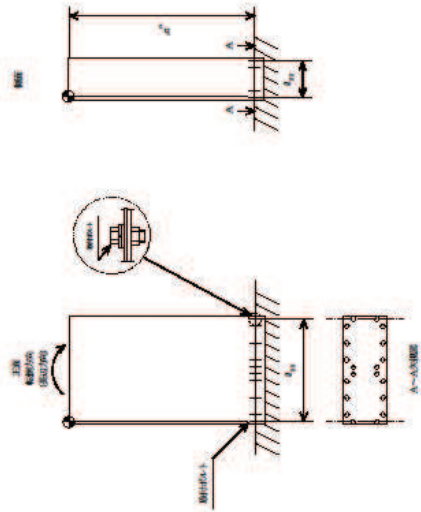
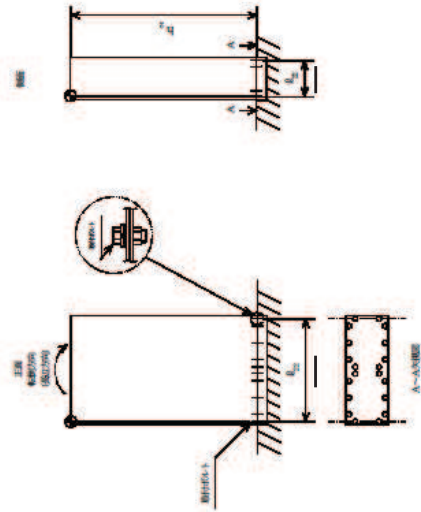
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">41</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">41</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

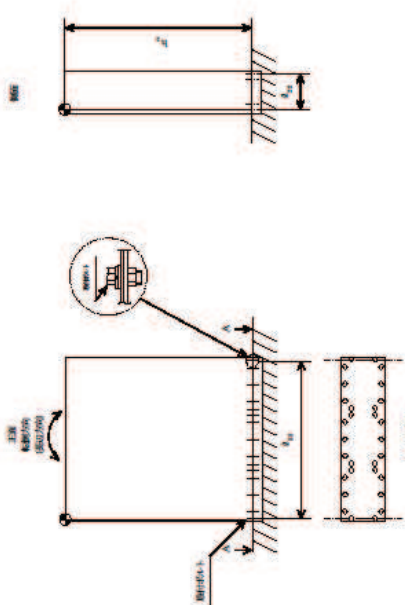
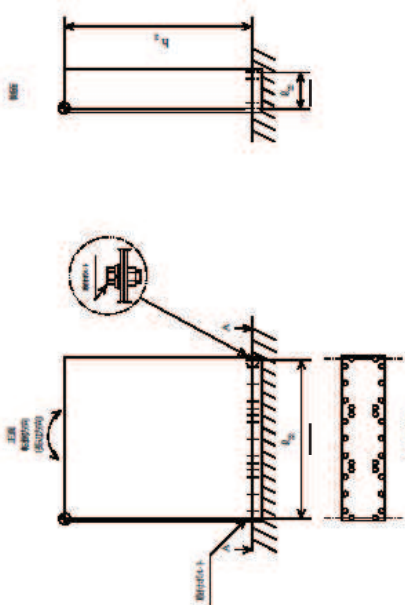
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及びび2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R.0</p> 	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R.1</p> 	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

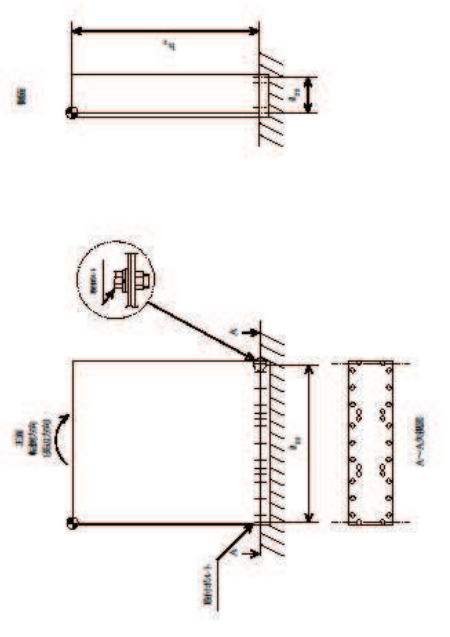
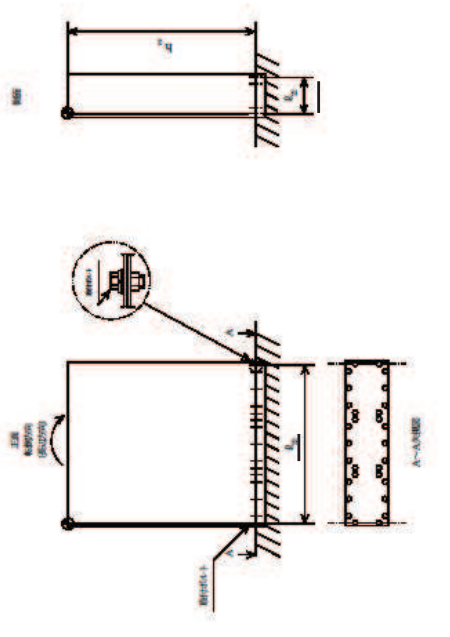
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R.0</p>  <p style="text-align: center;">47</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R.1</p>  <p style="text-align: center;">47</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0</p>  <p style="text-align: center;">50</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1</p>  <p style="text-align: center;">50</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-28 125V直流主母線盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-28 R 0 E</p>  <p style="text-align: center;">53</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-28 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">53</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前

変更後

備考

O.2 ㊸ VI-2-10-1-4-29 R.0

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
<p>基礎・支持構造</p> <p>125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 のうち 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (P/C 部) は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)</p>										
		<table border="1"> <tr> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>		125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)	125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)	たて	mm	横	mm	高さ	mm
125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)	125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)										
たて	mm										
横	mm										
高さ	mm										

※図面の内容は建築構造の観点から公開できません。

12

O.2 ㊸ VI-2-10-1-4-29 R.1

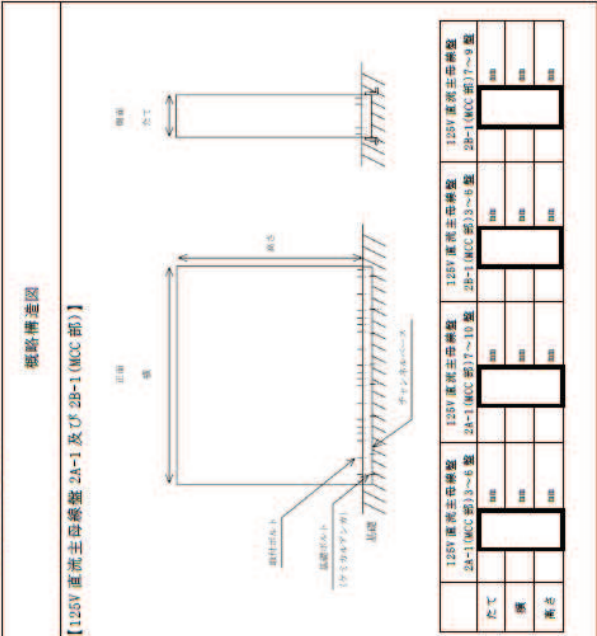
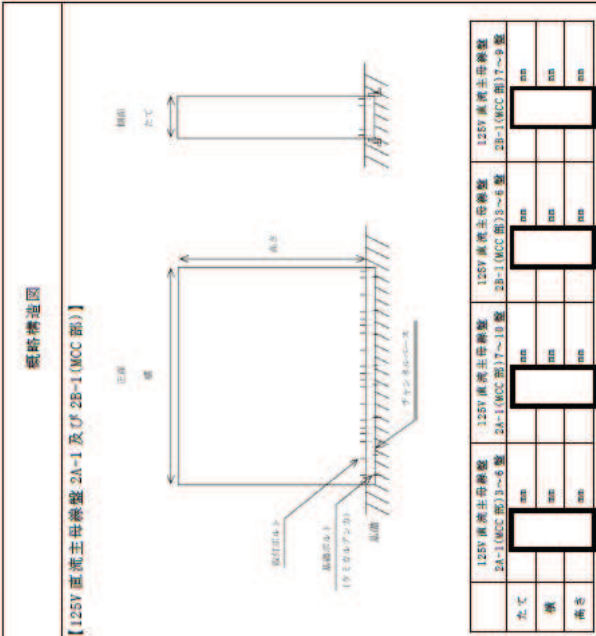
表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図									
<p>基礎・支持構造</p> <p>125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 のうち 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (P/C 部) は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p>	<p>主体構造</p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)</p>										
		<table border="1"> <tr> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> </tr> </table>		125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)	125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)	たて	mm	横	mm	高さ	mm
125V 直流主母線盤 2A-1 (P/C 部)	125V 直流主母線盤 2B-1 (P/C 部)										
たて	mm										
横	mm										
高さ	mm										

※図面の内容は建築構造の観点から公開できません。

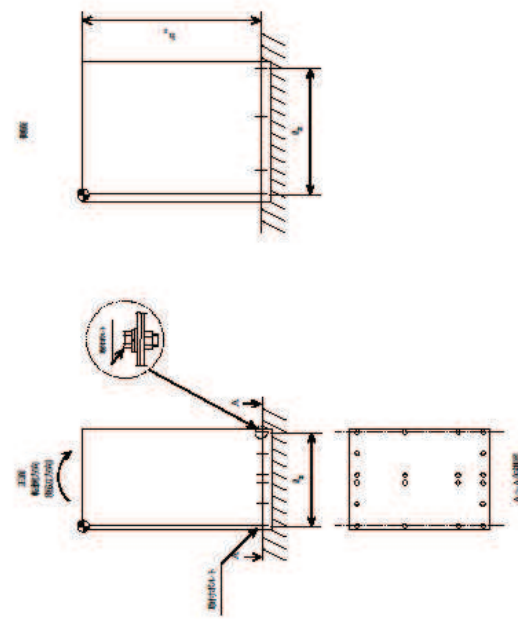
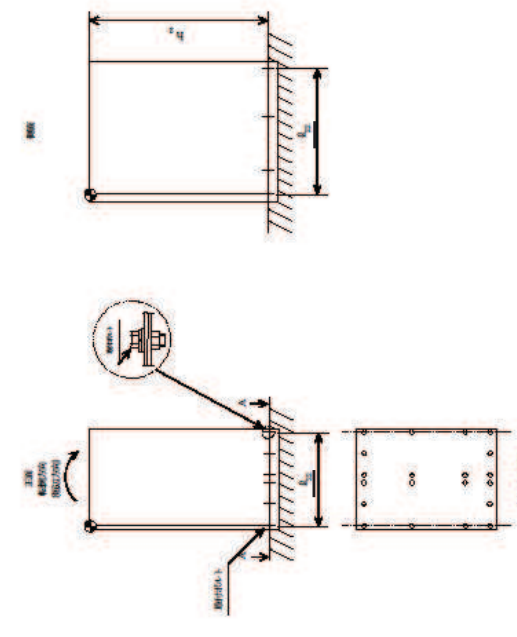
13

記載の適正化

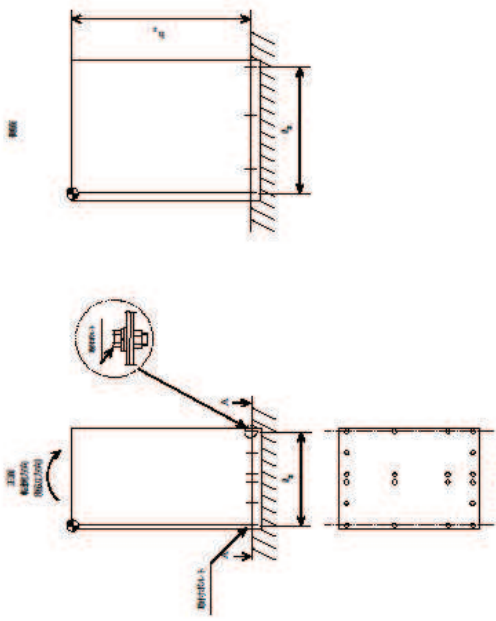
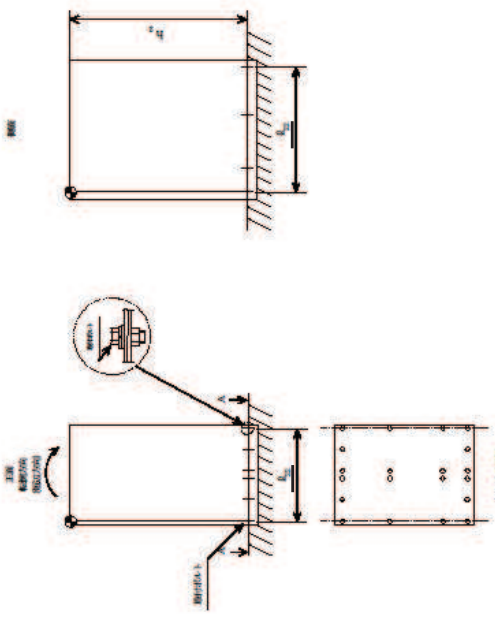
変更前	変更後	備考																																								
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-29 R.0</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 のうち 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (MCC 部) は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>概略構造図</p> <p>【125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (MCC 部)】</p>  <table border="1" data-bbox="761 375 896 997"> <tr> <td></td> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">※ 右図中の内容は図面集巻の欄から公開できません。</p> </div> </div>		125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型	高さ	300	300	300	300	幅	300	300	300	300	長さ	300	300	300	300	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-29 R.1</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 のうち 125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (MCC 部) は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>概略構造図</p> <p>【125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1 (MCC 部)】</p>  <table border="1" data-bbox="1680 375 1814 997"> <tr> <td></td> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型</td> <td>125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">※ 右図中の内容は図面集巻の欄から公開できません。</p> </div> </div>		125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型	高さ	300	300	300	300	幅	300	300	300	300	長さ	300	300	300	300	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型																																						
高さ	300	300	300	300																																						
幅	300	300	300	300																																						
長さ	300	300	300	300																																						
	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2A-1 (MCC 部) 7~10 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 3~6 型	125V 直流主母線盤 2B-1 (MCC 部) 7~9 型																																						
高さ	300	300	300	300																																						
幅	300	300	300	300																																						
長さ	300	300	300	300																																						

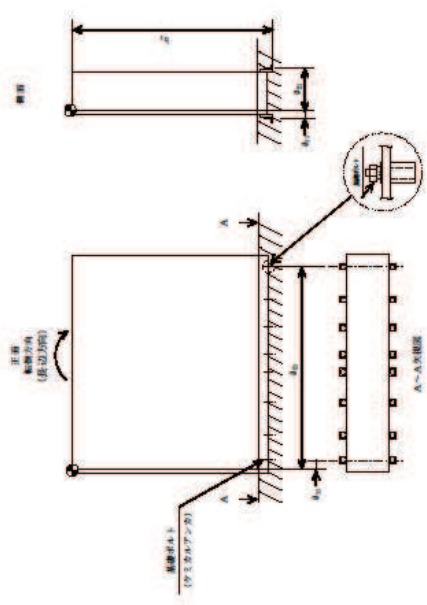
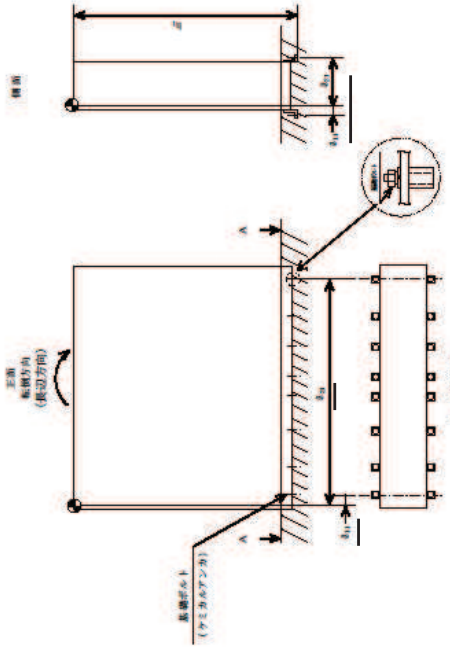


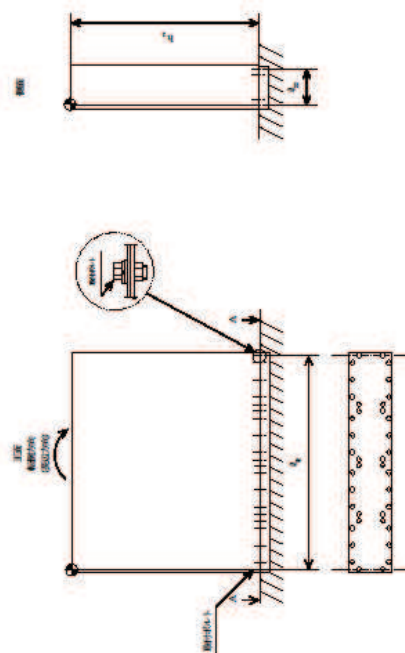
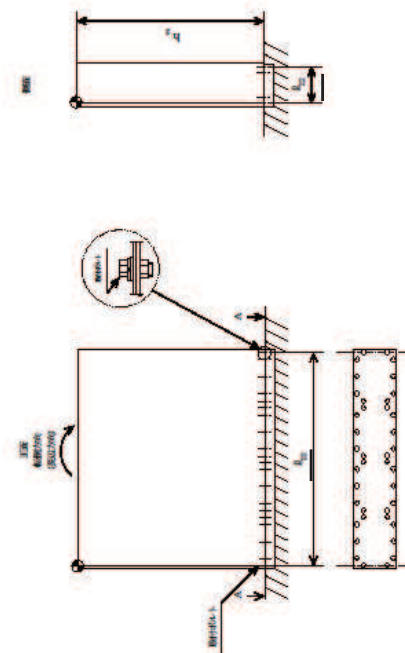
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-29 R.1</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-29 R.2</p> <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">14</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R.1</p> <p>17</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R.2</p> <p>17</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑤ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

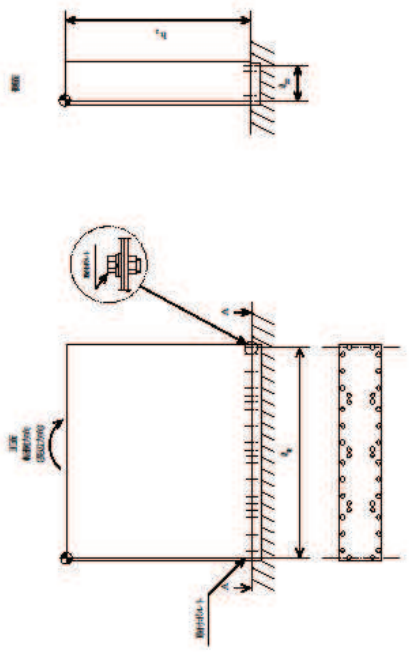
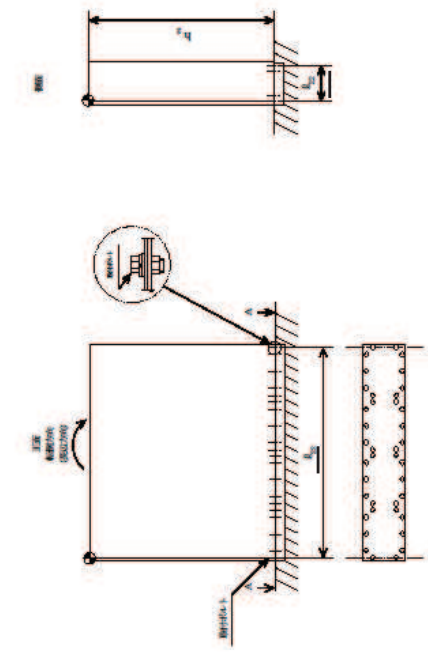
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

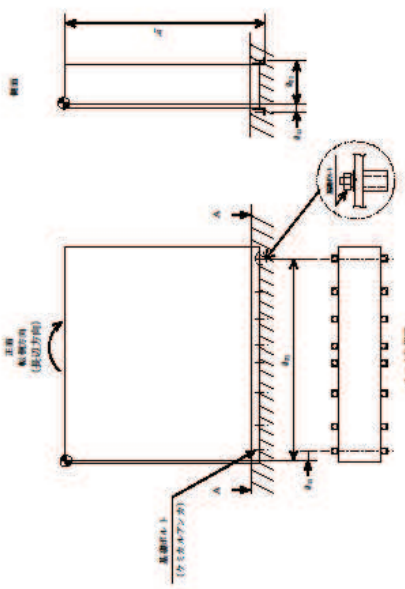
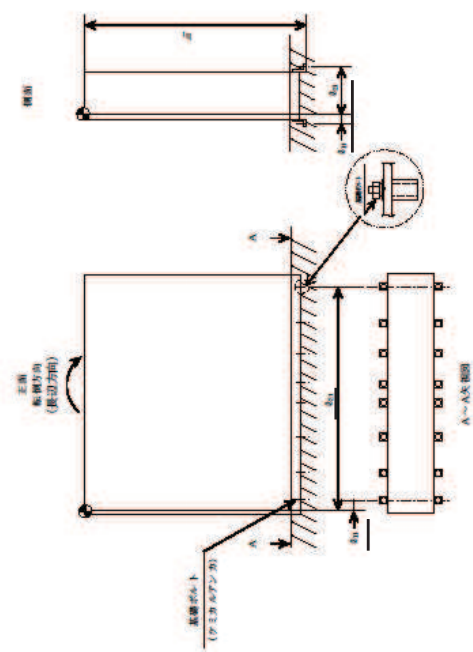
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p> 	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p> 	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

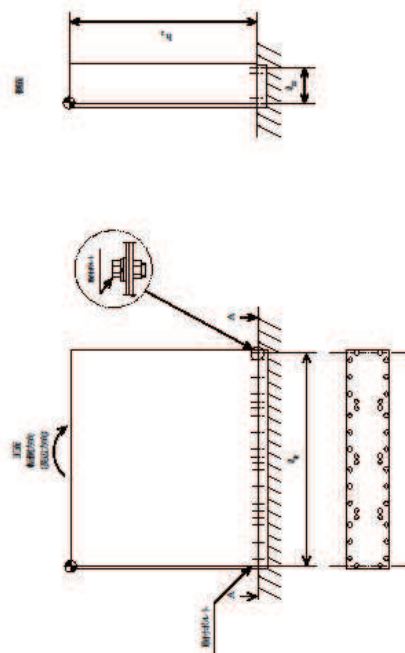
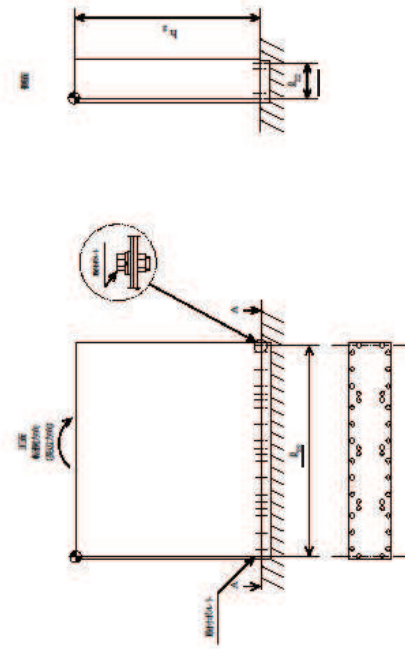
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

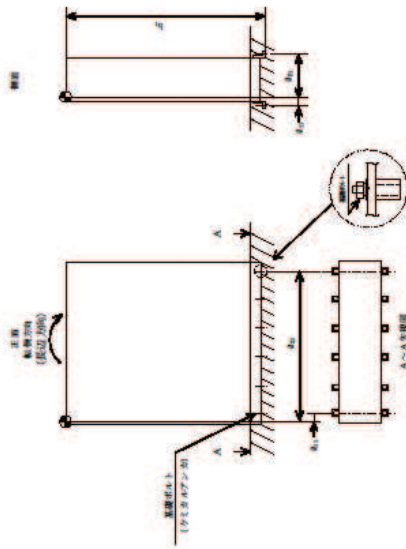
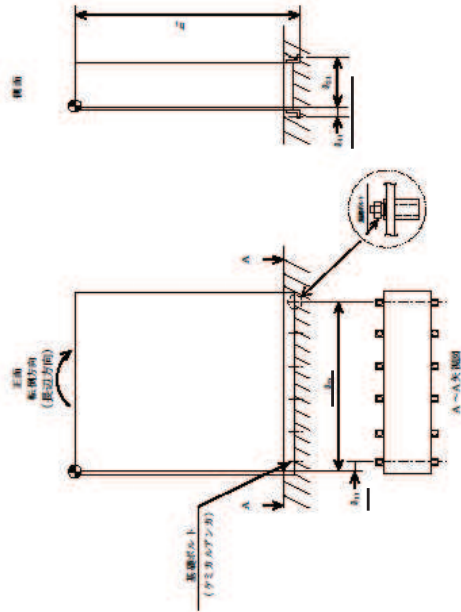


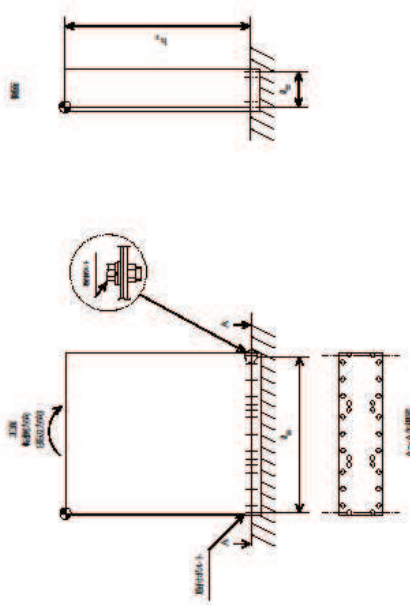
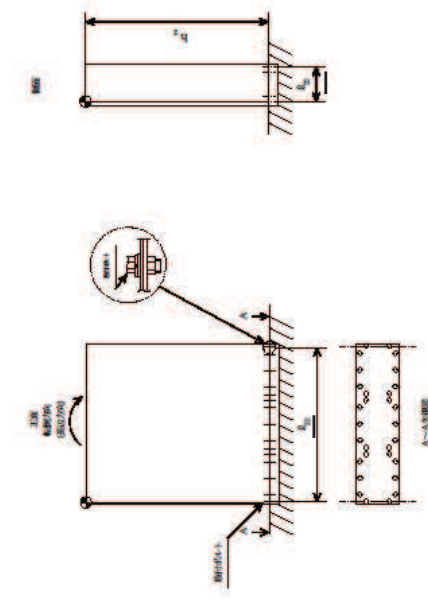
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-29 125V直流主母線盤2A-1及び2B-1の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

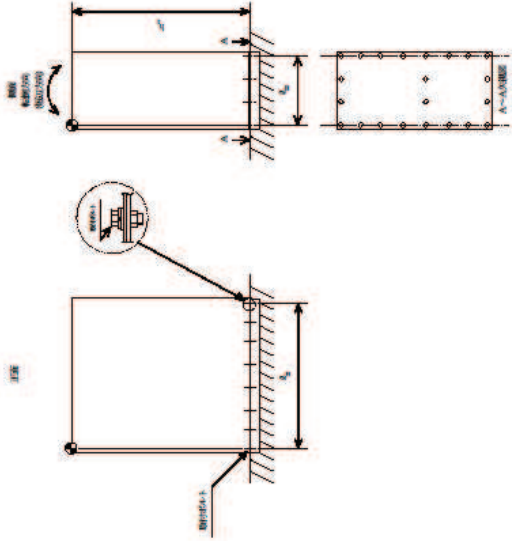
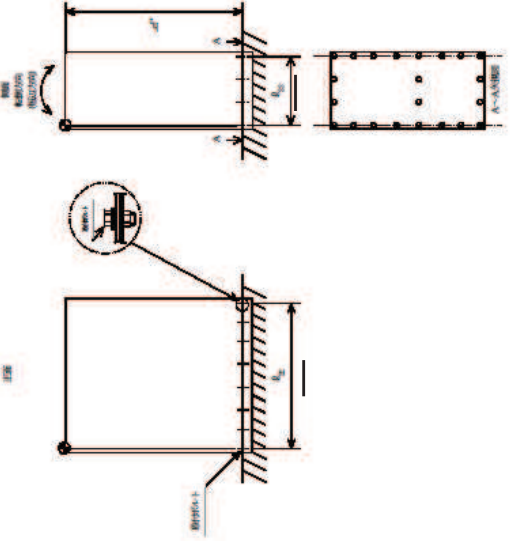
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R.1</p>  <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R.2</p>  <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">30</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">30</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R 1</p>  <p style="text-align: center;">33</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-29 R 2</p>  <p style="text-align: center;">33</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R1E</p>  <p style="text-align: center;">34</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-29 R2E</p>  <p style="text-align: center;">34</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

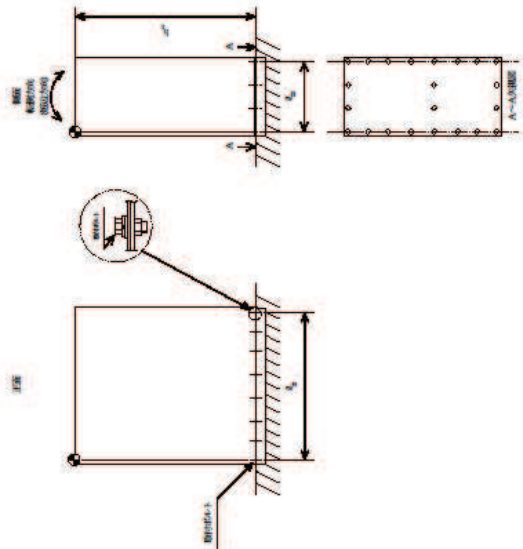
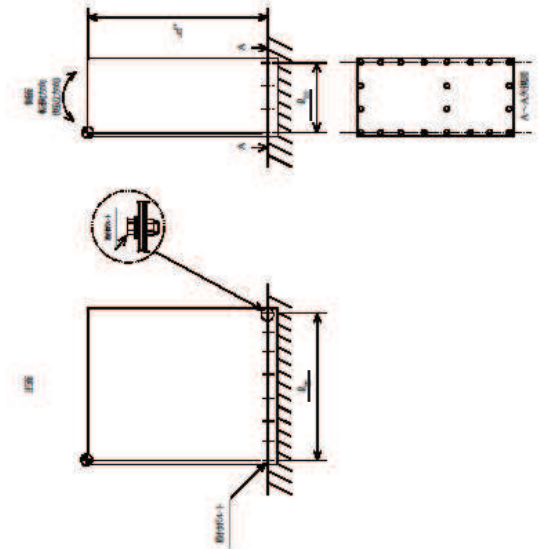
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-30 125V直流分電盤2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2及び2B-3の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-30 R 1</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-30 R 2</p>  <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

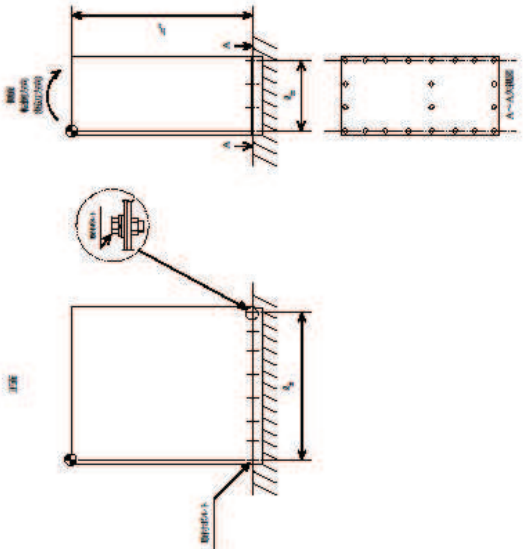
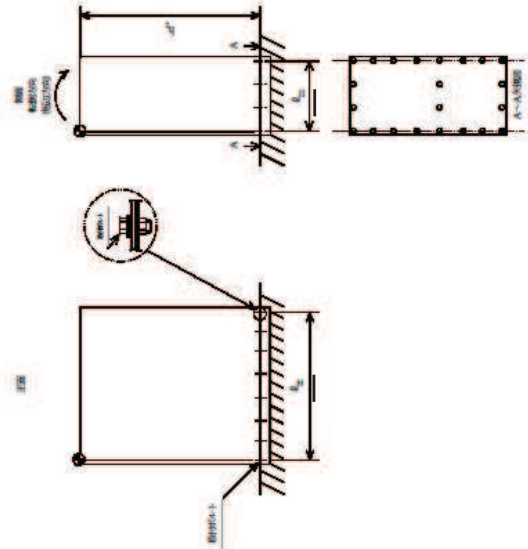




女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-30 125V直流分電盤2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2及び2B-3の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-30 R 1</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-30 R 2</p>  <p style="text-align: center;">18</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

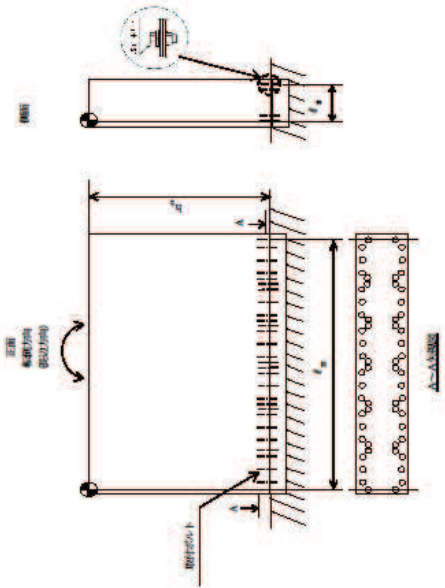
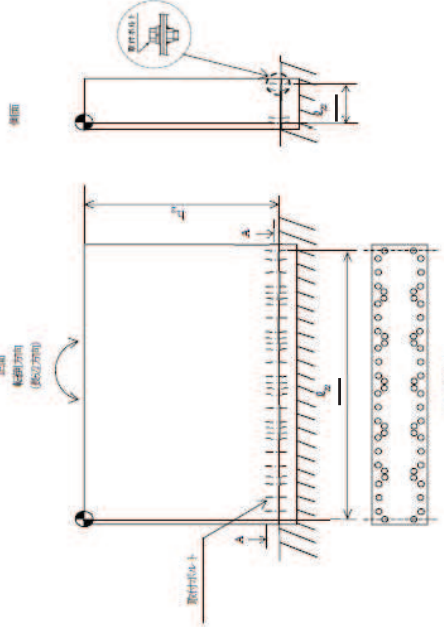
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-30 125V直流分電盤2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2及び2B-3の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="235 710 264 989">O2 ⑥ VI-2-10-1-4-30 R1E</p>  <p data-bbox="604 1364 638 1388">21</p>	<p data-bbox="1120 710 1149 989">O2 ⑥ VI-2-10-1-4-30 R2E</p>  <p data-bbox="1489 1364 1523 1388">21</p>	<p data-bbox="1960 678 2083 710">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 941 2083 973">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考																																
<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-31 R.0</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p><b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>主体構造</b>                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)</th> <th colspan="2">125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">枠組みの内容は標準機部の観点から公開できません。</p>	125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)		125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)		たて	mm	mm	mm	幅	mm	mm	mm	高さ	mm	mm	mm	<p style="text-align: center;">O.2 ㊦ VI-2-10-1-4-31 R.1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p><b>基礎・支持構造</b>                      125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。チャンネルベースは基礎ボルトにて基礎に固定する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>主体構造</b>                      直立形（鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)</th> <th colspan="2">125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>幅</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>mm</td> <td>mm</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">枠組みの内容は標準機部の観点から公開できません。</p>	125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)		125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)		たて	mm	mm	mm	幅	mm	mm	mm	高さ	mm	mm	mm	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)		125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)																																
たて	mm	mm	mm																															
幅	mm	mm	mm																															
高さ	mm	mm	mm																															
125V 直流電源切替盤 2A (第1盤～第6盤)		125V 直流電源切替盤 2B (第7盤～第8盤)																																
たて	mm	mm	mm																															
幅	mm	mm	mm																															
高さ	mm	mm	mm																															

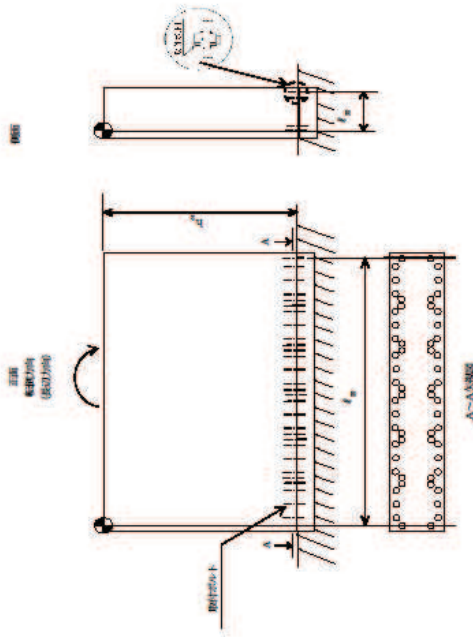
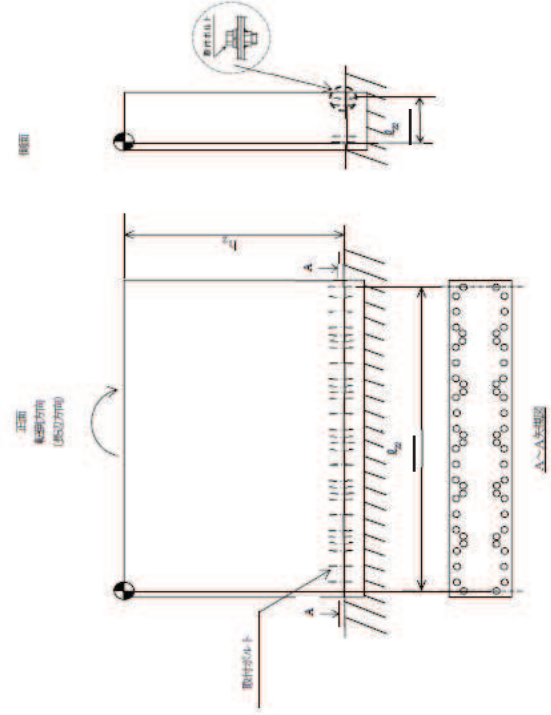
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R.1</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R.2</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p> <p style="text-align: center;">16</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

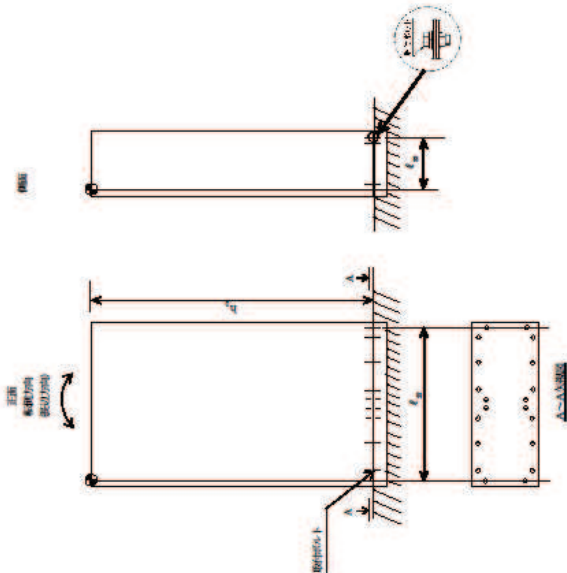
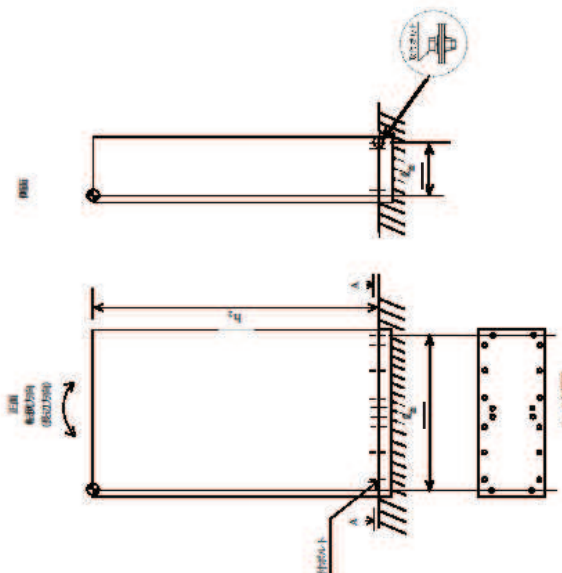
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p>  <p style="text-align: center;">17</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及びび2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ④ VI-2-10-1-4-31 R.1</p> <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ④ VI-2-10-1-4-31 R.2</p> <p style="text-align: center;">20</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

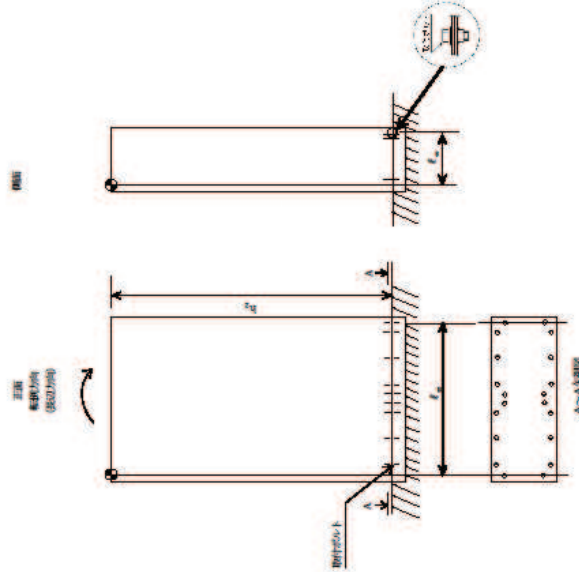
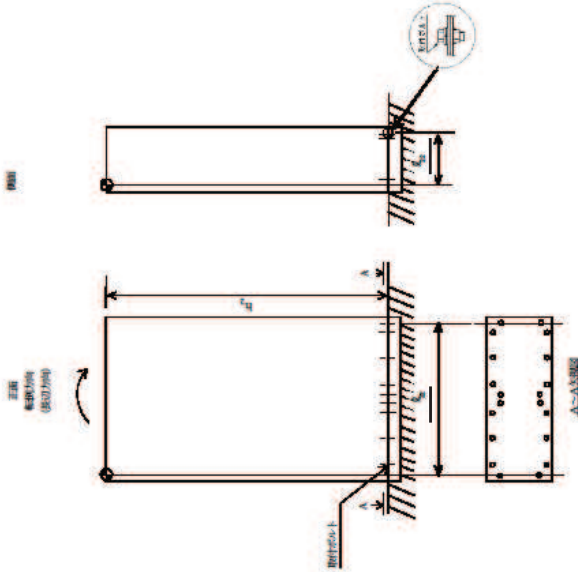
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p>  <p style="text-align: center;">21</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p> <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p> <p style="text-align: center;">24</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p>  <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 2</p>  <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

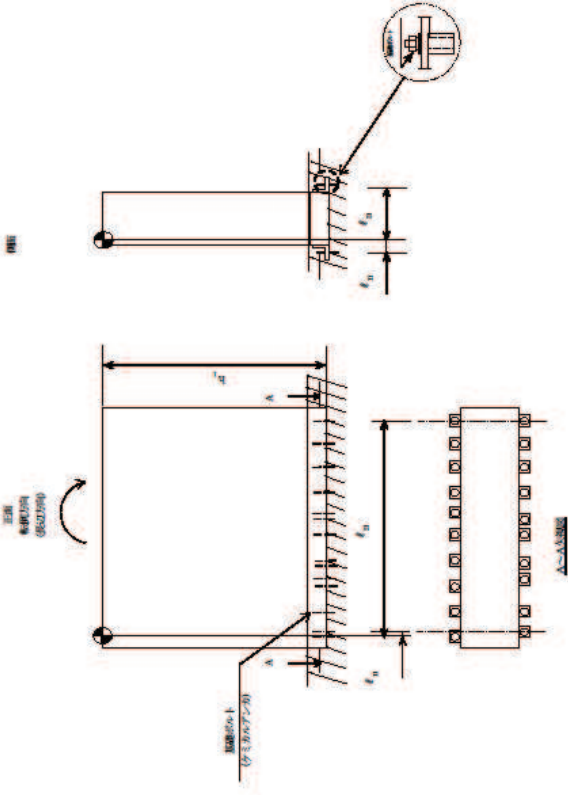
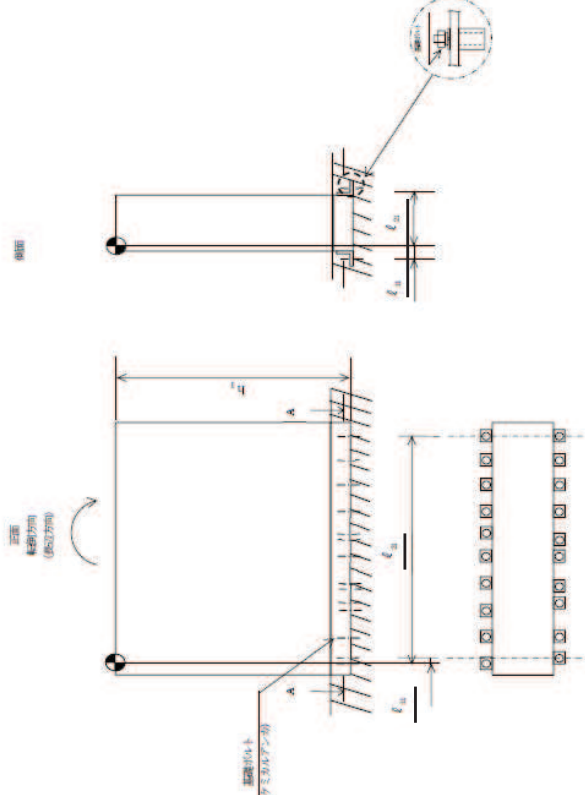
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R.1</p> <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R.2</p> <p style="text-align: center;">28</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

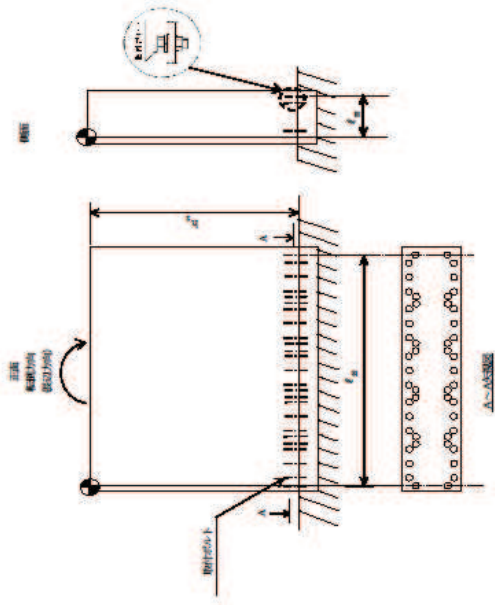
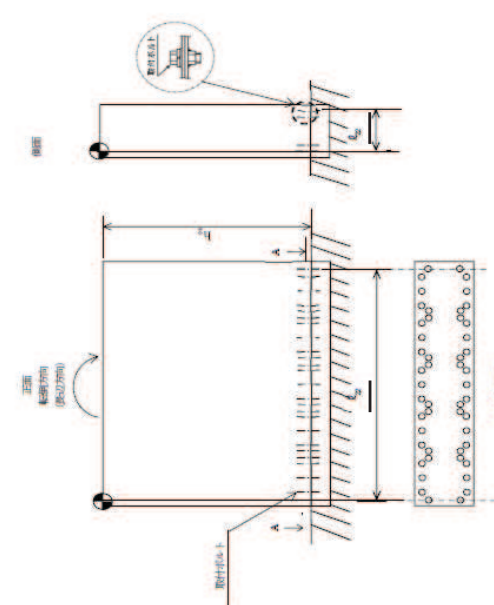
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R 1</p> <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R 2</p> <p style="text-align: center;">32</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O 2 ⑥ M-2-10-1-4-31 R 1</p>  <p>固定部上 (クミカケアンカ)</p> <p>A-A断面</p>	<p>O 2 ⑦ M-2-10-1-4-31 R 2</p>  <p>固定部上 (クミカケアンカ)</p> <p>A-A断面</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

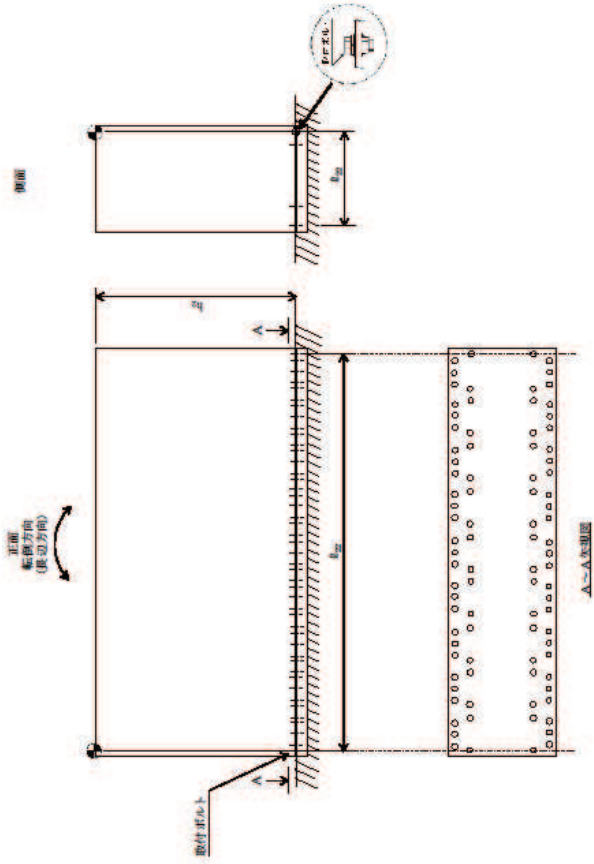
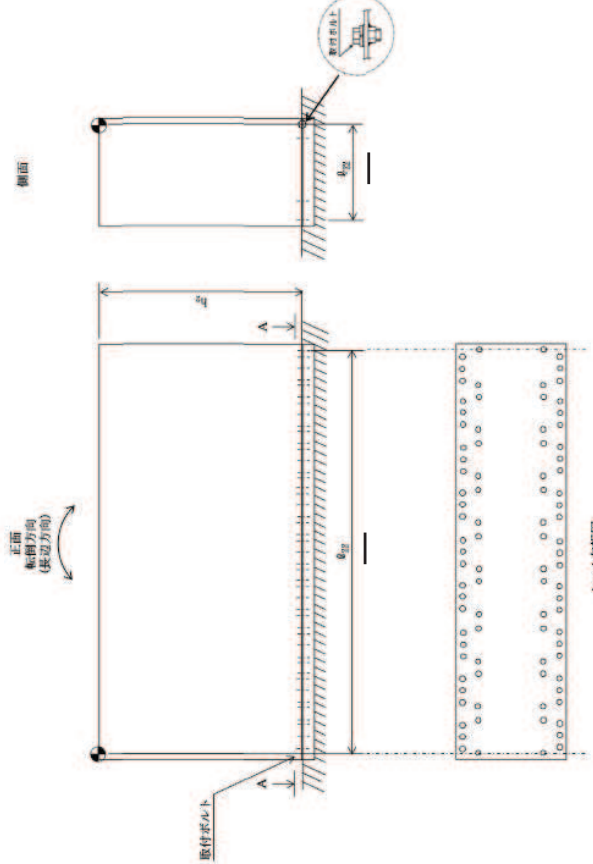
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-31 125V直流電源切替盤2A及び2Bの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-31 R1E</p>  <p style="text-align: center;">33</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-31 R2E</p>  <p style="text-align: center;">33</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>



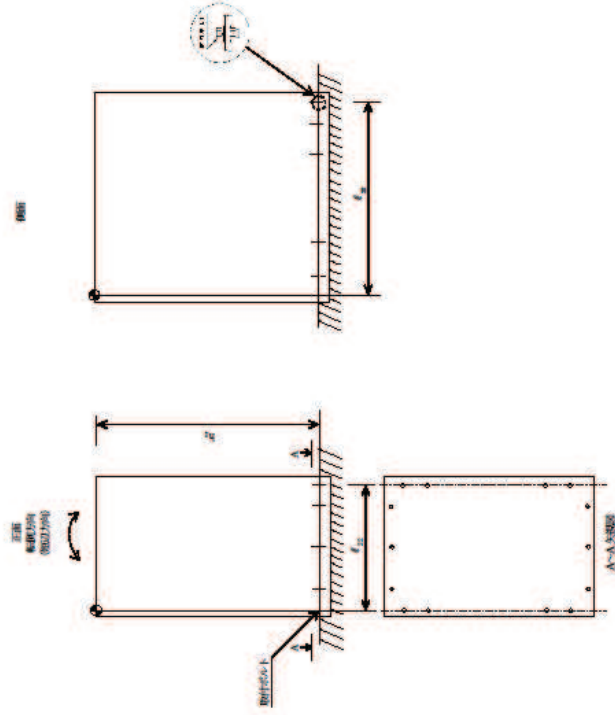
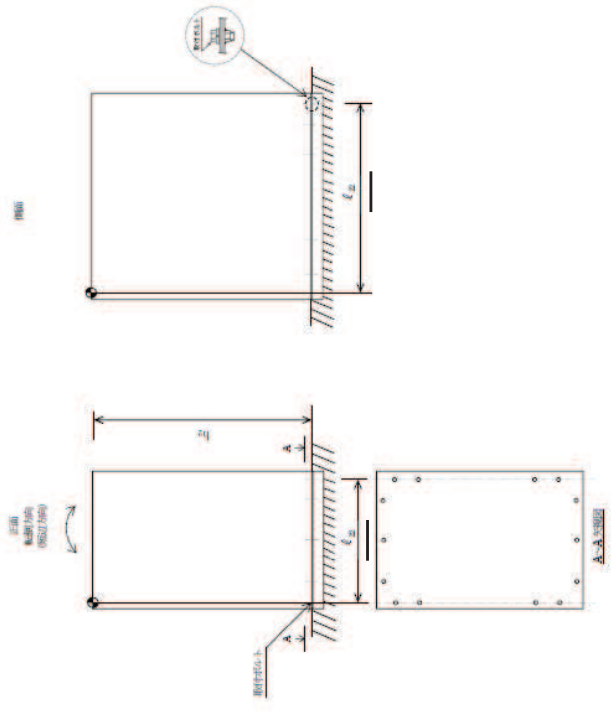
変更前		変更後		備考
O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-32 R 0	表 2-1 構造計画	O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-32 R 1	表 2-1 構造計画	
計画の概要	概略構造図	計画の概要	概略構造図	
<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>125V 直流 RCIC モータコントロールセンタは、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組                      み合わせた自立閉鎖                      型の盤)</p>	<p><b>基礎・支持構造</b></p> <p>125V 直流 RCIC モータコントロールセンタは、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。</p>	<p><b>主体構造</b></p> <p>直立形                      (鋼材及び鋼板を組                      み合わせた自立閉鎖                      型の盤であり、列盤                      構造である。)</p>	
42		43		記載の適正化

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-32 125V直流RCICモータコントロールセンタの耐震性についての計算書】

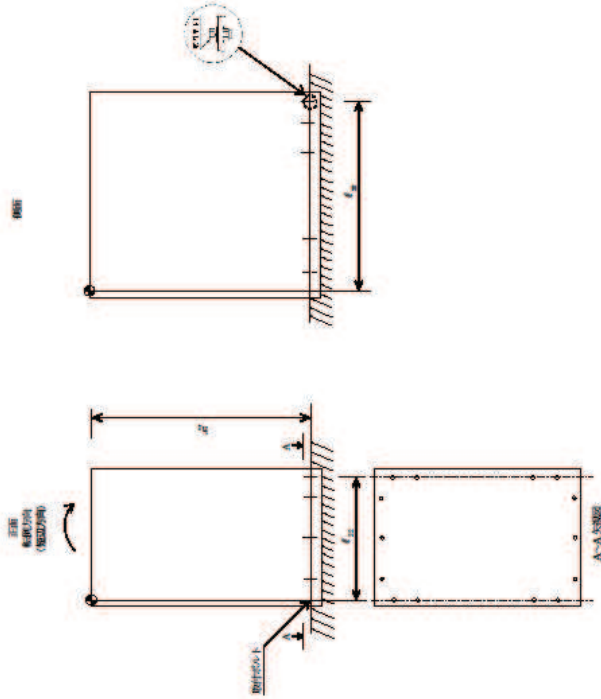
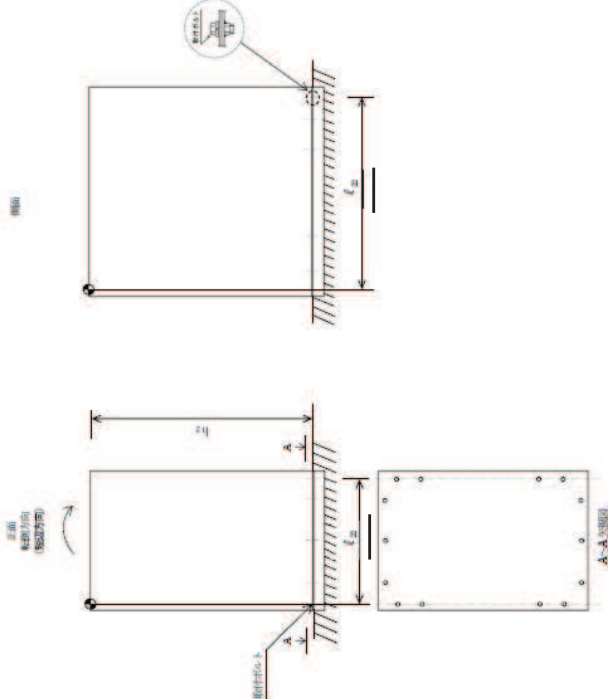
変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-32 R.1</p>  <p>12</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-32 R.2</p>  <p>12</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-32 R1E</p> <p>正面 転倒方向 (奥辺方向)</p> <p>取付ボルト</p> <p>h<sub>23</sub></p> <p>A-A断面図</p> <p>15</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-32 R2E</p> <p>正面 転倒方向 (奥辺方向)</p> <p>取付ボルト</p> <p>h<sub>23</sub></p> <p>A-A断面図</p> <p>15</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

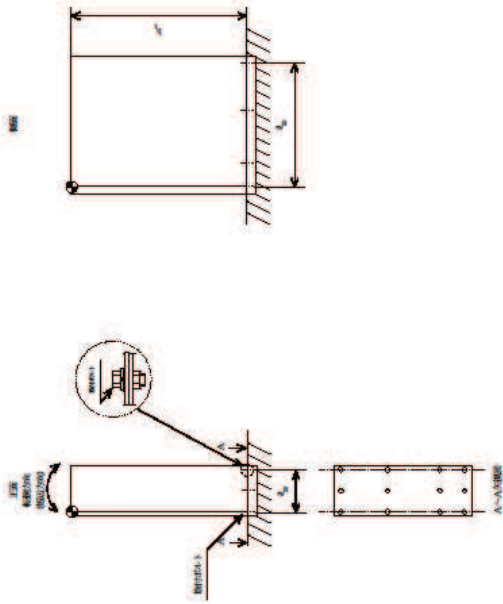
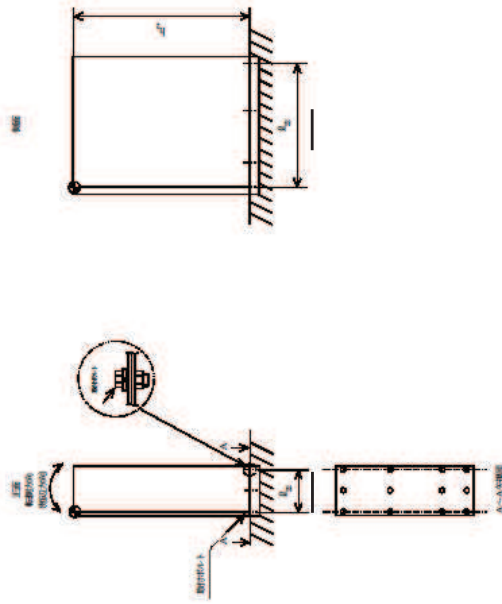
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-33 125V充電器2Hの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-33 R.1</p>  <p>12</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-33 R.2</p>  <p>12</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

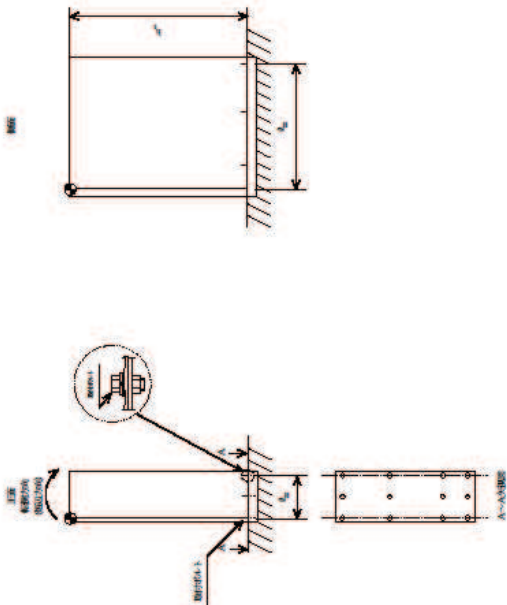
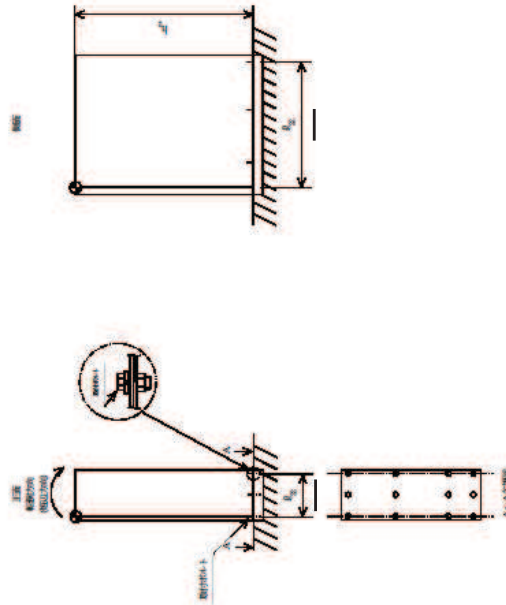
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-33 125V充電器2Hの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-33 R.1 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-33 R.2 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

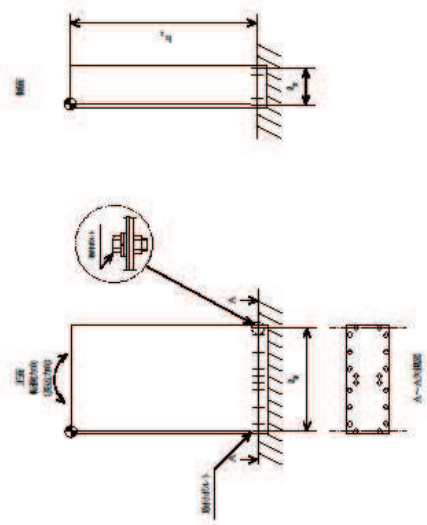
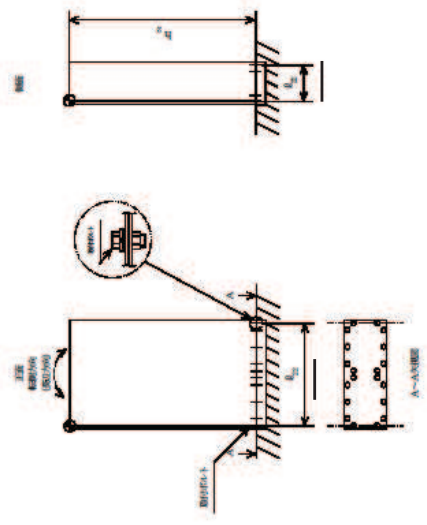
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-34 125V直流主母線盤2Hの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-34 R 1</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-34 R 2</p>  <p style="text-align: center;">13</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-34 125V直流主母線盤2Hの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="232 719 255 979">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-34 R.1</p>  <p data-bbox="600 1358 622 1374">16</p>	<p data-bbox="1120 719 1142 979">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-34 R.2</p>  <p data-bbox="1489 1358 1512 1374">16</p>	<p data-bbox="1960 683 2083 707">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 1026 2083 1050">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-34 125V直流主母線盤2Hの耐震性についての計算書】

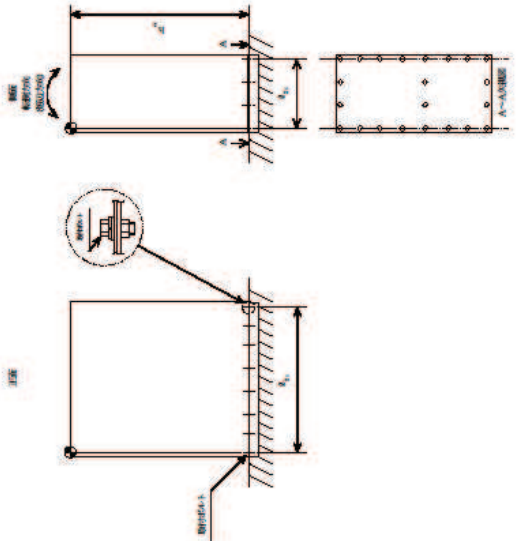
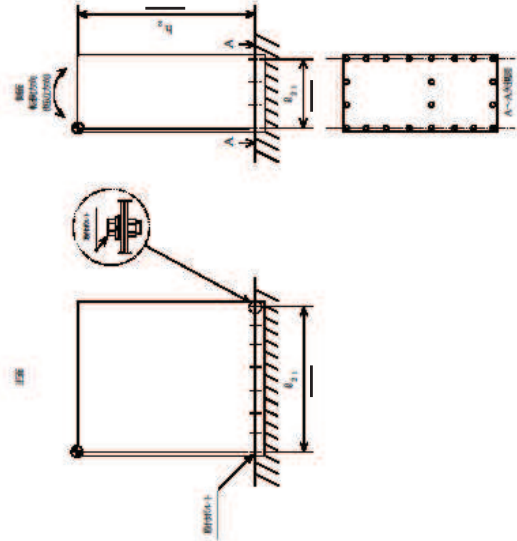
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-34 R 1</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-34 R 2</p>  <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

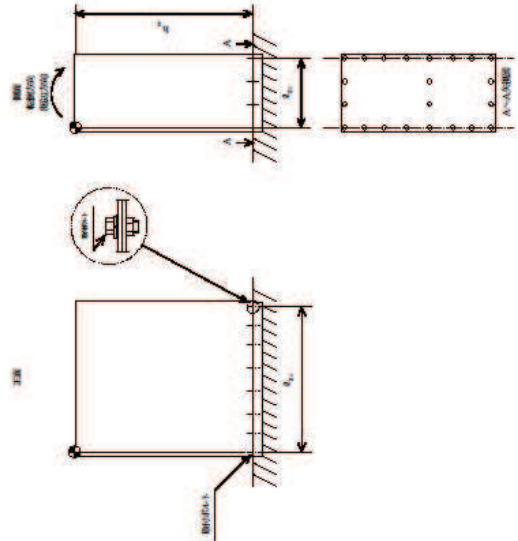
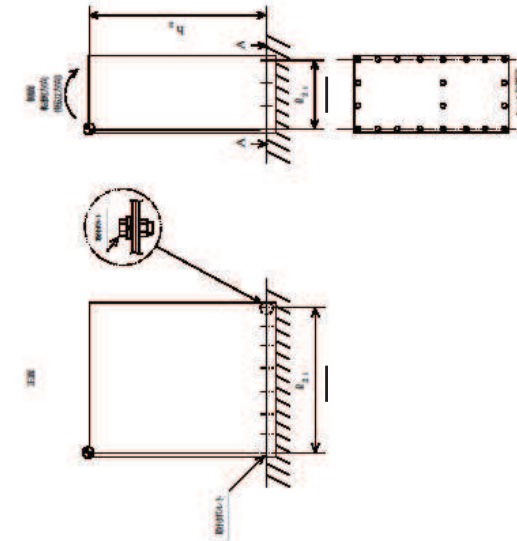


女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-34 125V直流主母線盤2Hの耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-34 R 1 E</p> <p style="text-align: center;">22</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-34 R 2 E</p> <p style="text-align: center;">23</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-35 125V直流分電盤2Hの耐震性についての計算書】

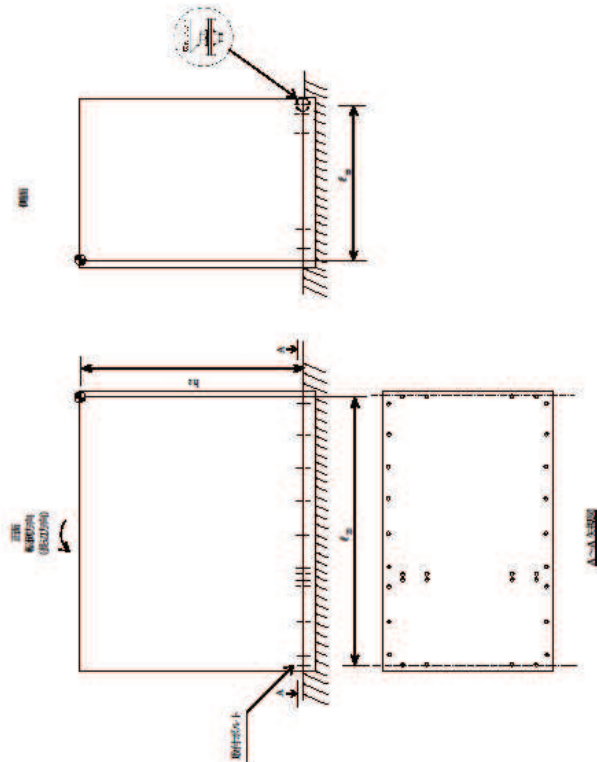
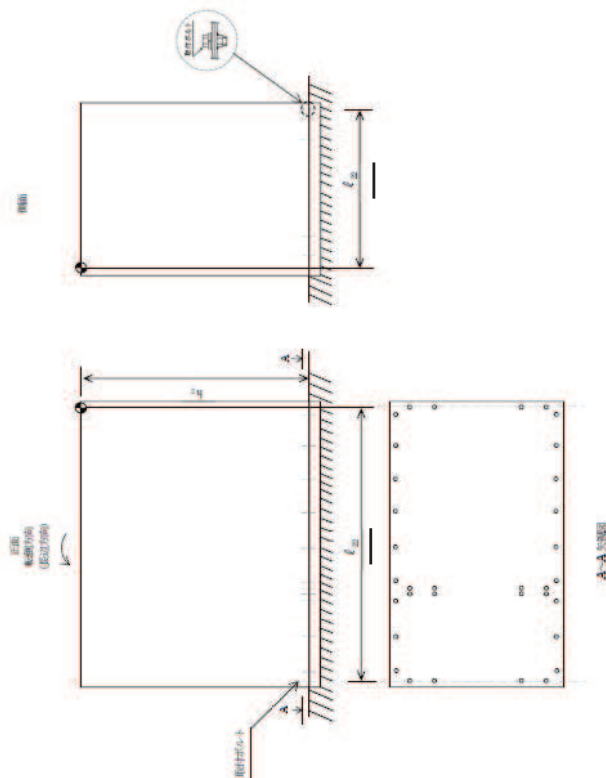
変更前	変更後	備考
<p data-bbox="232 730 255 986">O.2 ⑤ VI-2-10-1-4-35 R.1</p>  <p data-bbox="600 1364 622 1380">12</p>	<p data-bbox="1137 730 1160 986">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-35 R.2</p>  <p data-bbox="1496 1364 1518 1380">12</p>	<p data-bbox="1960 571 2083 595">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 683 2083 707">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 946 2083 970">記載の適正化</p>

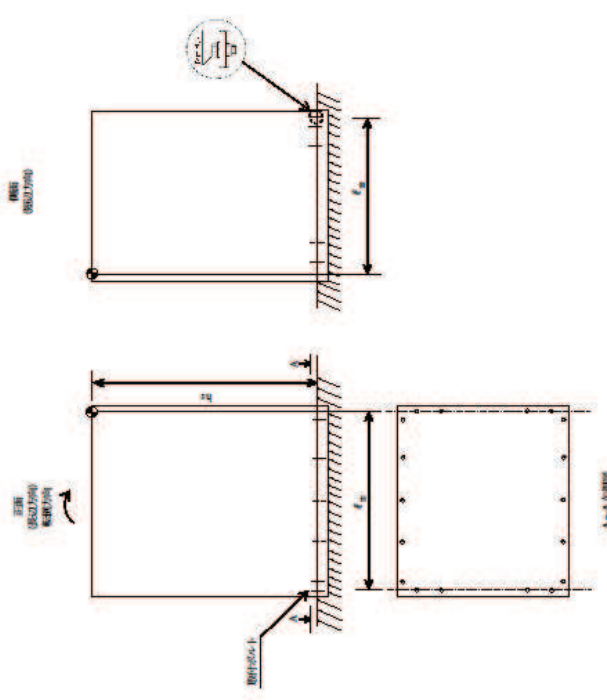
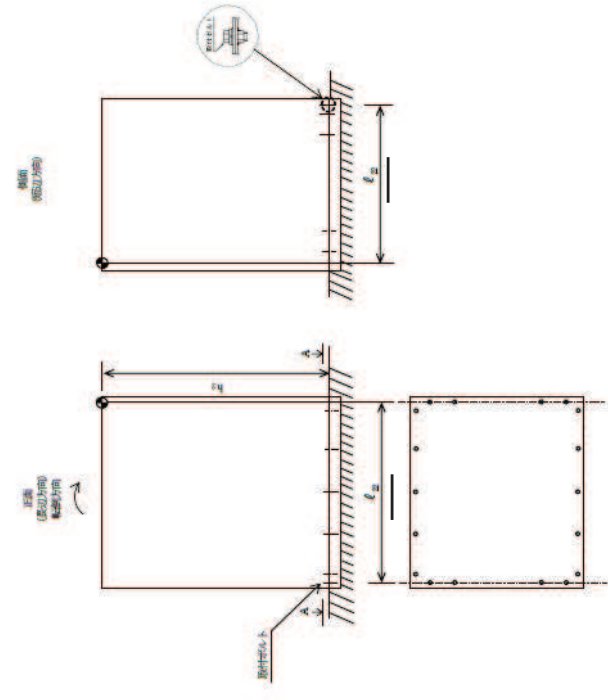
変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-35 R 1 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-35 R 2 E</p>  <p style="text-align: center;">15</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-36 125V代替充電器の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-36 R 1</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-36 R 2</p> <p style="text-align: center;">12</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

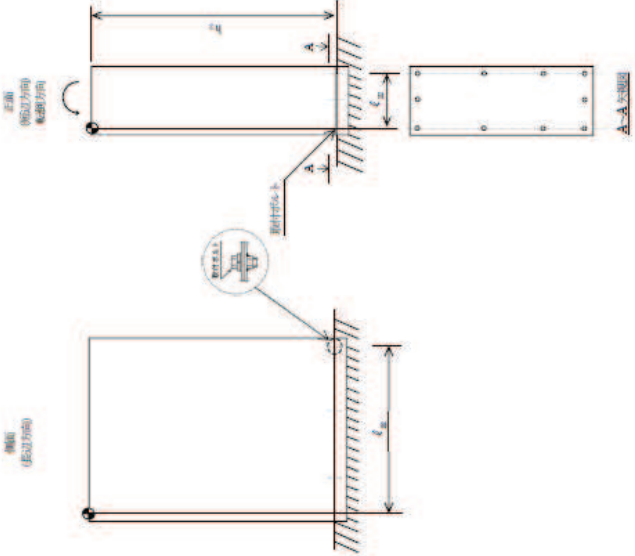
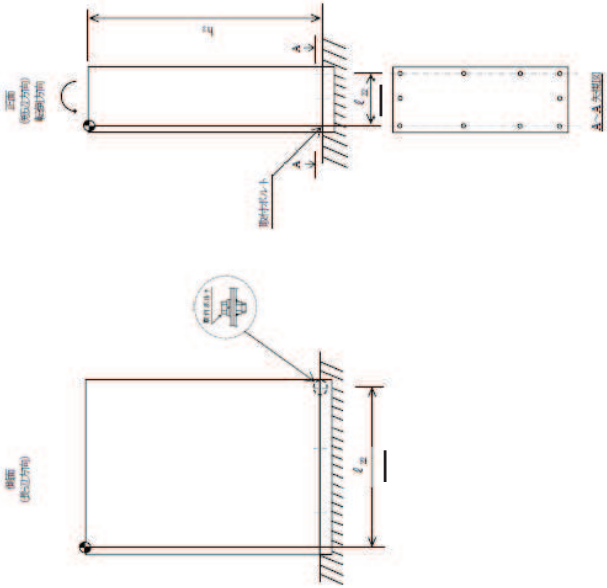
女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-36 125V代替充電器の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-36 R1E</p>  <p>13</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-36 R2E</p>  <p>13</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	備考
<p>O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-37 R 0 E</p>  <p>12</p>	<p>O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-37 R 1 E</p>  <p>12</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

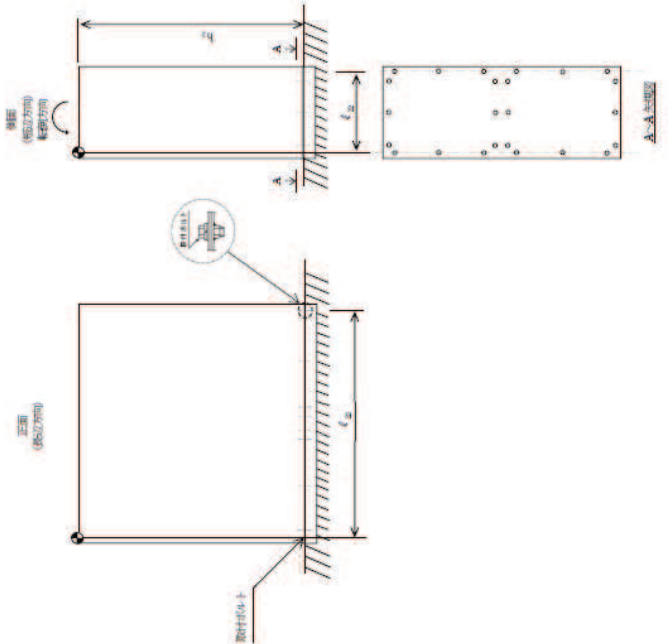
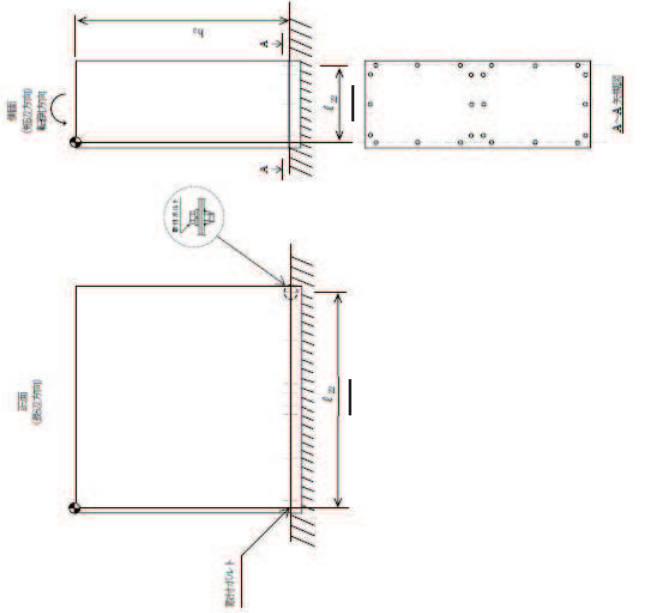
変更前	変更後	備考												
<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-38 R 0</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)                 </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">計画みの内容は設置機種の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<b>基礎・支持構造</b> 250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)		<p style="text-align: center;">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-38 R 1</p> <p style="text-align: center;">表 2-2 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">計画の概要</th> <th>概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> <b>基礎・支持構造</b>                      250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。                 </td> <td style="width: 30%;"> <b>主体構造</b>                      直立形                      (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)                 </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">計画みの内容は設置機種の観点から公開できません。</p>	計画の概要		概略構造図	<b>基礎・支持構造</b> 250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
<b>基礎・支持構造</b> 250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤)													
計画の概要		概略構造図												
<b>基礎・支持構造</b> 250V 直流主母線盤のうち 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 3 盤～第 4 盤および 250V 直流主母線盤 (MCC 部) 第 5 盤～第 10 盤は、基礎に埋め込まれたチャンネルベースに取付ボルトで設置する。	<b>主体構造</b> 直立形 (鋼材及び鋼板を組み合わせた自立閉鎖型の盤であり、列盤構造である。)													

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-38 250V直流主母線盤の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="224 667 250 948">O 2 ⑥ VI-2-10-1-4-38 R 1</p>  <p data-bbox="631 1369 658 1388">13</p>	<p data-bbox="1086 715 1113 986">O 2 ⑦ VI-2-10-1-4-38 R 2</p>  <p data-bbox="1473 1385 1500 1404">13</p>	<p data-bbox="1960 606 2083 630">記載の適正化</p> <p data-bbox="1960 981 2083 1005">記載の適正化</p>



女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-38 250V直流主母線盤の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p>O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-38 R.1</p>  <p>16</p>	<p>O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-38 R.2</p>  <p>16</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

女川原子力発電所第2号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表  
 【VI-2-10-1-4-38 250V直流主母線盤の耐震性についての計算書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">O.2 ⑥ VI-2-10-1-4-38 R.0 E</p> <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">O.2 ⑦ VI-2-10-1-4-38 R.1 E</p> <p style="text-align: center;">19</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>